

SD 7・13 A-A' B-B'

- | | | |
|---------|----------------------|-----------------|
| 1 褐色土 | 均質 黄褐色土粒少 | 粘性弱 |
| 2 褐色土 | 黄褐色土粒微量 | 粘性弱 |
| 3 黄褐色土 | 黄褐色土ブロック主体層 | しまり強 |
| 4 暗褐色土 | 地山ブロック(0.5cm)少 | 地山粒やや多 しまり強 粘性弱 |
| 5 暗黄褐色土 | 地山ブロック(1.0~2.0cm)やや多 | 地山粒やや多 しまり強 粘性弱 |

SD 8 C-C'

- | | | |
|-------|-----------|-----|
| 1 褐色土 | 均質 しまりやや強 | 粘性弱 |
|-------|-----------|-----|

SD 105 N-N'

- | | | |
|--------|----------------------|---------------|
| 1 暗褐色土 | 地山ブロック(0.5cm)やや多 | 地山粒少 |
| 2 暗褐色土 | 地山ブロック(0.5~2.0cm)やや多 | 地山粒少 しまり強 粘性弱 |

第229図 溝跡断面図(3)

深さ0.18～0.41m、断面形は逆台形と推定される。方位はN-70°-WとN-20°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第22号溝跡(第239・240・247図)

B・C-20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、北は途切れ、南は攪乱で失われている。規模は、全長11.83m、上場幅0.38～0.55m、下場幅0.11～0.39m、深さ0.20～0.36m、断面形は碗状に近い。方位はN-50°-Eを指す。

出土遺物のうち図化できたのは、土師器・磁器など4点(107～110)である。なお、この他に瀬戸・美濃系の陶器香炉(17C後半か)・瓶(18C)、肥前系の陶器鉢・皿(17C後半～18C前半)等の小破片が出土した。

第23号溝跡(第239・240・247図)

A・B-20・21グリッドに位置する。第25号溝跡と第12号井戸跡に切られているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は弧状で、南は途切れ、北は調査区外に続く。規模は、全長4.53m、上場幅0.85～1.63m、下場幅0.38～1.15m、深さ0.48m、断面形は逆台形に近い。方位は概ねN-35°-Wを指す。

図化できた遺物は土師器・磁器ほか、計6点(111～116)である。

第24号溝跡(第239・240図)

A-21、B-21・22グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、南は途切れ、北は調査区外に続く。規模は、全長11.23m、上場幅0.33～0.55m、下場幅0.15～0.39m、深さ0.17m、断面形は碗状である。方位はN-67°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第25号溝跡(第239・240図)

A-20・21、B-20グリッドに位置する。第23号溝跡を切っているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、南端部付近で僅かに曲がる。南は途切れ、北は調査区外に続く。規模は、全長7.05m、上場幅0.35～0.41m、下場幅0.18～0.31m、深さ0.20～0.24m、断面形は概ね逆台形である。方位はN-21°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第26号溝跡(第235・236・239・240・248図)

B-21、C・D-20・21グリッドに位置する。第32号井戸跡に切られているが、その他の重複遺

構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、南は途切れ、北は調査区外に続く。規模は、全長29.42m、上場幅0.72～1.10m、下場幅0.58～0.83m、深さ0.23～0.30m、断面形は概ね逆台形である。方位はN-32°-Eを指す。

図化できた遺物は3点(118～120)である。なお、この他に信楽系の陶器播鉢(18C)、常滑系の陶器甕等の小破片が出土した。

第28号溝跡(第239・240・247図)

A-21・22、B-22グリッドに位置する。第29号溝跡を切り、第317号土壌とピットに切られているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は緩やかな「S」字状で、両端とも途切れる。規模は、全長7.52m、上場幅0.35～0.55m、下場幅0.20～0.32m、深さ0.15～0.30m、断面形は概ね逆台形である。方位はN-16°-Wを指す。

図化できた遺物は、陶器碗1点(117)である。

第29号溝跡(第239・240・248図)

A-21・22グリッドに位置する。第28号溝跡と第42号土壌に切られているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも調査区外に続く。規模は、全長10.50m、上場幅0.25～0.69m、下場幅0.15～0.39m、深さ0.25～0.32m、断面形は逆台形である。方位はN-68°-Wを指す。

須恵器の坏1点(121:9世紀第3四半期)が出土した。なお、この他に常滑系の陶器甕の小破片が出土した。

第30号溝跡(第239・240図)

A・B-22グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、北は途切れ、南は調査区外に続く。規模は、全長6.58m、上場幅0.30～0.33m、下場幅0.11～0.15m、深さ0.13m、断面形は碗状である。方位はN-19°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第31号溝跡(第239・240図)

A-22グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、北は途切れ、南は調査区外に続く。規模は、全長1.58m、上場幅0.49～0.65m、下場幅0.20～0.35m、深さ0.18m、断面形は碗状である。方位はN-62°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第32号溝跡(第239・240・248図)

A-21グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、南は途切れ、北は調査区外に続く。規模は、全長0.62m、上場幅1.10m、下場幅0.70m、深さ0.78m、断面形は「U」字状である。方位はN-27°-Wを指す。

図化できた遺物は6点(122～127)である。なお、この他に瀬戸・美濃系の陶器皿(17Cか)・甕(19C前半か)、肥前系の磁器碗(18C中頃か)等の小破片が出土した。

第34号溝跡(第239・240図)

A・B-21グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、北は途切れ、南は調査区外に続く。規模は、全長6.58m、上場幅0.25～0.80m、下場幅0.18～0.65m、深さ0.15m、断面形は碗状である。方位はN-60°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第35号溝跡(第239・240図)

B-20グリッドに位置する。第37号溝跡に切られているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長6.38m、上場幅1.70m、下場幅1.60m、深さ0.13～0.19m、断面形は皿状である。方位はN-33°-Eを指す。

図化には至らなかったが、瀬戸・美濃系の陶器播鉢(17C代か)の小破片が出土した。

第37号溝跡(第239～241図)

B-20グリッドに位置する。第35・38号溝跡を切るが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長3.13m、上場幅0.58～1.73m、下場幅0.38～1.49m、深さ0.12～0.17m、断面形は皿状である。方位はN-53°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第38号溝跡 (第239・241図)

B-19・20グリッドに位置する。第2号周溝状遺構を切り、第37号溝跡に切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、東は途切れ、西は攪乱を受ける。規模は、全長10.63m、上場幅0.40～0.88m、下場幅0.31～0.70m、深さ0.25m、断面形は皿状である。方位はN-65°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第39号溝跡 (第239・241図)

B-20グリッドに位置する。第2号周溝状遺構を切るが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長2.78m、上場幅0.40m、下場幅0.30m、深さ0.22～0.30m、断面形は碗状である。方位はN-31°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第40号溝跡 (第235～237・248図)

B-19、C-19・20、D-20グリッドに位置する。第17号溝跡を切り、第1号溝跡と第104号土壙に切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、西は攪乱を受け、東は途切れる。規模は、全長18.92m、上場幅1.00～1.66m、下場幅0.50～0.93m、深さ0.56～0.70m、断面形は碗状もしくは逆台形である。方位はN-43°-Wを指す。

図化できた遺物は3点(128～130)である。

第41号溝跡 (第235・237・242・248～250図)

D-18・19、E-18グリッドに位置する。第19号井戸跡に切られるが、その他の重複遺構との新

旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長9.32m、上場幅0.76～1.45m、下場幅0.38～1.11m、深さ0.41～0.70m、断面形は概ね逆台形である。方位はN-40°-Eを指す。

図化できた遺物は16点(131～134・149～152・159～161・163～166・176：7世紀第1四半期)である。なお、この他に瀬戸・美濃系の天目碗(17C代)の小破片が出土した。

第42号溝跡 (第235・237・242・248図)

B-17、C-17・18、D-18・19グリッドに位置する。第7号周溝状遺構を切り、第43号溝跡と第17号井戸跡に切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は比較的直線状で、東は途切れ、西は調査区外に続く。規模は、全長27.72m、上場幅0.65～1.03m、下場幅0.15～0.51m、深さ0.43～0.60m、断面形は概ね逆台形である。方位はN-54°-Wを指す。

図化できた遺物は4点(135～138：6世紀第4四半期)である。なお、図化には及ばなかったが、瀬戸・美濃系の天目碗(18C中頃か)の小破片が出土した。

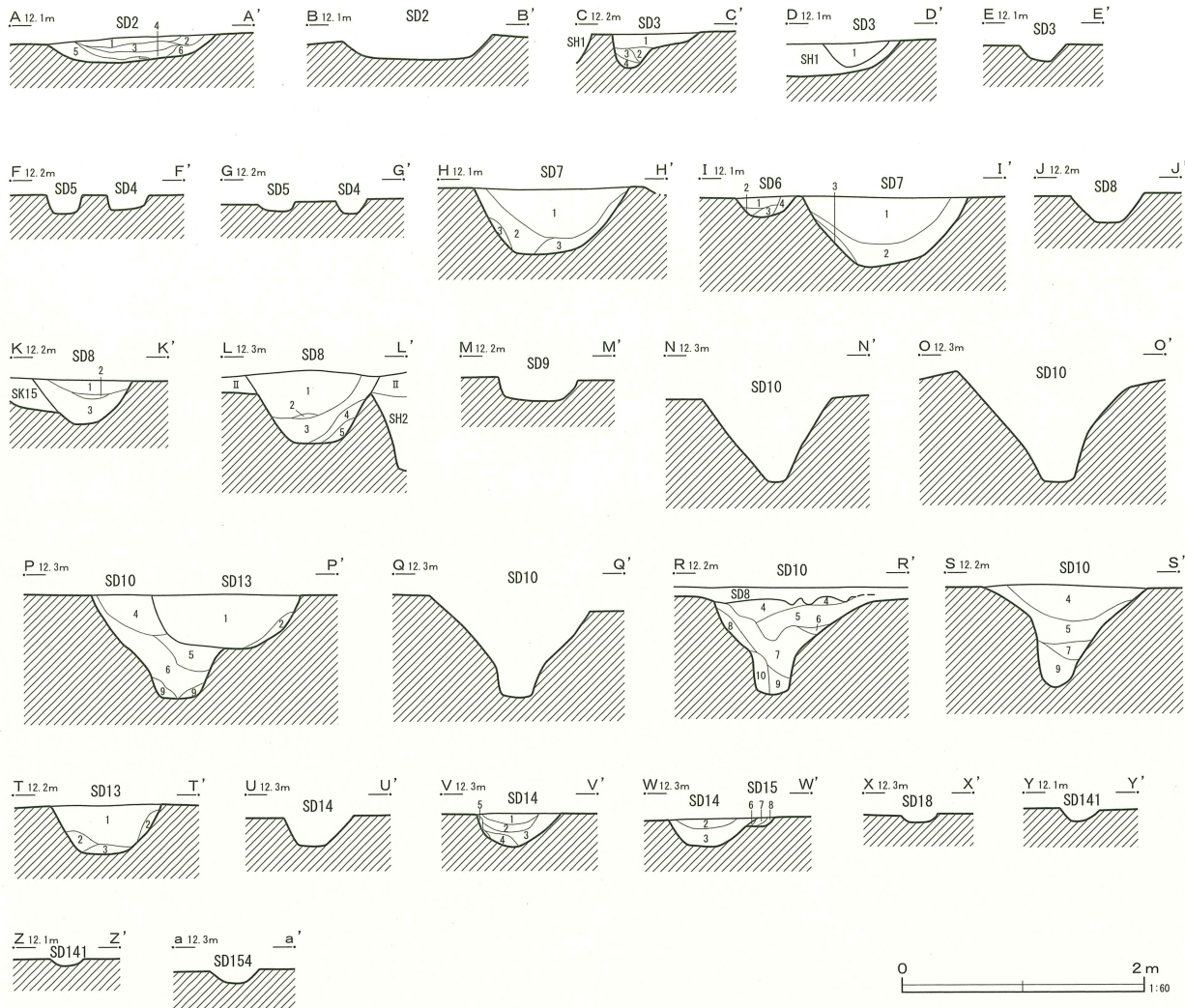
第43号溝跡 (第235・237・242・248～250図)

B-17、C-17・18、D-18・19グリッドに位置する。第42号溝跡、第3号周溝状遺構を切り、第57号掘立柱建物跡P2、第17・45号井戸跡、ピットに切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は比較的直線状で、東は途切れ、西は調査区外に続く。規模は、全長28.85m、上場幅0.81～2.35m、下場幅0.72～2.15m、深さ0.13～0.54m、断面形は碗状である。方位はN-55°-Wを指す。

図化できた遺物は39点(139～148・153～158・162・167～175・177～189：7世紀第1四半期)である。この他に、瀬戸・美濃系の陶器皿・天目碗・鉢(17～18C代)、肥前系の磁器碗・皿、陶器皿(17C後葉～18C代)の小破片が出土した。



第230图 沟迹区割图(4)



- SD 2 A-A'**
- | | | |
|---|-------|-----------------------|
| 1 | 灰褐色土 | 黄褐色土ブロック・黒色土少 |
| 2 | 暗黄褐色土 | 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック多 |
| 3 | 灰黒褐色土 | 黒色土主体層 黄褐色土ブロック少 |
| 4 | 灰黒褐色土 | 黒色土主体層 黄褐色土ブロック微量 |
| 5 | 黄褐色土 | 黄褐色土ブロック主体層 黒色土少 しまり強 |
| 6 | 灰褐色土 | 黄褐色土ブロック少 しまりやや強 |

- SD 3 C-C' D-D'**
- | | | |
|---|-------|----------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒少 |
| 2 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック少 しまり強 |
| 3 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒微量 |
| 4 | 暗黄褐色土 | 黒色土・黄褐色土斑文状に少 しまりやや強 |

- SD 6 I-I'**
- | | | |
|---|-------|-------------|
| 1 | 灰黒褐色土 | 黄褐色土粒少 |
| 2 | 黄褐色土 | 黄褐色土ブロック少 |
| 3 | 暗黄褐色土 | 黄褐色土粒多 |
| 4 | 黄褐色土 | 黄褐色土ブロック主体層 |

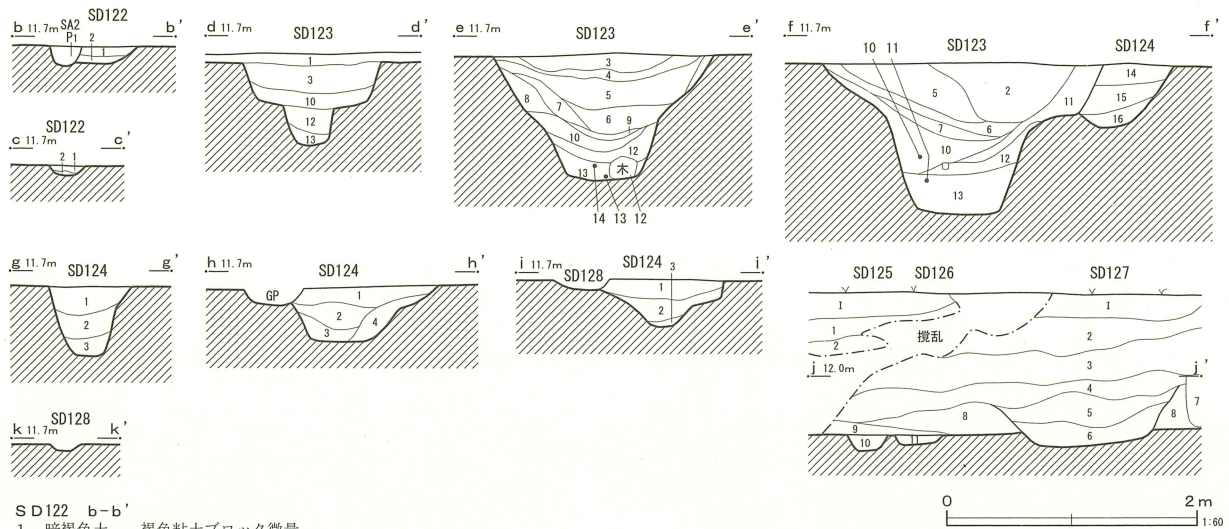
- SD 7 H-H' I-I'**
- | | | |
|---|------|----------------------|
| 1 | 褐色土 | 焼土粒微量 均質 しまり強 |
| 2 | 褐色土 | 黄褐色土ブロック少 |
| 3 | 黄褐色土 | 黄褐色土ブロック主体層 側壁への流れ込み |

- SD 8 K-K' L-L'**
- | | | |
|----|------|-------------------|
| II | 暗褐色土 | 遺物包含層 |
| 1 | 褐色土 | 均質 しまりやや強 粘性弱 |
| 2 | 緑灰色土 | 粘土層 |
| 3 | 褐色土 | 黄褐色土粒微量 均質 しまりやや強 |
| 4 | 黄褐色土 | 黒色土ブロック少 |
| 5 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック少 |

- SD 10-13 P-P' R-R' ~ T-T'**
- | | | |
|----|------|-----------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 黄褐色土粒少 しまりやや強 |
| 2 | 黒褐色土 | 黄褐色土ブロック少 しまりやや強 |
| 3 | 黄褐色土 | 黄褐色土主体層 しまりやや強 |
| 4 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック微量 しまりやや強 粘性強 |
| 5 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック・焼土粒微量 粘性強 |
| 6 | 灰褐色土 | 灰白色粒若干 |
| 7 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック若干 しまり強 |
| 8 | 灰褐色土 | 灰白色ブロック若干 |
| 9 | 黒褐色土 | 地山灰褐色土ブロック若干 しまり・粘性強 |
| 10 | 黄褐色土 | 地山壁・黄褐色土の流れ込み しまり強 |

- SD 14-15 V-V' W-W'**
- | | | |
|---|-------|-------------------------|
| 1 | 褐色土 | 砂質 均質 しまり弱 |
| 2 | 褐色土 | 黒色土ブロック若干 砂質 しまり弱 |
| 3 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック・黒色土ブロック若干 しまり弱 |
| 4 | 黒褐色土 | 黄褐色土ローム・黒色土微量 しまり弱 |
| 5 | 黄褐色土 | 地山黄褐色土ローム主体層 しまり弱 |
| 6 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒少 |
| 7 | 黒褐色土 | 黄褐色土粒微量 |
| 8 | 暗黄褐色土 | 黄褐色土粒多 |

第231図 溝跡断面図(4)



SD122 b-b'
 1 暗褐色土 褐色粘土ブロック微量
 2 暗褐色土 褐色粘土ブロックやや多 焼土ブロック微量

SD123-124 d-d' ~ f-f'
 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック微量
 2 褐色土 黄褐色土ブロック・酸化鉄少 別の溝跡か
 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック・灰色土ブロック・酸化鉄少
 4 灰褐色土 黄褐色土ブロック・酸化鉄多 炭化物少
 5 褐色土 1層に近似 黒褐色土・黄褐色土ブロックやや多 酸化鉄微量
 6 褐色土 1層に近似 黒褐色土ブロック
 ・黄褐色土ブロックやや多 酸化鉄少
 7 暗褐色土 黄褐色土ブロック・酸化鉄少
 8 褐色土 黄褐色土ブロック・灰色土ブロック多 壁崩落土
 9 灰色土 酸化鉄多 粘性強
 10 灰褐色土 黄褐色土ブロック多 酸化鉄少
 11 明褐色土 酸化鉄・黄褐色土ブロック多
 12 黄灰色土 黄褐色土ブロック多
 13 暗灰褐色土 黄褐色土ブロックやや多 酸化鉄多 粘性強
 14 明褐色土 黄褐色土ブロック・酸化鉄微量
 15 暗褐色土 黄褐色土ブロック・灰色土ブロック・酸化鉄少
 16 暗褐色土 黄褐色土ブロック・酸化鉄多

SD124 g-g' ~ i-i'
 1 暗褐色土 褐色土ブロック微量 しまり弱
 2 暗褐色土 黄褐色土やや多
 3 暗褐色土 黄褐色土少
 4 暗褐色土 黄褐色土多

SD125・126・127 j-j'
 I 耕作土
 1 灰色土 炭化物少 砂質
 2 暗褐色土 炭化物・焼土粒少
 3 褐色土 黒色土ブロックやや多
 4 褐色土 黒色土ブロック多 黄褐色土ブロック少
 5 明褐色土 黄褐色土ブロックやや多
 6 暗褐色土 焼土粒・灰色土ブロック微量 (SD127)
 7 暗褐色土 褐色土ブロックやや多 炭化物多 (SD127)
 8 暗褐色土 黄褐色土ブロック多 灰褐色土ブロックやや多
 9 暗褐色土 黄褐色土ブロック多 酸化土やや多
 10 灰褐色土 地山ブロックやや多 (SD125)
 11 暗灰褐色土 地山粒子・地山ブロック微量 (SD126)

第232図 溝跡断面図 (5)

第44号溝跡 (第239・241図)

C-21グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長1.15m、上場幅0.43~0.51m、下場幅0.13~0.30m、深さ0.22m、断面形は概ね逆台形である。方位はN-77°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第45号溝跡 (第235・237図)

B・C-19グリッドに位置する。第106号土壌を切るが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、両端とも途切れ、土壌に近い。規模は、全長3.29m、上場幅0.95~1.05m、下場幅0.75~0.81m、深さ0.33m、断面形は概ね逆台形である。方位はN-65°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第46号溝跡 (第239・241・250図)

C-21グリッドに位置する。第18号井戸跡に切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、南は途切れ、北は調査区外に続く。規模は、全長3.10m、上場幅1.05~1.30m、下場幅0.83~0.91m、深さ0.23m、断面形は皿状である。方位はN-50°-Eを指す。

図化できた遺物は2点 (190・191) である。なお、この他に瀬戸・美濃系の陶器鉢の小破片が出土した。

第48号溝跡 (第235・237・250図)

C-17・18、D-17グリッドに位置する。重複遺構すべてに切られていると推定される。平面形は緩やかに蛇行し、両端とも途切れる。規模は、全長9.12m、上場幅0.40~1.60m、下場幅0.19~1.32m、深さ0.13~0.31m、断面形は皿状もしくは

は逆台形である。方位はN-43° -Wを指す。

図化できた遺物は1点(192)である。

第50号溝跡(第239・241図)

B-21グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、西は途切れ、東は調査区外に続く。規模は、全長6.52m、上場幅0.45～0.60m、下場幅0.21～0.35m、深さ0.17m、断面形は皿状または碗状である。方位はN-65° -Wを指す。

図化には至らなかったが、18C代の肥前系磁器碗の小破片が出土した。

第51号溝跡(第239・241図)

B-20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長7.00m、上場幅0.51～0.75m、下場幅0.43～0.63m、深さ0.15～0.54m、断面形は皿状または碗状である。方位はN-66° -Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第54号溝跡(第233・234・250図)

D-16、E-16・17、F-17・18、G-18グリッドに位置する。ピット、第9号周溝状遺構、第74号溝跡、第68号井戸跡を切り、第56号溝跡、第69号井戸跡、第65号掘立柱建物跡P1・4に切られているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形はほぼ直線状で、南は途切れ、北は調査区外に続く。規模は、全長34.12m、上場幅0.43～0.92m、下場幅0.22～0.60m、深さ0.23～0.61m、断面形は碗状もしくは逆台形である。方位はN-31° -Wを指す。

図化できた遺物は7点(193～199)である。

第55号溝跡(第235・237・250・251図)

C・D-17グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。一部、攪乱を受けており、残存部の平面形は「く」の字状で、両端ともに途切れる。規模は、全長5.50m、上場幅0.65～1.35m、下場幅0.45～1.08m、深さ0.12m、断

面形は凹凸のある皿状である。方位はN-60° -WとN-53° -Eを指す。

図化できた遺物は5点(200～204:6世紀第3四半期)である。

第56号溝跡(第233～237・251図)

E-17～19、F-16～18グリッドに位置する。ピットと第54・181号溝跡を切り、第1号溝跡、第58号井戸跡に切られる。その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。西は攪乱を受け、東は途切れる。平面形はほぼ直線状である。規模は、全長33.23m、上場幅0.39～0.82m、下場幅0.15～0.34m、深さ0.10～0.38m、断面形は碗状もしくは逆台形である。方位はN-80° -Eを指す。

図化できた遺物は3点(205～207)である。

第57号溝跡(第233・234・251図)

F-16・17グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。両端とも途切れる。平面形はほぼ直線状である。規模は、全長11.66m、上場幅0.55～0.94m、下場幅0.28～0.60m、深さ0.19～0.23m、断面形は皿状もしくは碗状である。方位はN-71° -Wを指す。

図化できた遺物は5点(208～212)である。なお、この他に瀬戸・美濃系の陶器鉢・天目碗・菊皿(17・18C)・磁器碗(19C)、肥前系の磁器碗(18C)等の小破片が出土した。

第59号溝跡(第233・234・251図)

D-15グリッドに位置する。第355号土壌に切られ、第68号掘立柱建物跡P9とピットを切っているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。北は調査区外に続き、南は攪乱を受けている。平面形は逆「く」の字状である。規模は、全長5.15m、上場幅1.61～2.50m、下場幅1.05～2.08m、深さ0.18～0.34m、断面形は皿状で、方位はN-50° -WとN-11° -Eを指す。

図化できた遺物は3点(213～215:7世紀第2四半期)である。なお、この他に肥前系の磁器

碗(18C前半)の小破片が出土した。

第60号溝跡(第239・241図)

B-20・21グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長4.30m、上場幅0.35～0.62m、下場幅0.25～0.53m、深さ0.18m、断面形は碗状または逆台形である。方位はN-64°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第61号溝跡(第239・241図)

B-20・21グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長9.53m、上場幅0.43～0.52m、下場幅0.22～0.28m、深さ0.11～0.23m、断面形は碗状である。方位はN-64°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第62号溝跡(第235～237図)

D-19・20グリッドに位置する。第1号溝跡に切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長8.90m、上場幅0.65～1.02m、下場幅0.45～0.78m、深さ0.26～0.33m、断面形は碗状である。方位はN-62°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第64・70号溝跡(第235～237・251図)

E-19・20、F-19グリッドに位置する。別々に命名したが、同一の遺構と判断した。第21・71・72号溝跡、第60号井戸跡、第117号土壇を切り、第11号周溝状遺構に切られているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は歪んだ「L」字状で、西は途切れ、東は調査区外に続く。規模は、全長20.13m、上場幅0.92～2.18m、下場幅0.68～1.95m、深さ0.20～0.35m、断面形は碗状または逆台形である。方位はN-52°-WとN-44°-Eを指す。

遺物は第70号溝跡から4点(218～221)出土

している。

第65号溝跡(第239・241図)

A-20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、南は途切れ、北は調査区外に続く。規模は、全長0.85m、上場幅0.71m、下場幅0.33m、深さ0.33m、断面形は碗状である。方位はN-16°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第66号溝跡(第235・237図)

C-16・17グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、南は攪乱を受け、北は途切れる。規模は、全長5.18m、上場幅0.60～0.73m、下場幅0.35～0.45m、深さ0.18m、断面形は皿状である。方位はN-29°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第67号溝跡(第233・235・237図)

C-16・17グリッドに位置する。第50号井戸跡に切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、南は途切れ、北は調査区外に続く。規模は、全長9.90m、上場幅0.25～0.93m、下場幅0.15～0.68m、深さ0.32m、断面形は皿状である。方位はN-44°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第68号溝跡(第235・237図)

C-17グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長6.48m、上場幅0.31～0.73m、下場幅0.13～0.50m、深さ0.15m、断面形は皿状である。方位はN-62°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第69号溝跡(第233～235・251図)

D-16・17グリッドに位置する。第38号井戸跡に切られているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、

西は攪乱を受け、東は途切れる。規模は、全長2.90m、上場幅0.25～1.32m、下場幅0.15～0.92m、深さ0.58m、断面形は片側に段を持つ「U」字状である。方位はN-50°-Wを指す。

図化できた遺物は2点(216・217)である。

第71号溝跡(第235～237図)

E・F-20グリッドに位置する。第21・73号溝跡、ピットを切り、第121号土壇、第64・70号溝跡に切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、北は途切れ、南は調査区外に続く。規模は、全長13.88m、上場幅0.68～0.98m、下場幅0.15～0.63m、深さ0.08～0.35m、断面形は皿状もしくは碗状である。方位はN-5°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。他遺構との重複関係から、6世紀第4四半期と推定される。

第72号溝跡(第235・236図)

E・F-20グリッドに位置する。第60号井戸跡を切り、第64・70号溝跡に切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長3.72m、上場幅0.22～0.32m、下場幅0.10～0.18m、深さ0.48m、断面形は逆台形と推定される。方位はN-18°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第73号溝跡(第235～237・251図)

E-20、F-19・20グリッドに位置する。第21・71号溝跡、第121号土壇に切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね「く」の字状で、北は途切れ、南は調査区外に続く。規模は、全長7.28m、上場幅0.62～0.93m、下場幅0.28～0.70m、深さ0.23m、断面形は皿状である。方位はN-20°-WとN-23°-Eを指す。

図化できた遺物は1点(222)である。

第74号溝跡(第233・234・252図)

D・E-16、F-15・16グリッドに位置する。

第54・125号土壇に切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに攪乱を受けている。規模は、全長41.65m、上場幅0.48～0.92m、下場幅0.28～0.68m、深さ0.21～0.40m、断面形は碗状もしくは「U」字状である。方位はN-22°-Eを指す。

図化できた遺物は5点(223～227)である。なお、この他に瀬戸・美濃系の陶器碗・皿・播鉢(17C後半～18C代)の小破片が出土した。

第75号溝跡(第233・234図)

F-16・17、G-16グリッドに位置する。1基のピットを切るが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、西は途切れ、東は攪乱を受けている。規模は、全長13.85m、上場幅0.68～1.21m、下場幅0.51～0.98m、深さ0.10～0.17m、断面形は皿状である。方位はN-60°-Eを指す。

図化には至らなかったが、肥前系の磁器碗と瀬戸・美濃系陶器瓶と肥前系の磁器碗(ともに18C)の小破片が出土した。

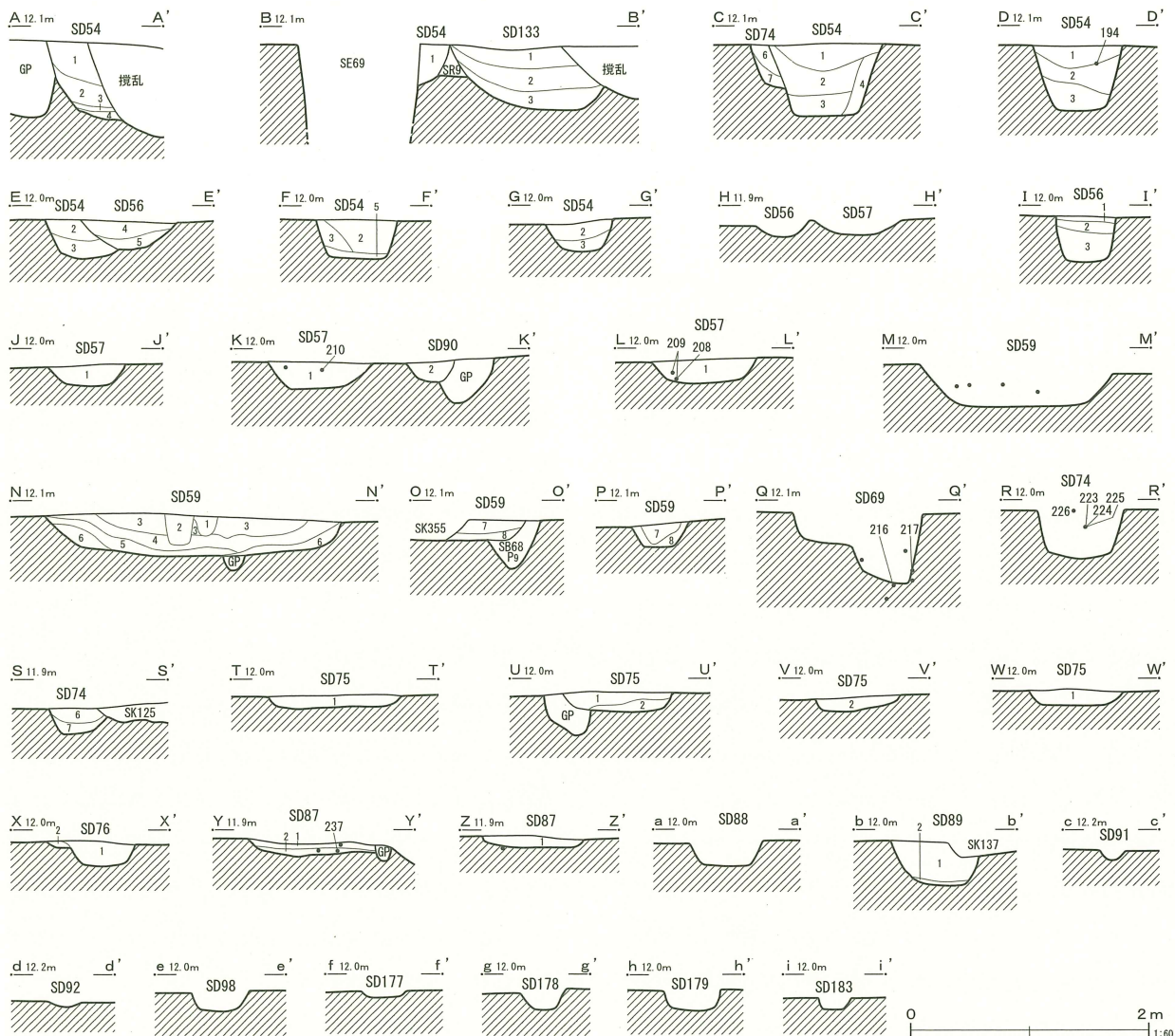
第76号溝跡(第233・234・252図)

E-17グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長4.30m、上場幅0.39～0.78m、下場幅0.22～0.30m、深さ0.20m、断面形は碗状である。方位はN-67°-Wを指す。

図化できた遺物は5点(228～232)である。なお、この他に信楽系の小杉碗(19C前葉)の小破片が出土した。

第77号溝跡(第235・238・252図)

D・E-20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、北は途切れ、南は2つに分かれ調査区外に続く。規模は、全長7.28m、上場幅0.35～0.70m、下場幅0.18～0.39m、深さ0.16～0.21m、断面



SD54・74 A-A' ~ G-G' S-S'

- 1 暗褐色土 明褐色土ブロック状(2.0~3.0cm)少
黄灰色粘土ブロック(2.0~3.0cm)多
- 2 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック(0.5~0.8cm)少
- 3 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック(0.5~0.8cm)多
- 4 黒褐色土 黄灰色粘土ブロック(0.5~0.8cm)多
- 5 黄褐色粘土 黒褐色土をブロック状に少
- 6 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック少
- 7 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)多

SD56 E-E' I-I'

- 1 褐色土 黄灰色粘土ブロック(0.5~0.8cm)少
- 2 褐色土 黄灰色粘土ブロック(0.5~0.8cm)多
- 3 褐色土 黄灰色粘土ブロック(0.2~0.3cm)少
- 4 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)多
- 5 黄褐色土 酸化鉄多

SD57・90 J-J' ~ L-L'

- 1 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.2~0.3cm)微量 砂質
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.2~0.3cm)微量

SD59 N-N' ~ P-P'

- 1 褐色土 砂質 しまり弱 ビット
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土層 ビット
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土粒(0.2~0.5cm)少
- 4 黒褐色土 褐色粘土粒(0.4cm)少 (1.0cm)微量
- 5 灰褐色土 褐色粘土粒(0.2~0.6cm)少 焼土粒(0.2~0.4cm)微量

- 6 黒褐色土 灰褐色粘土粒(0.5cm)微量
- 7 暗褐色土 黄褐色粘土粒(1.0cm)やや多
- 8 暗褐色土 褐色粘土粒(0.2~0.5cm)・黄褐色粘土粒(1.0~3.0cm)多

SD75 T-T' ~ W-W'

- 1 暗褐色土 焼土ブロック(0.2~0.3cm)微量
- 2 黄褐色土 黄褐色粘土粒・暗褐色土の混土层 埋戻し土か

SD76 X-X'

- 1 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック(1.0~2.0cm)多
- 2 褐色土 黄褐色粘土ブロック(1.0~2.0cm)多 均質

SD87 Y-Y' Z-Z'

- 1 黒褐色土 黄褐色粘土粒(0.5cm)多 (1.0cm)少
- 2 黒褐色土 黄褐色粘土粒(0.2~0.4cm)やや多
褐色粘土粒(1.0~2.0cm)少 焼土粒(0.2cm)微量

SD89 b-b'

- 1 褐色土 黄褐色粘土ブロック(1.0~4.0cm)少
- 2 褐色土 黄褐色粘土ブロック(1.0~4.0cm)微量

SD133 B-B'

- 1 褐色土 焼土粒・炭化物(0.2~0.3cm)微量
- 2 褐色土 焼土粒(0.3~0.5cm)少
黄灰色粘土ブロック(0.3~0.5cm)多
- 3 褐色土 黄灰色粘土ブロック(0.3~0.5cm)微量

第234図 溝跡断面図(6)

形は碗状である。方位はN-25° -Wを指す。

図化できた遺物は1点(233:7世紀第2四半期)である。

第78号溝跡(第235・238・252図)

D-20・21、E-20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端とも途切れている。規模は、全長9.25m、上場幅0.32~0.48m、下場幅0.10~0.29m、深さ0.12~0.17m、断面形は皿状である。方位はN-25° -Eを指す。

図化できた遺物は2点(234・235:8世紀第1四半期)である。

第79号溝跡(第235・238図)

D-17・18グリッドに位置する。第39号井戸跡に切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長2.42m、上場幅0.35~0.42m、下場幅0.21~0.29m、深さ0.12m、断面形は皿状である。方位はN-61° -Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第80号溝跡(第235・238図)

E-19グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長2.18m、上場幅0.19~0.32m、下場幅0.09~0.17m、深さ0.10m、断面形は碗状である。方位はN-78° -Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第81号溝跡(第235・238図)

E-19グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は南が直線状で、北は広がりをもつ。西は途切れ、東は攪乱を受ける。規模は、全長3.92m、上場幅0.40~1.15m、下場幅0.18~1.05m、深さ0.10m、断面形は碗状である。方位はN-64° -Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第83号溝跡(第235・238図)

E-20グリッドに位置する。第84号溝跡を切

っているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、西は途切れ、東は調査区外に続く。規模は、全長4.52m、上場幅0.35~0.70m、下場幅0.12~0.50m、深さ0.26m、断面形は段をもつ皿状である。方位はN-74° -Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第84号溝跡(第235・238図)

E-20グリッドに位置する。第83号溝跡に切られているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長2.82m、上場幅0.48~0.79m、下場幅0.32~0.65m、深さ0.16m、断面形は段をもつ皿状である。方位はN-72° -Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第85号溝跡(第235・238図)

E-20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、北は途切れ、南は調査区外に続く。規模は、全長6.85m、上場幅1.08~1.32m、下場幅0.72~0.91m、深さ0.28m、断面形は逆台形に近い。方位はN-70° -Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第86号溝跡(第235・238図)

E-20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、北は途切れ、南は調査区外に続く。規模は、全長2.10m、上場幅0.68~1.25m、下場幅0.39~0.92m、深さ0.22m、断面形は碗状である。方位はN-90° -Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第87号溝跡(第233~235・252図)

F-18グリッドに位置する。ピットに切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は「L」字状で、両端とも途切れる。規模は、全長3.33m、上場幅0.78~1.33m、

下場幅0.61～1.08m、深さ0.07～0.10m、断面形は皿状である。方位はN-52°-WとN-30°-Eを指す。

図化できた遺物は3点(236～238)である。

第88号溝跡(第233・234図)

D-15グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は「L」字状で、両端とも途切れる。規模は、全長2.90m、上場幅0.43～0.67m、下場幅0.29～0.40m、深さ0.20m、断面形は逆台形である。方位はN-52°-WとN-38°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第89号溝跡(第233・234図)

D-15グリッドに位置する。第137号土壌に切られている。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長3.15m、上場幅0.71～0.79m、下場幅0.32～0.60m、深さ0.36m、断面形は碗状である。方位はN-46°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第90号溝跡(第233・234図)

F-17グリッドに位置する。ピットを切っている。平面形は直線状で、西は途切れ、東は攪乱を受けている。規模は、全長1.53m、上場幅0.31～0.40m、下場幅0.12～0.20m、深さ0.16m、断面形は碗状である。方位はN-66°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第91号溝跡(第233・234図)

E-17グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長1.68m、上場幅0.21～0.23m、下場幅0.08～0.11m、深さ0.08m、断面形は碗状である。方位はN-68°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第92号溝跡(第233・234図)

E-17グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長4.12m、上場幅0.23

～0.36m、下場幅0.09～0.15m、深さ0.04m、断面形は皿状である。方位はN-82°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第93号溝跡(第235・238・252図)

C-19・20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長2.45m、上場幅0.34～0.62m、下場幅0.21～0.42m、深さ0.17m、断面形は碗状である。方位はN-40°-Eを指す。

図化できた遺物は1点(239)である。なお、この他に瀬戸・美濃系の陶器瓶(18C)の小破片が出土している。

第97号溝跡(第235・238図)

D-20・21グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、西は途切れ、東は調査区外に続く。規模は、全長3.05m、上場幅0.25～0.42m、下場幅0.10～0.35m、深さ0.10m、断面形は皿状である。方位はN-78°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第98号溝跡(第233・234図)

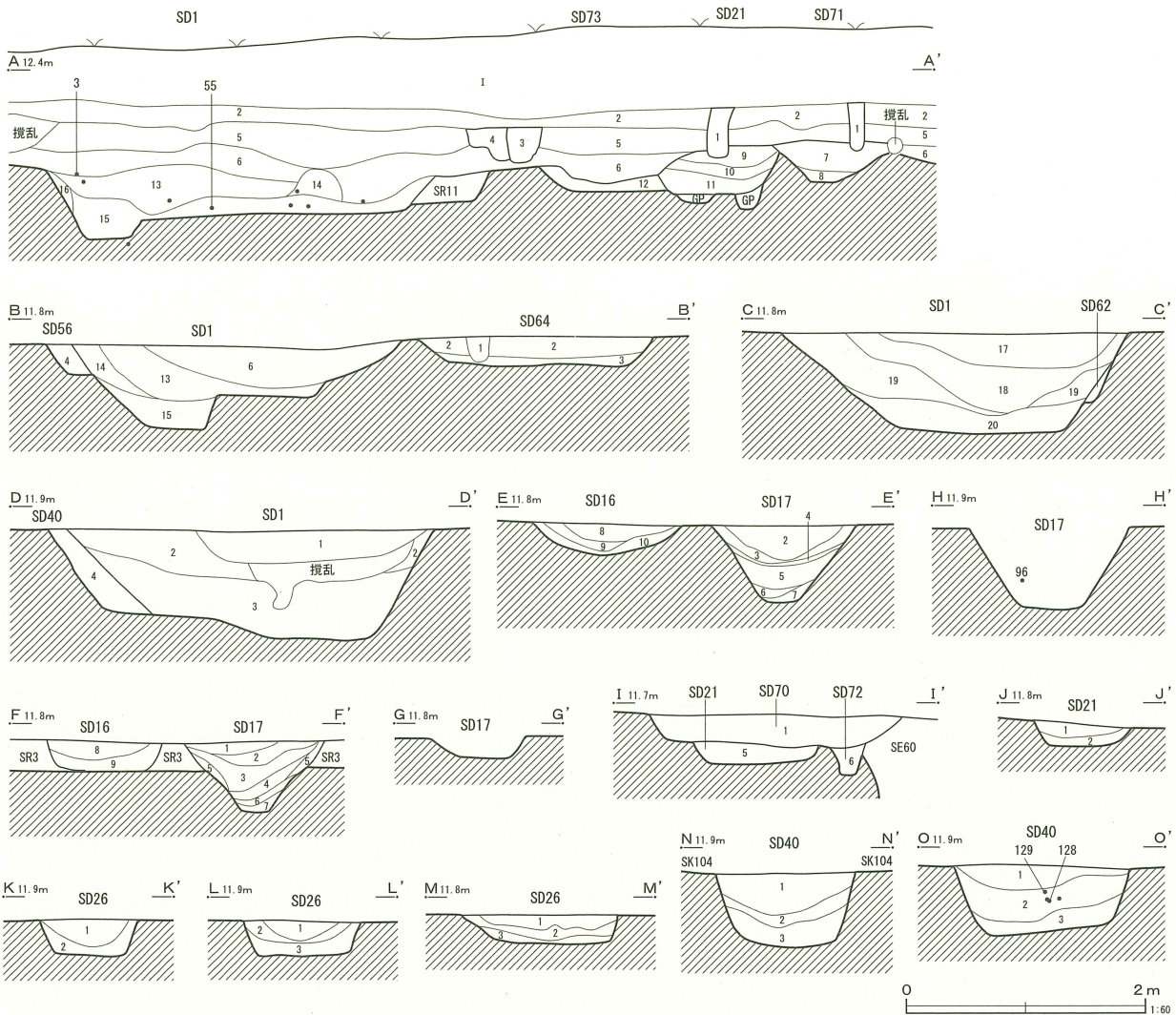
F-17グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長1.95m、上場幅0.45～0.50m、下場幅0.25～0.35m、深さ0.16m、断面形は皿状である。方位はN-20°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第99号溝跡(第226・227図)

M-6グリッドに位置する。第4号方形周溝墓と第9号住居跡を切っていると推定される。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長1.08m、上場幅0.15～0.27m、下場幅0.08～0.17m、深さ0.08m、断面形は皿状である。方位はN-55°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。



- SD 1-21-71-73 A-A' ~ C-C' O-O'**
- 1 灰褐色土 炭化物(0.2cm)少 白色粒やや多 ビット
 - 2 灰褐色土 白色粒含む
 - 3 明褐色土 白色粒やや多 砂質 ビット
 - 4 褐色土 白色粒・焼土粒少 ビット
 - 5 褐色土 やや砂質
 - 6 暗褐色土 褐色土ブロック(0.2~1.0cm)少
 - 7 褐色土 褐色粘土粒(0.5~1.0cm)少 炭化物(0.5~2.0m)微量 白色粒やや多
 - 8 褐色土 褐色粘土粒(0.5cm)やや多 黒色土ブロック(1.0cm)微量
 - 9 褐色土 褐色粘土粒(0.2~0.3cm)多 灰褐色粘土粒(2.0cm)少
 - 10 褐色土 暗褐色土ブロック(1.0cm)微量
 - 11 暗褐色土 褐色粘土粒(0.2~0.8cm)やや多
 - 12 暗褐色土 褐色粘土粒多 埋戻し土
 - 13 暗褐色土 黄褐色粘土粒(0.2~1.0cm)多
 - 14 褐色土 黄褐色粘土粒(0.5cm)微量
 - 15 黒褐色土 褐色粘土粒(0.5~1.0cm)少 黒色土ブロック(0.5cm)微量
 - 16 暗褐色土 黄褐色粘土粒(1.0~4.0cm)多
 - 17 褐色土 褐色粘土粒(0.2~0.3cm)やや多
 - 18 暗褐色土 褐色粘土粒(0.2~0.5cm)やや多 土器片含む
 - 19 暗褐色土 褐色粘土粒(0.2~0.3cm)多 灰褐色粘土粒(0.2~0.5cm)多 土器片含む
 - 20 暗褐色土 黒褐色粘土粒(0.2~0.5cm)・黄褐色粘土粒(0.3~0.8cm)やや多
- SD 1-40 D-D'**
- 1 褐色土 黄褐色粘土粒(2.0~5.0cm)・炭化物(2.0cm)やや多 土壌か
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒(2.0cm)少
 - 3 黒褐色土 黄褐色粘土粒(0.2cm)・褐色粘土粒(0.2~0.5cm)多
 - 4 暗褐色土 褐色粘土粒(0.5cm)・黄褐色粘土粒(1.0~5.0cm)多

- SD 26 K-K' ~ M-M'**
- 1 灰褐色土 炭化物少 浅間A軽石微量 しまり強 粘性弱
 - 2 黒褐色土 炭化物少 地山ブロック(1.0~2.0cm)少 しまり強 粘性弱
 - 3 暗褐色土 炭化物少 地山ブロック(2.0~3.0cm)やや多 しまり強 粘性弱

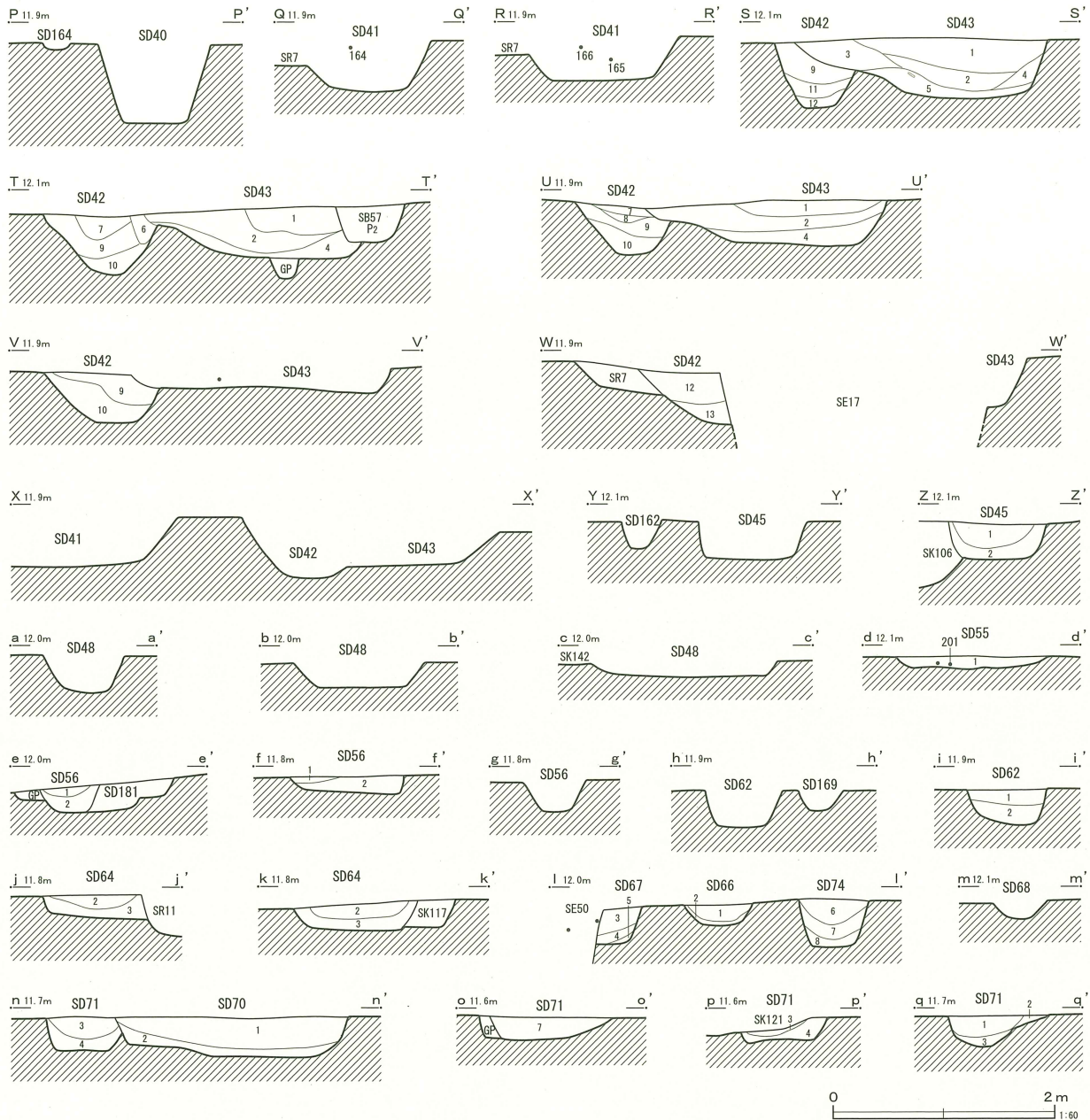
- SD 16-17 E-E' F-F'**
- 1 灰褐色土 褐色土ブロック(1.0~2.0cm)やや多 マンガン若干
 - 2 灰褐色土 褐色土ブロック(0.2~3.0cm)少 マンガン若干
 - 3 明褐色土 褐色土ブロック(0.5cm)やや多 マンガン若干
 - 4 灰白色土 粘土層
 - 5 黒灰色土 褐色土ブロック(1.0~2.0cm)やや多 マンガン若干 砂質
 - 6 灰黒色土 褐色土ブロック(0.2~0.4cm)少 マンガン若干 砂質
 - 7 明褐色土 粘土ブロック層 砂質
 - 8 暗褐色土 粘土ブロック(0.5~1.0cm)やや多 マンガン若干
 - 9 暗黄褐色土 粘土ブロック(0.5~2.0cm)多 マンガン若干
 - 10 暗黄褐色土 粘土ブロック(0.5~3.0cm)極多 マンガン若干
- SD 21-70-71-72 I-I' n-n' p-p'**
- 1 暗褐色土 褐色粘土粒(0.2~0.5cm)多 炭化物(0.5cm)・焼土粒少
 - 2 暗褐色土 褐色粘土粒(2.0~5.0cm)多 埋戻し土
 - 3 黒褐色土 灰褐色粘土粒(0.2~0.5cm)少 白色粒多
 - 4 黒褐色土 灰褐色粘土粒(1.0cm)やや多 白色粒多
 - 5 暗褐色土 黄褐色粘土粒(1.0cm)・褐色粘土粒(0.1~0.2cm)・白色粒やや多
 - 6 暗褐色土 黄褐色粘土粒(0.5cm多 2.0cmやや多)

- SD 21 J-J'**
- 1 灰褐色土 焼土粒少
 - 2 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.3~0.5cm)微量

- SD 40 N-N' O-O'**
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.3~0.5cm)均質に少
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.3~0.5cm)多
 - 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.3~0.5cm)少

- SD 56-64 B-B' j-j' k-k'**
- 1 褐色土 褐色粘土粒(0.2~0.3cm)多 灰色粘土粒(2.0cm)少 ビット
 - 2 褐色土 褐色粘土粒(0.5~1.0cm)少 炭化物(0.5~2.0m)微量 白色粒やや多
 - 3 褐色土 褐色粘土粒(0.5cm)やや多 黒色土ブロック(1.0cm)微量
 - 4 暗褐色土 黄褐色粘土粒(0.2~1.0cm)・焼土粒(0.2cm)微量

第236図 溝跡断面図 (7)



SD42-43 S-S' ~W-W'

- 1 黒褐色土 黄褐色粘土粒(0.2cm)・炭化物(0.2~0.7cm)・焼土粒(0.2~0.5cm)やや多 酸化土
- 2 黒色土 黄褐色粘土粒(0.2cm)少 炭化物(0.2~0.5cm)多
- 3 黒褐色土 褐色粘土粒(2.0~7.0cm)多 埋戻し土
- 4 黒色土 黄褐色粘土粒(0.2~0.6cm)・灰褐色粘土粒(0.2~0.6cm)多
- 5 黒色土 黄褐色粘土粒(0.5cm)・灰褐色粘土粒(0.2cm)少
- 6 暗褐色土 黄褐色粘土粒(0.5~0.8cm)少 ビット
- 7 暗褐色土 黄褐色粘土粒(3.0~5.0cm)多
- 8 暗褐色土 黄褐色粘土粒(0.5~0.8cm)少
- 9 黒褐色土 褐色粘土粒(2.0~3.0cm)少 焼土粒(0.2cm)微量
- 10 黒褐色土 褐色粘土粒(2.0~2.5cm)多
- 11 黒色土 黄褐色粘土粒(0.2~0.5cm)・灰褐色粘土粒(0.2~0.5cm)少
- 12 黒色土 黄褐色粘土粒(0.2~0.3cm)・灰褐色粘土粒(0.2~0.3cm)やや多
- 13 暗褐色土 黄褐色粘土粒(0.5~1.0cm)少

SD45 Z-Z'

- 1 明褐色土 黄褐色粘土粒(0.5~1.0cm)・炭化物(0.5~0.8cm)少 黄褐色粘土ブロック(0.2~0.3cm)微量
- 2 褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.3~0.5cm)微量 炭化物(0.2~0.3cm)少

SD55 d-d'

- 1 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)多 埋戻し土か

SD56 e-e' f-f'

- 1 褐色土 黄灰色粘土ブロック(0.5~0.8cm)少
- 2 褐色土 黄灰色粘土ブロック(0.5~0.8cm)多

SD62 i-i'

- 1 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.3~0.5cm)多 しまり弱 粘性強
- 2 灰褐色土 黄灰色粘土ブロック(0.3~0.5cm)微量

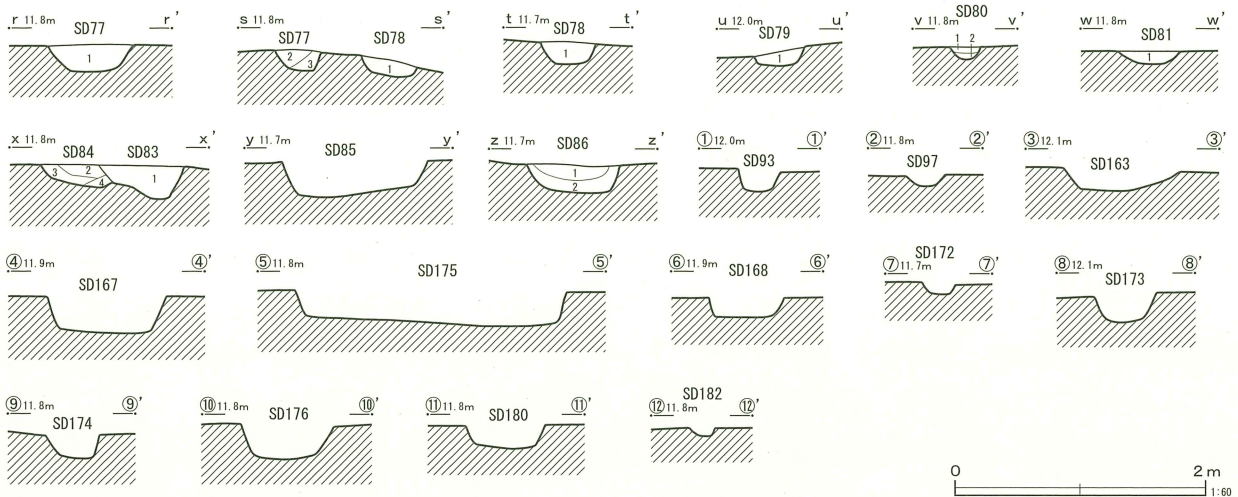
SD66-67-74 l-l'

- 1 褐色土 焼土粒(0.2cm)微量
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒(0.2~0.3cm)少
- 3 黒褐色土 黄褐色粘土粒(0.2~0.4cm)多
- 4 黒褐色土 褐色粘土粒(0.2cm)少
- 5 黒褐色土 黄褐色粘土粒(0.2~0.6cm)やや多
- 6 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.3~0.5cm)微量
- 7 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(1.0cm)網状に部分的に含む
- 8 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.3~0.5cm)少

SD71 q-q'

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土粒(0.2cm)少
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒(0.2~0.7cm)多
- 3 黒褐色土 黄褐色粘土粒(0.2cm)少 炭化物(0.5cm)微量

第237図 溝跡断面図(8)



SD77 r-r'
1 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(1.0cm)微量

SD77-78 s-s' t-t'
1 褐色土 黄褐色粘土粒(0.1~0.2cm)少
2 灰褐色土 黄灰色粘土ブロック(0.2~0.3cm)微量
3 灰褐色土 黄灰色粘土ブロック(1.0cm)多

SD79 u-u'
1 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.8~1.0cm)多 埋戻し土か

SD80 v-v'
1 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)・焼土粒少
2 黄褐色土 1層をブロック状(1.0cm)に含む

SD81 w-w'
1 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.3~0.5cm)少

SD83-84 x-x'
1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.3~0.8cm)・焼土粒少
2 暗褐色土 黄褐色粘土粒(0.1~0.2cm)微量
3 暗褐色土 黄褐色粘土粒(0.5~0.8cm)多
4 暗褐色土 黄褐色粘土粒(0.1~0.2cm)少

SD86 z-z'
1 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)少
2 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.2~0.3cm)多

第238図 溝跡断面図(9)

第100号溝跡(第226・227図)

N-5グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長1.25m、上場幅0.16~0.26m、下場幅0.08~0.16m、深さ0.06m、断面形は皿状である。方位はN-32°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第101号溝跡(第228・229図)

J-8・9グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長3.41m、上場幅0.19~0.31m、下場幅0.10~0.18m、深さ0.09m、断面形は皿状である。方位はN-45°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第102号溝跡(第228・229図)

L-9グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長1.80m、上場幅0.12~0.16m、下場幅0.07m、深さ0.08m、断面形は

皿状である。方位はN-37°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第103号溝跡(第226・227・252図)

L-7・8グリッドに位置する。第7・17・18号住居跡を切っている。その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長11.98m、上場幅0.28~0.47m、下場幅0.14~0.35m、深さ0.22~0.25m、断面形は碗状である。方位はN-45°-Wを指す。

図化できた遺物は2点(240・241)である。

第104号溝跡(第226・227図)

L-7、M-7・8グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長5.70m、上場幅0.18~0.25m、下場幅0.10m、深さ0.09m、断面形は皿状である。方位はN-45°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第105号溝跡(第226~229図)

K-7・8、L-7グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は不整形な直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長13.70m、上場幅0.58～2.15m、下場幅0.41～1.85m、深さ0.09～0.20m、断面形は皿状である。方位はN-49°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第106号溝跡 (第228・229図)

L-8グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長1.01m、上場幅0.15～0.25m、下場幅0.05～0.10m、深さ0.09m、断面形は碗状である。方位はN-48°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第107号溝跡 (第228・229図)

L-8グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長4.05m、上場幅0.55～0.80m、下場幅0.35～0.65m、深さ0.18m、断面形は皿状である。方位はN-55°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第108号溝跡 (第226～228図)

J・K-7グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状であるが、南端部で東に折れる。西は調査区外に続く。規模は、全長11.90m、上場幅0.39～1.05m、下場幅0.25～0.95m、深さ0.13～0.24m、断面形は皿状である。方位はN-44°-Eを指し、南端部ではN-54°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第109号溝跡 (第226・227図)

L・M-6グリッドに位置する。第10号住居跡を切るが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長5.15m、上場幅0.49～1.00m、下場幅0.31～0.65m、深さ0.26m、断面形は逆台形である。方位はN-34°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第110号溝跡 (第226・227・252図)

M-7、N-6・7グリッドに位置する。ピットに切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長10.11m、上場幅0.79～1.30m、下場幅0.60～0.80m、深さ0.10～0.26m、断面形は逆台形である。方位はN-59°-Eを指す。

図化できた遺物は2点(242・243)である。なお、この他に瀬戸・美濃系の陶器皿の小破片が出土している。

第111号溝跡 (第226・227図)

L・M-6グリッドに位置する。ピットに切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は逆「L」字状で、両端ともに途切れる。規模は、全長7.25m、上場幅0.45～0.79m、下場幅0.25～0.45m、深さ0.15m、断面形は皿状である。方位はN-40°-WとN-50°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第112号溝跡 (第226・227図)

K-7グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、南は途切れ、北は調査区外に続く。規模は、全長1.21m、上場幅0.35～0.49m、下場幅0.20m、深さ0.09m、断面形は皿状である。方位はN-31°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第113号溝跡 (第224・225・252図)

N-3・4、O-4グリッドに位置する。第116号溝跡に切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに調査区外に続く。規模は、全長9.00m、上場幅1.09～2.10m、下場幅0.20～0.35m、深さ0.73～0.89m、断面形は逆台形もしくは碗状と推定される。方位はN-38°-Wを指す。

図化できた遺物は1点(244)である。

第114号溝跡(第224・225図)

O-3・4グリッドに位置する。第116号溝跡に切られるが、第130号溝跡との新旧関係は不明である。平面形は直線状で、北は途切れるが、南は調査区外に続く。規模は、全長7.55m、上場幅0.36～1.35m、下場幅0.21～0.64m、深さ0.31～0.36m、断面形は碗状である。方位はN-20°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第116号溝跡(第224・225図)

O-4グリッドに位置する。第113・114号溝跡を切る。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長1.95m、上場幅0.55m、下場幅0.35m、深さ0.43m、断面形は碗状である。方位はN-8°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第117号溝跡(第224・225・252図)

O-2・3、P-1・2、Q-0・1グリッドに位置する。第120号溝跡、第121号溝跡を切っていると推定される。北側の上場の一部は調査区外にある。平面形は直線状で、両端ともに調査区外に続く。第118号溝跡と並行する。規模は、全長32.55m、上場幅0.75～2.15m、下場幅0.31～0.95m、深さ0.42～0.56m、断面形は逆台形と思われる。方位はN-45°-Eを指す。

図化できた遺物は2点(245・246:9世紀第4四半期)である。

第118号溝跡(第224・225・252図)

O-2・3、P-1・2、Q-0・1グリッドに位置する。第120・121号溝跡を切り、第119号溝跡を切っていると推定される。平面形は直線状で、東は攪乱を受けており、西は調査区外に続く。第117号溝跡と並行する。規模は、全長31.91m、上場幅0.79～1.35m、下場幅0.31～0.35m、深さ1.01～1.15m、断面形はV字状もしくは逆台形である。方位はN-44°-Eを指す。

図化できた遺物は1点(247:6世紀第4四半期)である。

第119号溝跡(第224・225図)

P-2グリッドに位置する。第118・121号溝跡に切られていると推定される。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長7.91m、上場幅0.29～0.41m、下場幅0.11～0.21m、深さ0.10m、断面形は皿状である。方位はN-52°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第120号溝跡(第224・225・253図)

Q-1グリッドに位置する。第117・118号溝跡に切られている。平面形は直線状で、北は途切れ、南は調査区外に続く。規模は、全長4.35m、上場幅1.39～2.00m、下場幅0.99～1.15m、深さ0.20～0.28m、断面形は凹凸のある皿状である。方位はN-37°-Wを指す。

図化できた遺物は2点(248・249:7世紀第4四半期)である。

第121号溝跡(第224・225図)

O・P-2グリッドに位置する。第118号溝跡に切れ、第117号溝跡に切られていると推定される。平面形は直線状で、北は途切れ、南は調査区外に続く。規模は、全長8.15m、上場幅0.65～1.25m、下場幅0.31～0.95m、深さ0.35～0.45m、断面形は逆台形に近い。方位はN-22°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

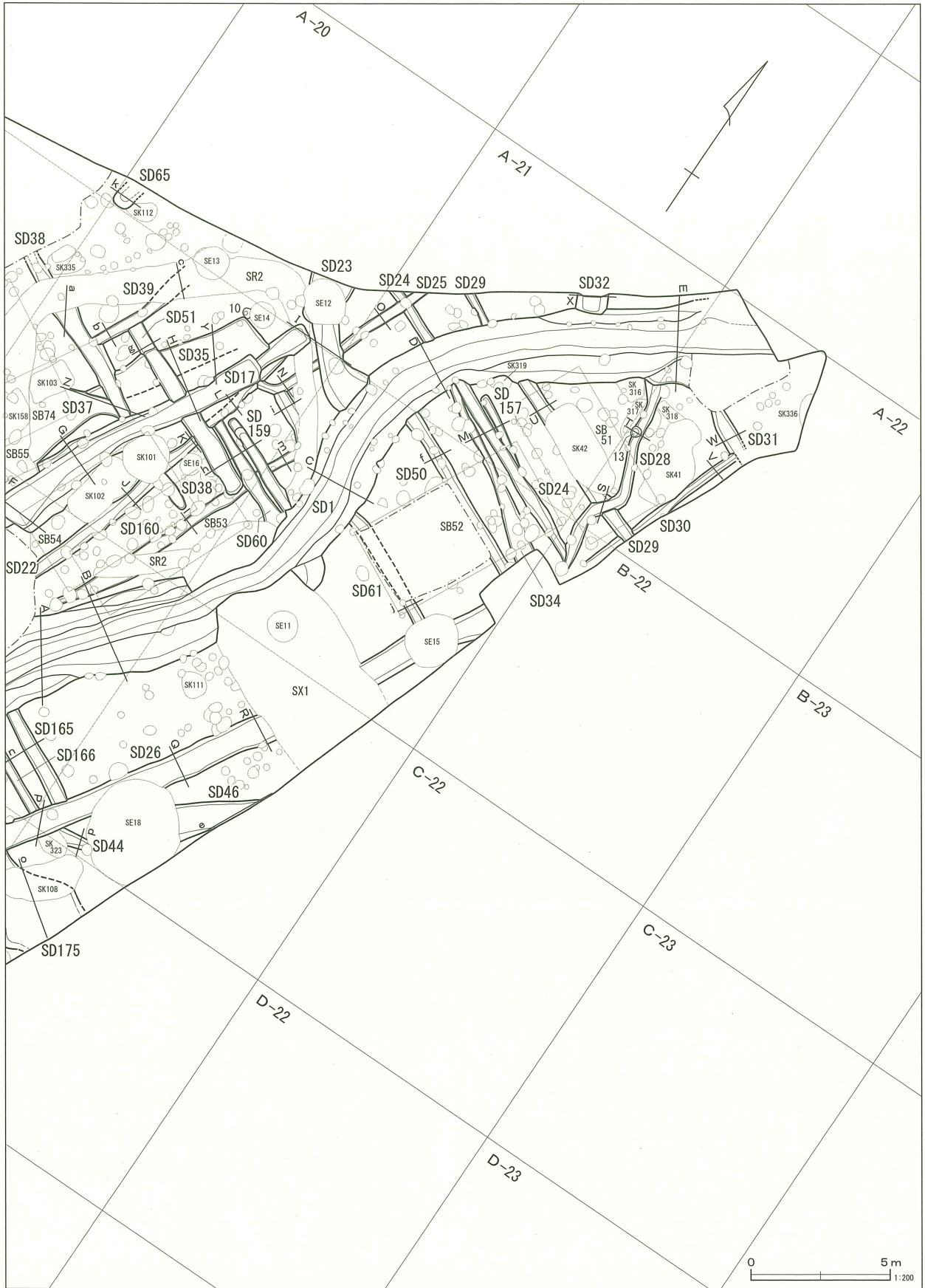
第122号溝跡(第230・232図)

I・J-13グリッドに位置する。平面形は概ね直線状で、北は途切れ、南は調査区外に続く。規模は、全長11.25m、上場幅0.25～0.71m、下場幅0.11～0.39m、深さ0.14m、断面形は皿状である。方位はN-12°-Wを指す。

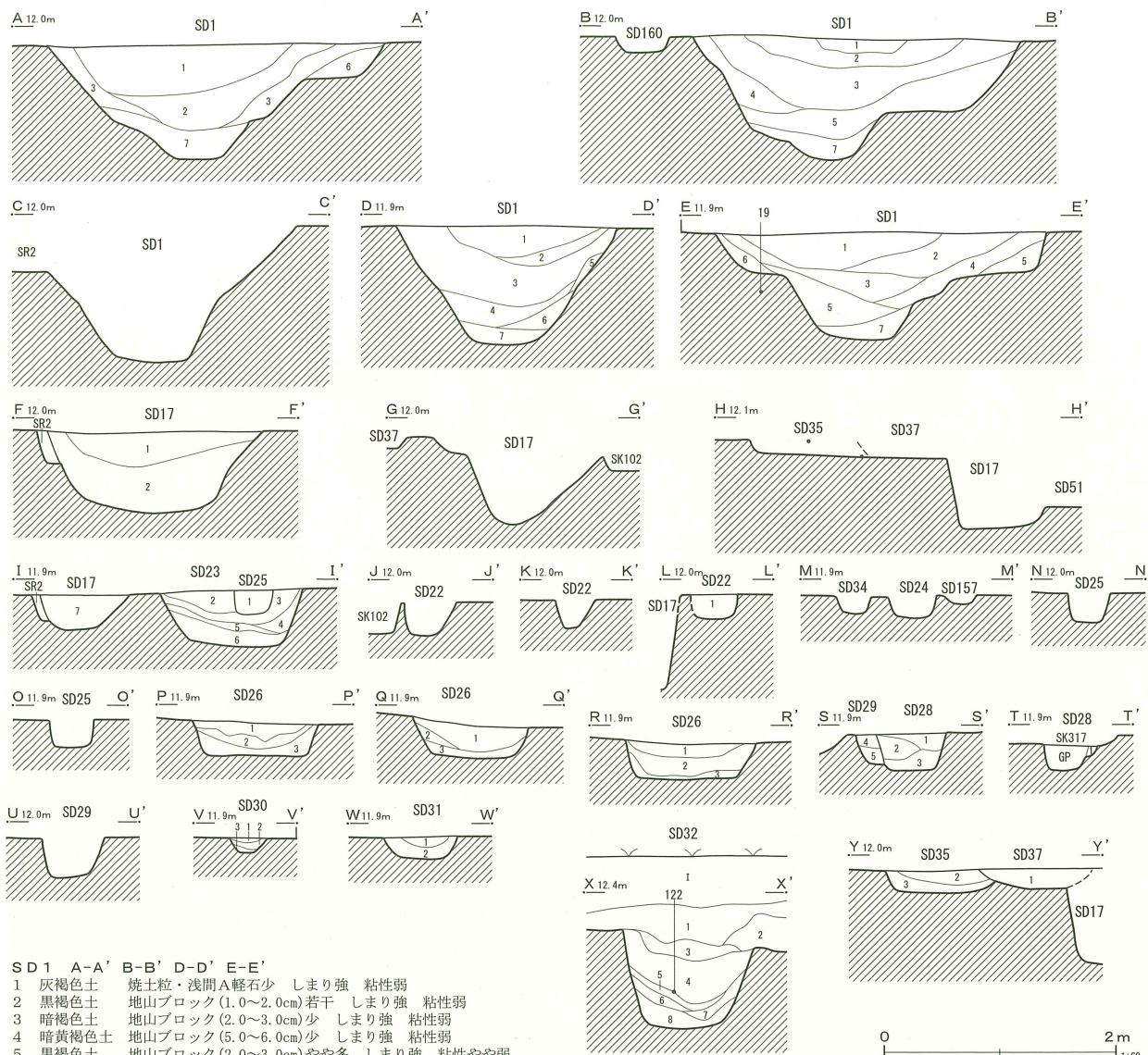
遺物は出土しなかった。

第123号溝跡(第230・232・253・254図)

I・J-13グリッドに位置する。第124号溝跡



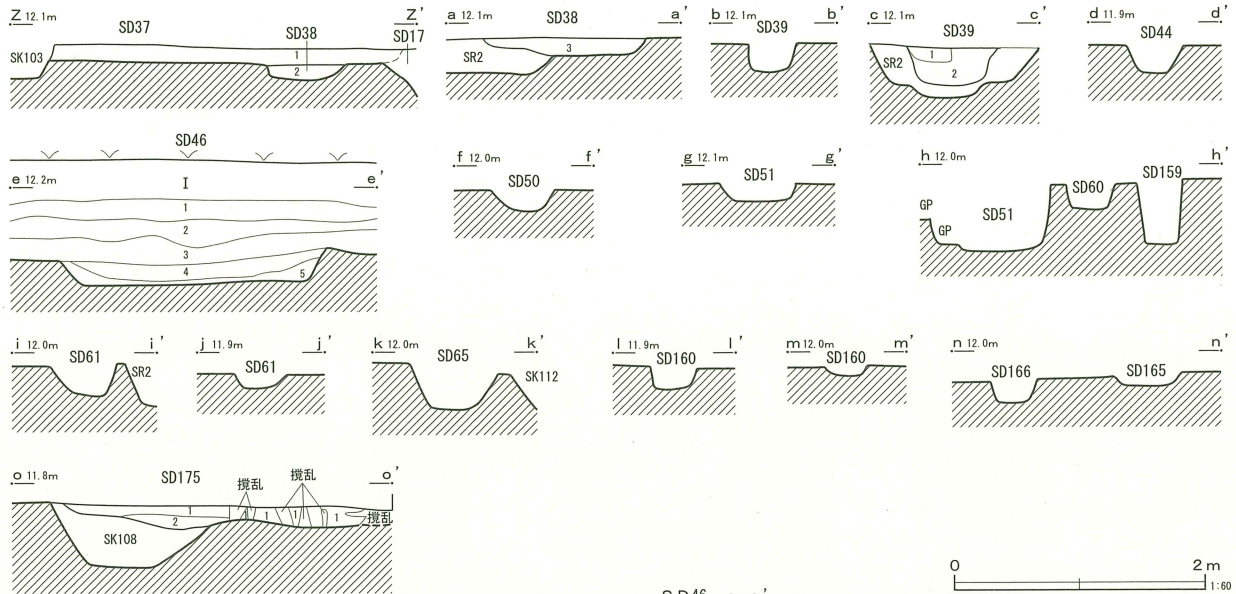
第239图 沟迹区割图 (7)



- SD1 A-A' B-B' D-D' E-E'**
- 1 灰褐色土 焼土粒・浅間A軽石少 しまり強 粘性弱
 - 2 黒褐色土 地山ブロック(1.0~2.0cm)若干 しまり強 粘性弱
 - 3 暗褐色土 地山ブロック(2.0~3.0cm)少 しまり強 粘性弱
 - 4 暗黄褐色土 地山ブロック(5.0~6.0cm)少 しまり強 粘性弱
 - 5 黒褐色土 地山ブロック(2.0~3.0cm)やや多 しまり強 粘性やや弱
 - 6 黒褐色土 地山ブロック(1.0~2.0cm)少 しまり強 粘性やや弱
 - 7 暗黄褐色土 地山ブロック(1.0~2.0cm)やや多 しまり強
- SD17 F-F'**
- 1 褐色土 褐色粘土粒(0.2~0.4cm)・灰褐色粘土粒(0.2~0.5cm)少
黄褐色粘土粒(0.2~0.4cm)多
 - 2 灰褐色土 黄褐色粘土粒(0.5cm)少 焼土粒(0.2cm)微量 酸化土
- SD17-23-25 I-I'**
- 1 灰褐色土 地山粒・炭化物少 しまり強 粘性弱
 - 2 黒褐色土 地山粒・炭化物少 しまり強 粘性弱
 - 3 黒褐色土 地山粒・地山ブロック(0.5~1.0cm)・炭化物少
しまり強 粘性弱
 - 4 暗褐色土 地山粒・地山ブロック(0.5~1.0cm)・炭化物やや多
しまり強 粘性弱
 - 5 黒褐色土 地山粒・地山ブロック(1.0cm)・炭化物やや多 しまり強 粘性弱
 - 6 暗褐色土 地山粒・地山ブロック(2.0~3.0cm)・炭化物多 しまり強 粘性弱
 - 7 黒褐色土 地山粒・炭化物微量 しまり強 粘性弱
- SD22 L-L'**
- 1 黒褐色土 黄褐色粘土粒(0.2~1.0cm)やや多
- SD26 P-P' ~R-R'**
- 1 灰褐色土 炭化物少 浅間A軽石微量 しまり強 粘性弱
 - 2 黒褐色土 炭化物少 地山ブロック(1.0~2.0cm)少 しまり強 粘性弱
 - 3 暗褐色土 炭化物少 地山ブロック(2.0~3.0cm)やや多 しまり強 粘性弱
- SD28-29 S-S'**
- 1 灰褐色土 地山ブロック(0.5cm)・炭化物少 しまり強 粘性弱
 - 2 暗褐色土 地山ブロック(0.5~1.0cm)やや多 炭化物少 しまり強 粘性弱
 - 3 黒褐色土 地山ブロック(1.0~2.0cm)多 炭化物少 しまり強 粘性弱
 - 4 灰褐色土 地山ブロック(2.0~3.0cm)やや多 炭化物少 しまり強 粘性弱
 - 5 暗褐色土 地山ブロック(1.0~2.0cm)・炭化物ブロック(0.5cm)少
しまり強 粘性弱

- SD28 T-T'**
- 1 黒褐色土 地山粒・炭化物少 地山ブロック(1.0~2.0cm)やや多
しまり強 粘性弱
- SD30 V-V'**
- 1 黄褐色土 地山ブロック(0.5~1.0cm)・炭化物ブロック(0.5cm)少
しまり強 粘性やや弱
 - 2 灰褐色土 地山ブロック(1.0~2.0cm)・炭化物ブロック(0.5cm)やや多
しまり強 粘性やや弱
 - 3 暗黄褐色土 地山ブロック(1.0~2.0cm)極多 しまり強 粘性やや弱
- SD31 W-W'**
- 1 暗褐色土 地山粒・炭化物少 しまり強 粘性弱
 - 2 暗黄褐色土 地山粒・炭化物・地山ブロック(0.5~1.0cm)少
しまり強 粘性弱
- SD32 X-X'**
- 1 耕作土
 - 2 暗褐色土 地山粒(0.5cm)・焼土粒(0.2cm)少
 - 3 暗褐色土 焼土粒少
 - 4 黒褐色土 焼土粒少
 - 5 黒褐色土 黄褐色粘土粒(0.2~0.4cm)・褐色粘土粒(0.2~0.4cm)多
焼土粒(0.2cm)微量
 - 6 黒褐色土 黄褐色粘土粒(0.2~0.4cm)・褐色粘土粒(0.2~0.4cm)やや多
炭化物(0.5cm)微量
 - 7 黒褐色土 黄褐色粘土粒(0.2~0.4cm)・褐色粘土粒(0.2~0.4cm)多
 - 8 黒褐色土 褐色粘土粒多 焼土粒(0.2cm)微量 埋戻し土
- SD35-37 Y-Y'**
- 1 褐色土 黄褐色粘土粒(0.5~2.0cm)やや多
黒色土ブロック(0.5~0.7cm)少
 - 2 暗褐色土 黄褐色粘土粒(1.0~3.0cm)多 埋戻し土
 - 3 黒褐色土 黄褐色粘土粒(1.0~3.0cm)多 褐色粘土粒(0.7cm)
・黒色土ブロック(2.0~3.0cm)微量 埋戻し土

第240図 溝跡断面図 (10)



SD37-38 Z-Z' a-a'
 1 褐色土 黄褐色粘土粒(0.2~0.7cm)やや多
 2 褐色土 黄褐色粘土粒(1.0~2.0cm)多
 3 褐色土 褐色地山(0.5cm)・暗褐色土ブロック(0.5cm)少
 焼土(0.2cm)微量

SD39 c-c'
 1 黒褐色土 褐色粘土(0.5~2.0cm)・灰褐色粘土(0.2~0.4cm)多 ビット
 2 暗褐色土 灰褐色粘土(0.2~1.0cm)やや多 黒色土ブロック(0.7cm)少

SD46 e-e'
 1 耕作土
 2 灰褐色土 白色粒
 3 褐色土 やや砂質
 4 暗褐色土 褐色土ブロック(0.2~1.0cm)少
 5 黒褐色土 黄褐色粘土粒(0.5~1.5cm)・灰褐色粘土粒(1.0cm)微量
 黄褐色粘土粒(2.0~3.0cm)多 灰褐色粘土粒(0.5cm)やや多
 灰褐色粘土粒(0.5~0.7cm)少

SD175 o-o'
 1 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.8~1.0cm)多
 2 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック(0.5~0.8cm)少

第241図 溝跡断面図(11)

を切っている。平面形は概ね直線状で、両端とも調査区外に続く。規模は、全長9.25m、上場幅1.15~2.50m、下場幅0.25~0.59m、深さ0.74~1.22m、断面形は逆台形に近いが、段をもつ部分もある。方位は概ねN-8°-Eを指す。

底面から自然木が出土した。凶化できた遺物は、焙烙・陶磁器8点(250~257)、木製品5点(10~14)である。また凶化には至らなかったが、瀬戸・美濃系の陶器碗・皿(18・19C)・肥前系の陶器皿(17C後半~18C前半)の小破片が出土した。

第124号溝跡(第230・232図)

I-13・14、J-13グリッドに位置する。第123号溝跡に切られている。平面形は「L」字状で、南は途切れ、西は調査区外に続く。規模は、全長11.05m、上場幅0.40~1.19m、下場幅0.19~0.31m、深さ0.37~0.56m、断面形は逆台形もしくは「U」字状に近いが、段をもつ部分もある。方位はN-68°-WとN-32°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第125号溝跡(第230・232図)

I-14グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、南は途切れ、北は調査区外に続く。規模は、全長11.30m、上場幅0.31~0.41m、下場幅0.31~0.95m、深さ1.06m、断面形は逆台形である。方位はN-28°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第126号溝跡(第230・232図)

I-14グリッドに位置する。北は調査区外に続く。平面形は直線状で、規模は、全長1.90m、上場幅0.20~0.35m、下場幅0.15~0.25m、深さ1.03m、断面形は逆台形である。方位はN-4°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第127号溝跡(第230・232図)

I-14グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、東は調査区外に続く。規模は、全長1.85m、

上場幅0.85～1.01m、下場幅0.78～0.91m、深さ1.01m、断面形は逆台形である。方位はN-66°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第128号溝跡 (第230・232図)

I・J-14グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長2.85m、上場幅0.19～0.35m、下場幅0.10～0.22m、深さ0.07m、断面形は逆台形である。方位は概ねN-2°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第129号溝跡 (第224・225図)

O-3グリッドに位置する。平面形は概ね直線状で、北は途切れ、南は調査区外に続く。規模は、全長8.65m、上場幅0.25～0.89m、下場幅0.15～0.25m、深さ0.11m、断面形は逆台形である。方位は概ねN-11°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第130号溝跡 (第224・225図)

O-3・4グリッドに位置する。第114号溝跡との新旧関係は不明である。平面形は円弧状で、北は途切れ、南は調査区外に続く。規模は、全長3.95m、上場幅0.35～0.91m、下場幅0.12～0.45m、深さ0.06m、断面形は皿状である。方位は概ねN-32°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第132号溝跡 (第226・227図)

M-5・6グリッドに位置する。第4号方形周溝墓を切っているが、その他の重複遺構との新旧関係は不明である。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長7.51m、上場幅0.85～1.09m、下場幅0.55～0.76m、深さ0.11m、断面形は皿状である。方位はN-45°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第133号溝跡 (第233・234図)

D-16グリッドに位置する。第9号周溝状遺構

を切っているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長1.30m、上場幅0.42～0.71m、下場幅0.22～0.28m、深さ0.51m、断面形は碗状である。方位はN-50°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第141号溝跡 (第230・231図)

H・I-10グリッドに位置する。ピットとの新旧関係は不明である。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長5.91m、上場幅0.15～0.35m、下場幅0.14～0.25m、深さ0.11m、断面形は皿状である。方位はN-43°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第143号溝跡 (第226・227図)

L・M-8グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長2.50m、上場幅0.15～0.26m、下場幅0.06m、深さ0.09m、断面形は皿状である。方位はN-58°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第144号溝跡 (第226・227図)

M-7グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長1.41m、上場幅0.21～0.30m、下場幅0.14m、深さ0.09m、断面形は逆台形である。方位はN-44°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第145号溝跡 (第228・229図)

I-9グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長2.85m、上場幅0.55～0.85m、下場幅0.38～0.65m、深さ0.11m、断面形は皿状である。方位はN-47°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第146号溝跡 (第228・229図)

I-9グリッドに位置する。重複遺構との新旧

関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長1.95m、上場幅0.40～0.69m、下場幅0.25～0.49m、深さ0.11m、断面形は皿状である。方位はN-36°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第147号溝跡 (第228・229図)

L-9・10グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、西は途切れ、東は調査区外に続く。規模は、全長1.78m、上場幅0.21～0.39m、下場幅0.11～0.21m、深さ0.26m、断面形は碗状である。方位はN-55°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第150号溝跡 (第224・225図)

O-4グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長1.90m、上場幅0.12～0.20m、下場幅0.06～0.08m、深さ0.08m、断面形は皿状である。方位はN-49°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第151号溝跡 (第226・227図)

L-5・6グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、北と両端は調査区外に続く。規模は、全長8.75m、上場幅0.35～0.95m、下場幅0.21～0.85m、深さ0.17m、断面形は皿状と推定される。方位はN-47°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第152号溝跡 (第226・227図)

N-4グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れている。規模は、全長1.19m、上場幅0.31m、下場幅0.19m、深さ0.07m、断面形は皿状と推定される。方位はN-54°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第153号溝跡 (第226・227図)

N-6グリッドに位置する。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長8.35m、上場幅0.26m、下場幅0.19m、深さ0.07m、断面形は皿状である。方位はN-55°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第154号溝跡 (第230・231図)

H-10グリッドに位置する。第1号方形周溝墓を切っている。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長1.72m、上場幅0.25～0.40m、下場幅0.19m、深さ0.11m、断面形は皿状である。方位はN-55°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第157号溝跡 (第239・240図)

A-21グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長2.83m、上場幅0.28～0.35m、下場幅0.18m、深さ0.07m、断面形は皿状である。方位はN-57°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第159号溝跡 (第239・241図)

B-20・21グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長3.85m、上場幅0.39～0.50m、下場幅0.30m、深さ0.48m、断面形は逆台形である。方位はN-65°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第160号溝跡 (第239～241図)

B-20・21、C-20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長10.02m、上場幅0.34～0.52m、下場幅0.21～0.35m、深さ0.08～0.16m、断面形は皿状もしくは碗状である。方位はN-22°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第162号溝跡 (第235・237図)

C-19グリッドに位置する。重複遺構との新旧

関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長2.78m、上場幅0.23～0.55m、下場幅0.10～0.29m、深さ0.25m、断面形は逆台形に近い。方位はN-50°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第163号溝跡 (第235・238図)

C-19グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は歪んだ直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長3.75m、上場幅0.40～1.15m、下場幅0.21～0.85m、深さ0.15m、断面形は逆台形に近い。方位はN-77°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第164号溝跡 (第235・237図)

C-20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長3.21m、上場幅0.25～0.40m、下場幅0.15～0.24m、深さ0.06m、断面形は皿状である。方位はN-46°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第165号溝跡 (第239・241図)

C-20・21グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長3.80m、上場幅0.45～0.61m、下場幅0.31～0.41m、深さ0.07m、断面形は皿状である。方位はN-62°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第166号溝跡 (第235・239・241図)

C-20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長3.80m、上場幅0.38～0.45m、下場幅0.23～0.30m、深さ0.16m、断面形は逆台形である。方位はN-63°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第167号溝跡 (第235・238図)

D-20・21グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長6.65m、上場幅0.46～0.99m、下場幅0.31～0.72m、深さ0.29m、断面形は逆台形である。方位はN-65°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第168号溝跡 (第235・238図)

D-20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は「L」字状で、両端ともに途切れる。規模は、全長2.20m、上場幅0.31～0.58m、下場幅0.10～0.45m、深さ0.16m、断面形は逆台形に近い。方位はN-64°-WとN-15°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第169号溝跡 (第235・237図)

D-19・20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長4.35m、上場幅0.35～0.53m、下場幅0.19～0.28m、深さ0.17m、断面形は逆台形に近い。方位はN-50°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第172号溝跡 (第235・238図)

E-20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端とも途切れている。規模は、全長2.35m、上場幅0.19～0.35m、下場幅0.11m、深さ0.08m、断面形は皿状である。方位はN-74°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第173号溝跡 (第235・238図)

C-17グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端とも途切れている。規模は、全長5.67m、上場幅0.50m、下場幅0.30m、深さ0.21m、断面

形は碗状である。方位はN-42° -Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第174号溝跡 (第235・238図)

F-19グリッドに位置する。第11号周溝状遺構を切っているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端ともに途切れている。規模は、全長3.32m、上場幅0.40～0.50m、下場幅0.27～0.40m、深さ0.17m、断面形は碗状である。方位はN-61° -Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第175号溝跡 (第235・238・239・241図)

D-20・21グリッドに位置する。第108号土壌を切っているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、西側は途切れ、東側は調査区外に続く。規模は、全長3.50m、上場幅2.19～4.45m、下場幅1.99～2.70m、深さ0.19～0.26m、断面形は逆台形である。方位はN-68° -Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第176号溝跡 (第235・238図)

E-19グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長0.60m、上場幅0.51～0.58m、下場幅0.42～0.49m、深さ0.28m、断面形は逆台形である。方位はN-14° -Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第177号溝跡 (第233・234図)

F-16グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長2.40m、上場幅0.25～0.40m、下場幅0.17～0.30m、深さ0.05m、断面形は皿状である。方位はN-23° -Eを指す。

遺物は出土しなかった。

第178号溝跡 (第233・234図)

D-16グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長0.79m、上場幅0.39～0.45m、下場幅0.15m、深さ0.15m、断面形は逆台形である。方位はN-74° -Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第179号溝跡 (第233・234図)

D-16・17グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長2.60m、上場幅0.40～0.50m、下場幅0.30～0.39m、深さ0.16m、断面形は碗状である。方位はN-55° -Wを指す。

遺物は出土しなかった。

第180号溝跡 (第235・238図)

E-18グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長1.60m、上場幅0.32～0.61m、下場幅0.21～0.45m、深さ0.16m、断面形は逆台形である。方位はN-23° -Eを指す。

遺物は出土しなかった。

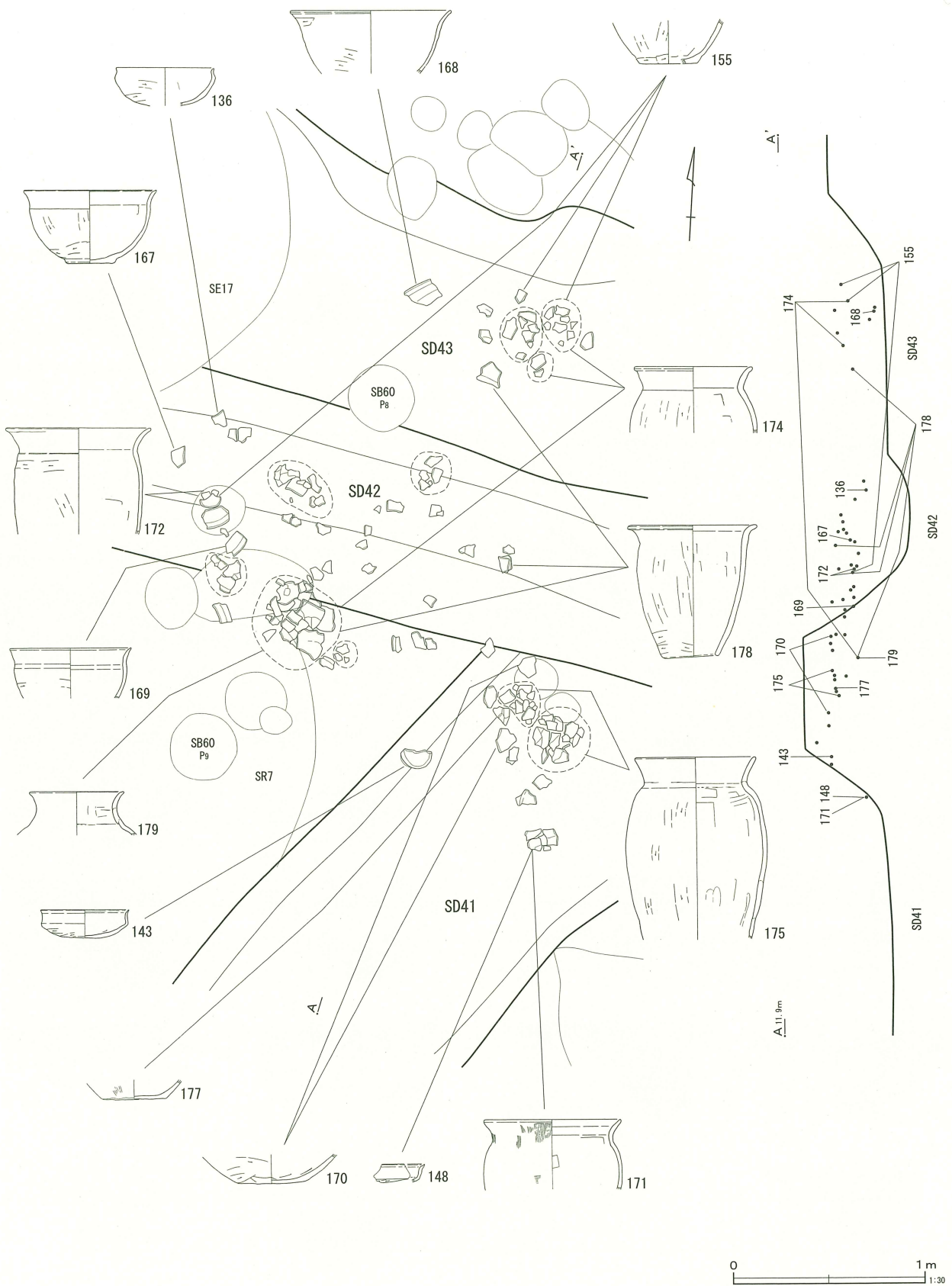
第181号溝跡 (第235・237図)

E・F-18グリッドに位置する。第56号溝跡に切られるが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端ともに途切れる。規模は、全長6.55m、上場幅0.35～0.88m、下場幅0.20～0.69m、深さ0.24m、断面形は一部に段を持つ逆台形である。方位はN-67° -Wを指す。

遺物は出土しなかった。

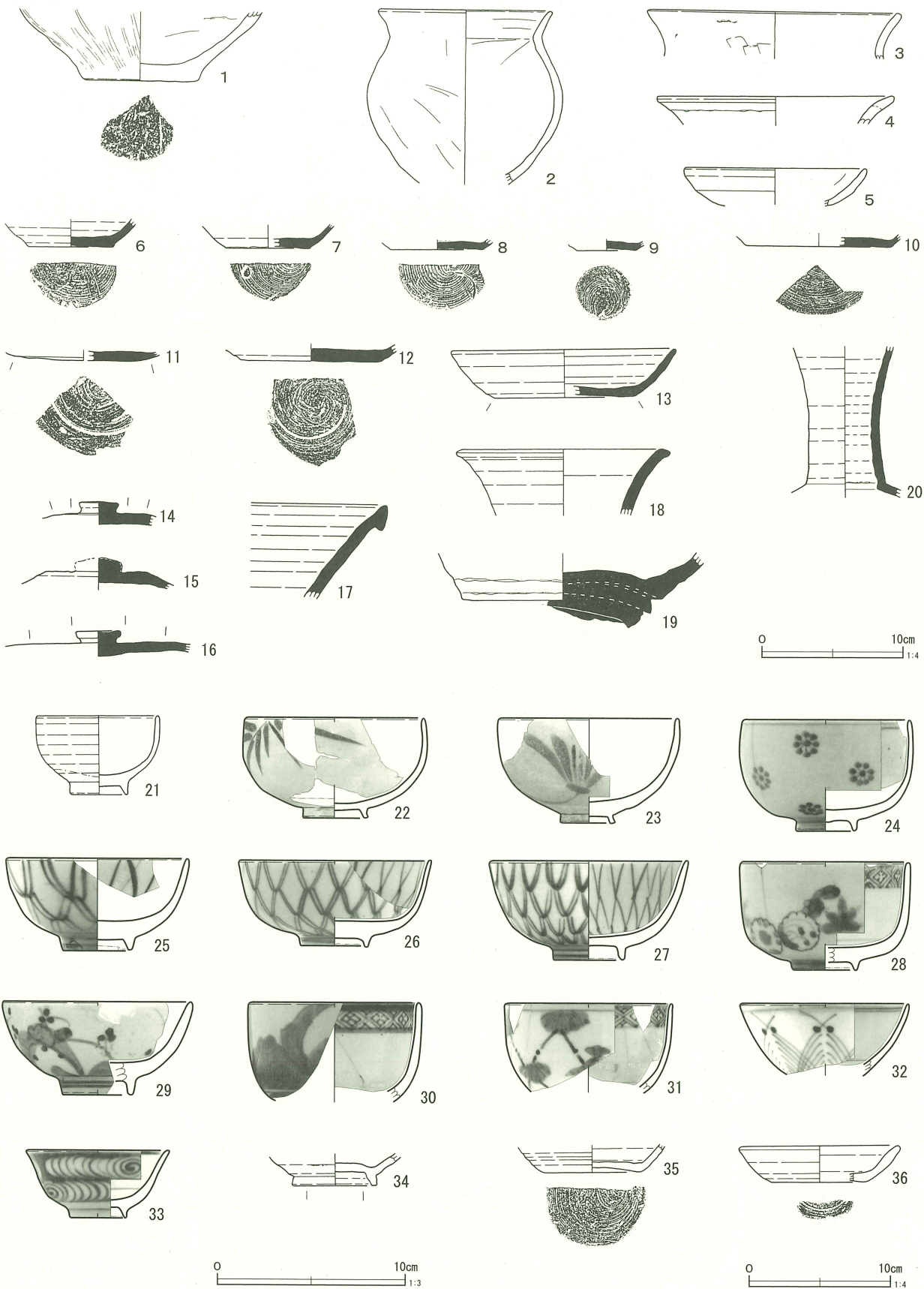
第182号溝跡 (第235・238図)

F-19グリッドに位置する。平面形は概ね直線状で、北は途切れ、南は調査区外に続く。規模は、全長1.10m、上場幅0.18～0.25m、下場幅0.10m、深さ0.07m、断面形は皿状である。方位はN-53° -Wを指す。

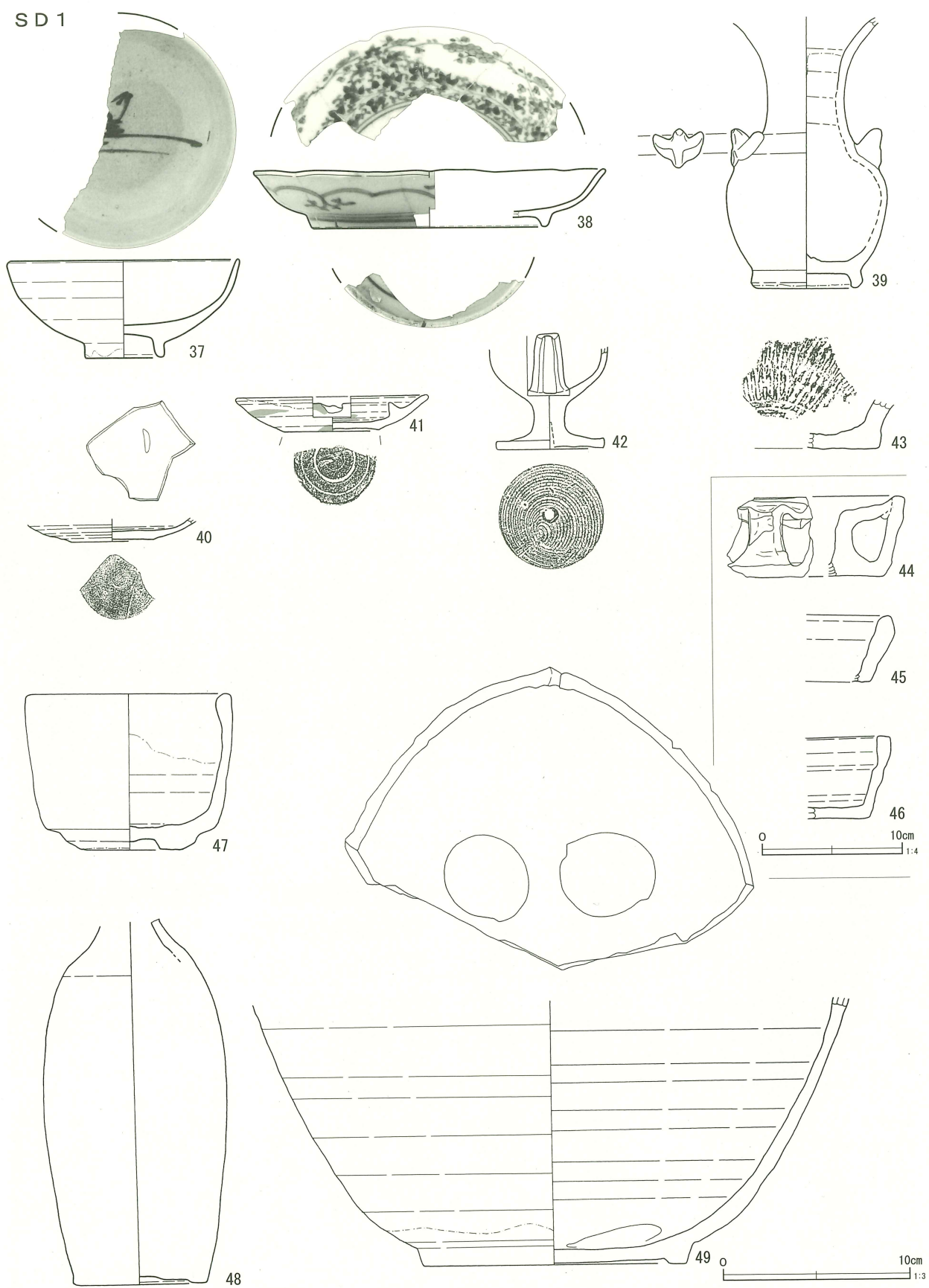


第242图 第41~43号沟迹遗物出土状况

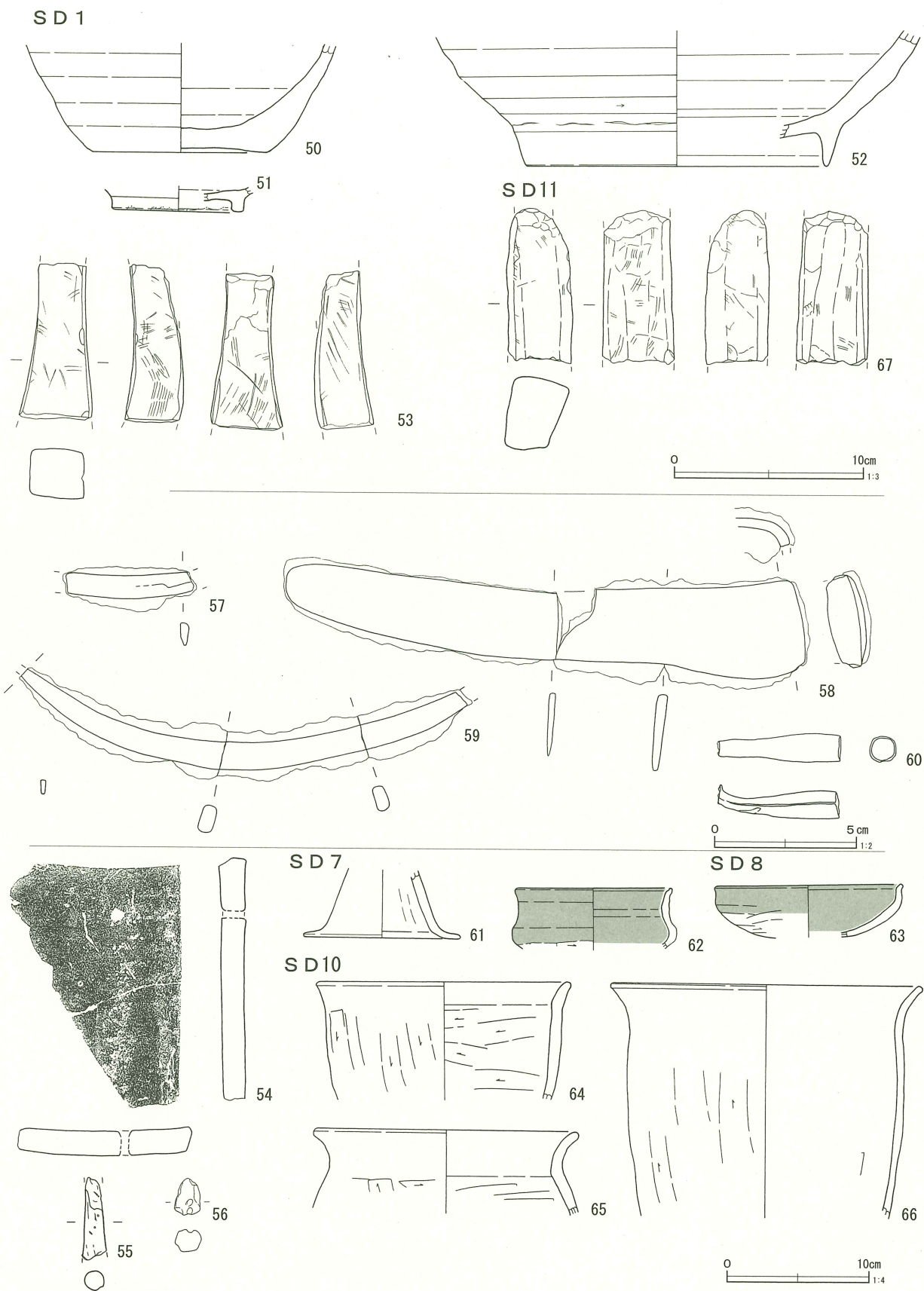
SD 1



第243图 溝跡出土遺物 (1)

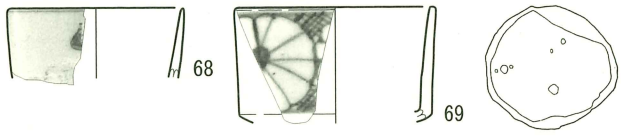


第244图 溝跡出土遺物(2)

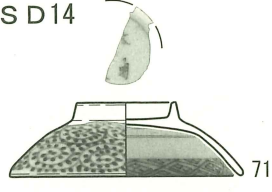


第245図 溝跡出土遺物 (3)

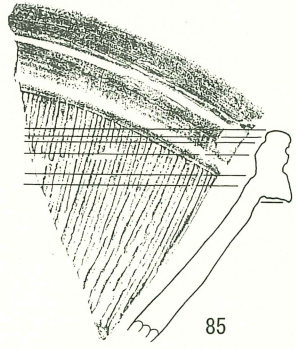
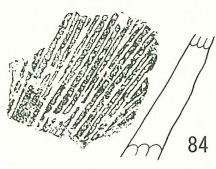
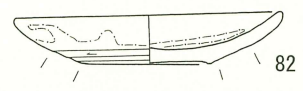
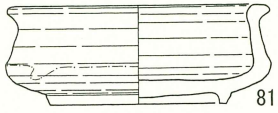
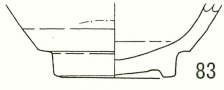
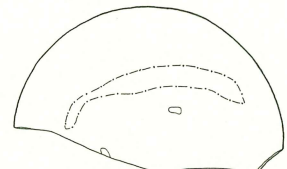
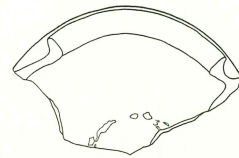
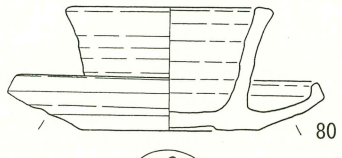
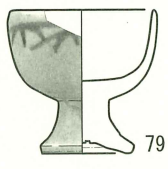
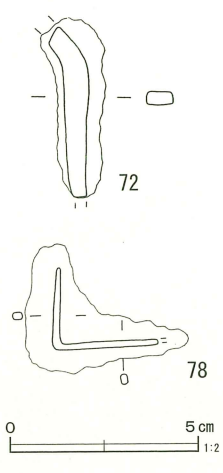
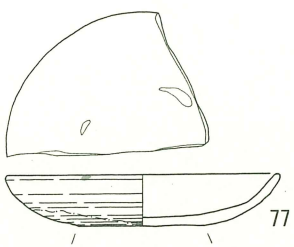
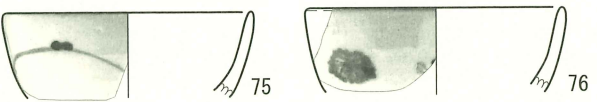
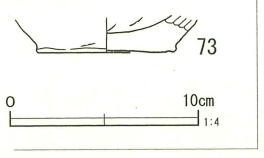
SD13



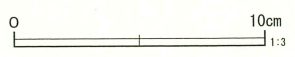
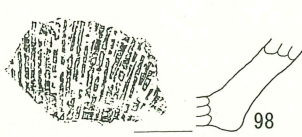
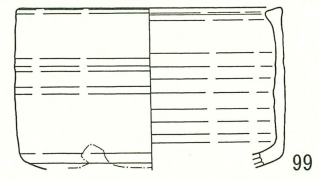
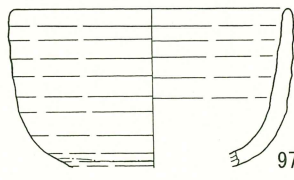
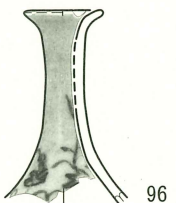
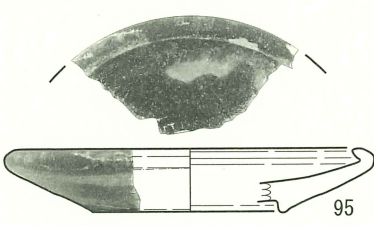
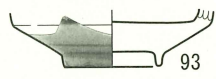
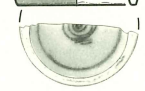
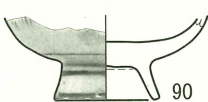
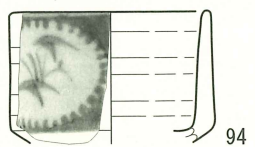
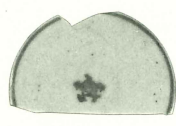
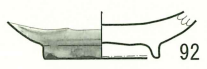
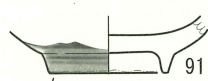
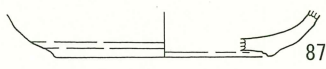
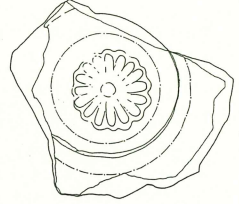
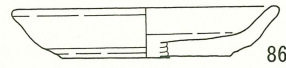
SD14



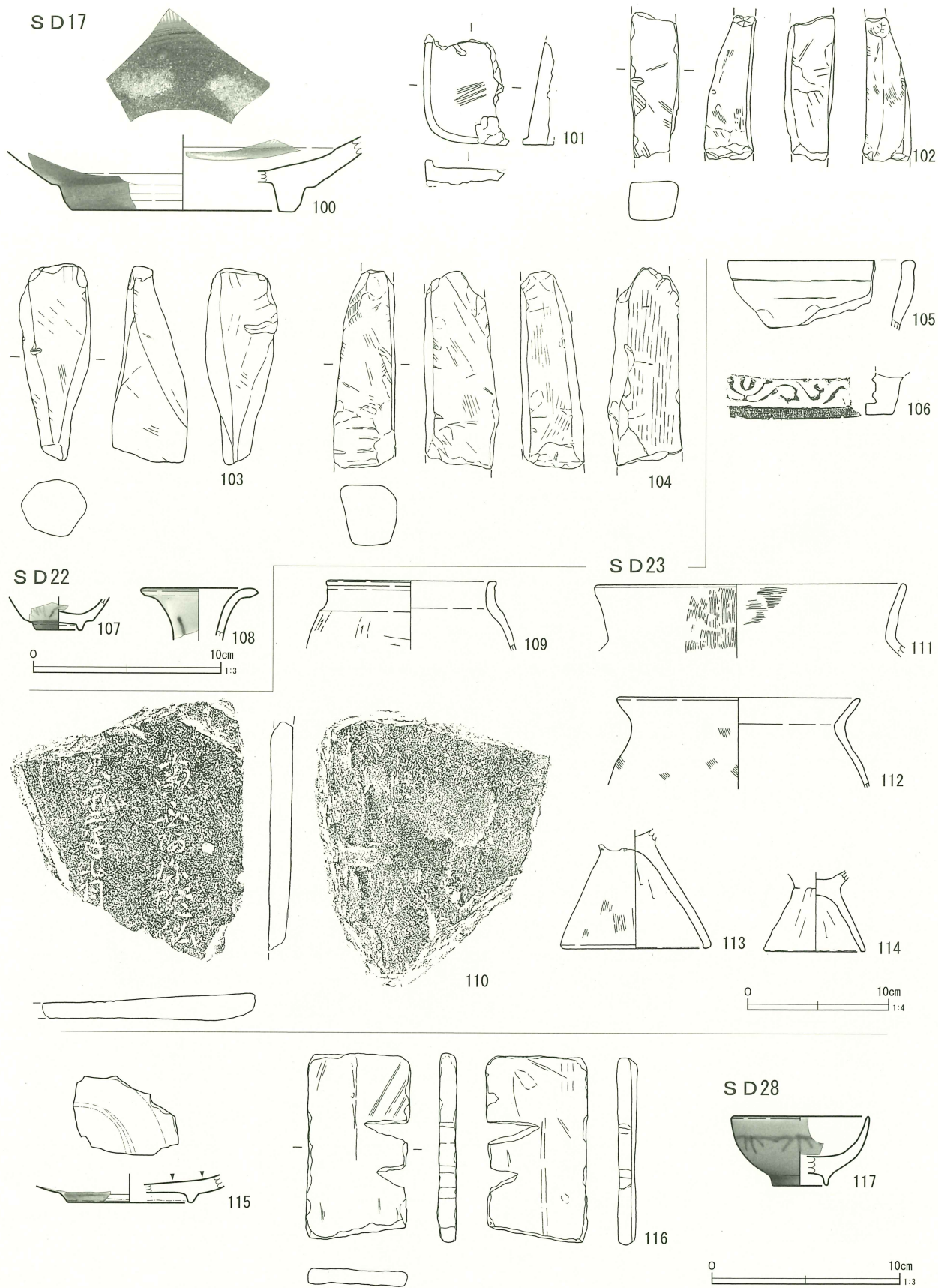
SD16



SD17

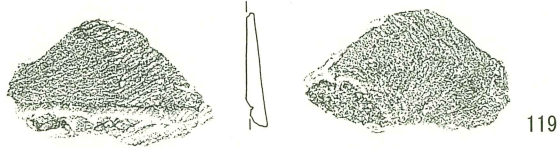
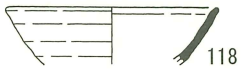


第246图 沟跡出土遺物(4)

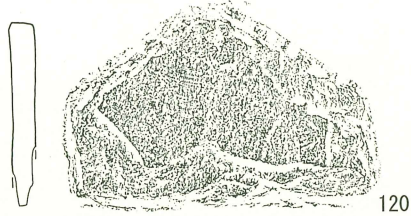
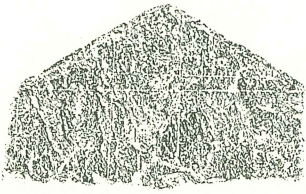
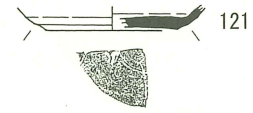


第247图 沟跡出土遺物 (5)

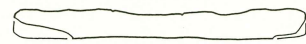
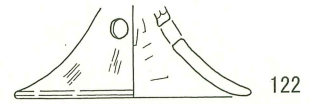
SD26



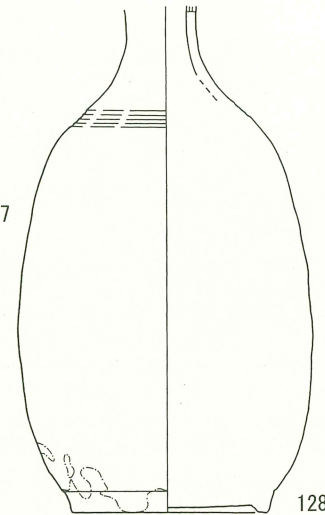
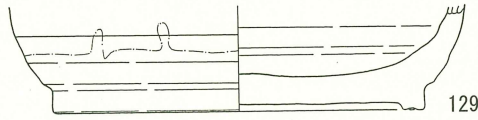
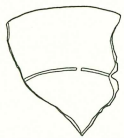
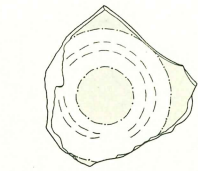
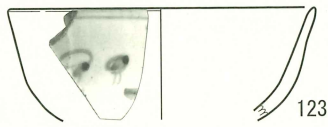
SD29



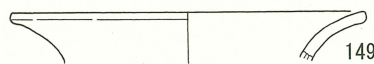
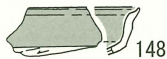
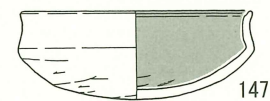
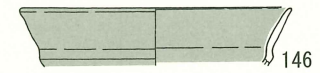
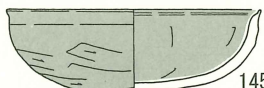
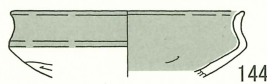
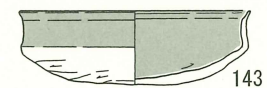
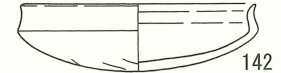
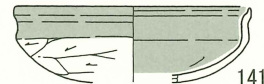
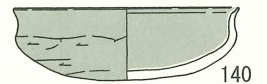
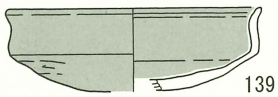
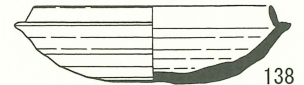
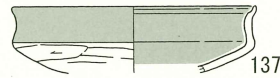
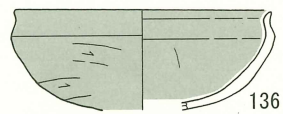
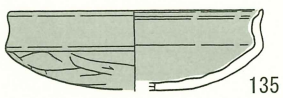
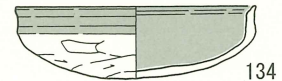
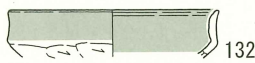
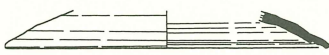
SD32



SD40

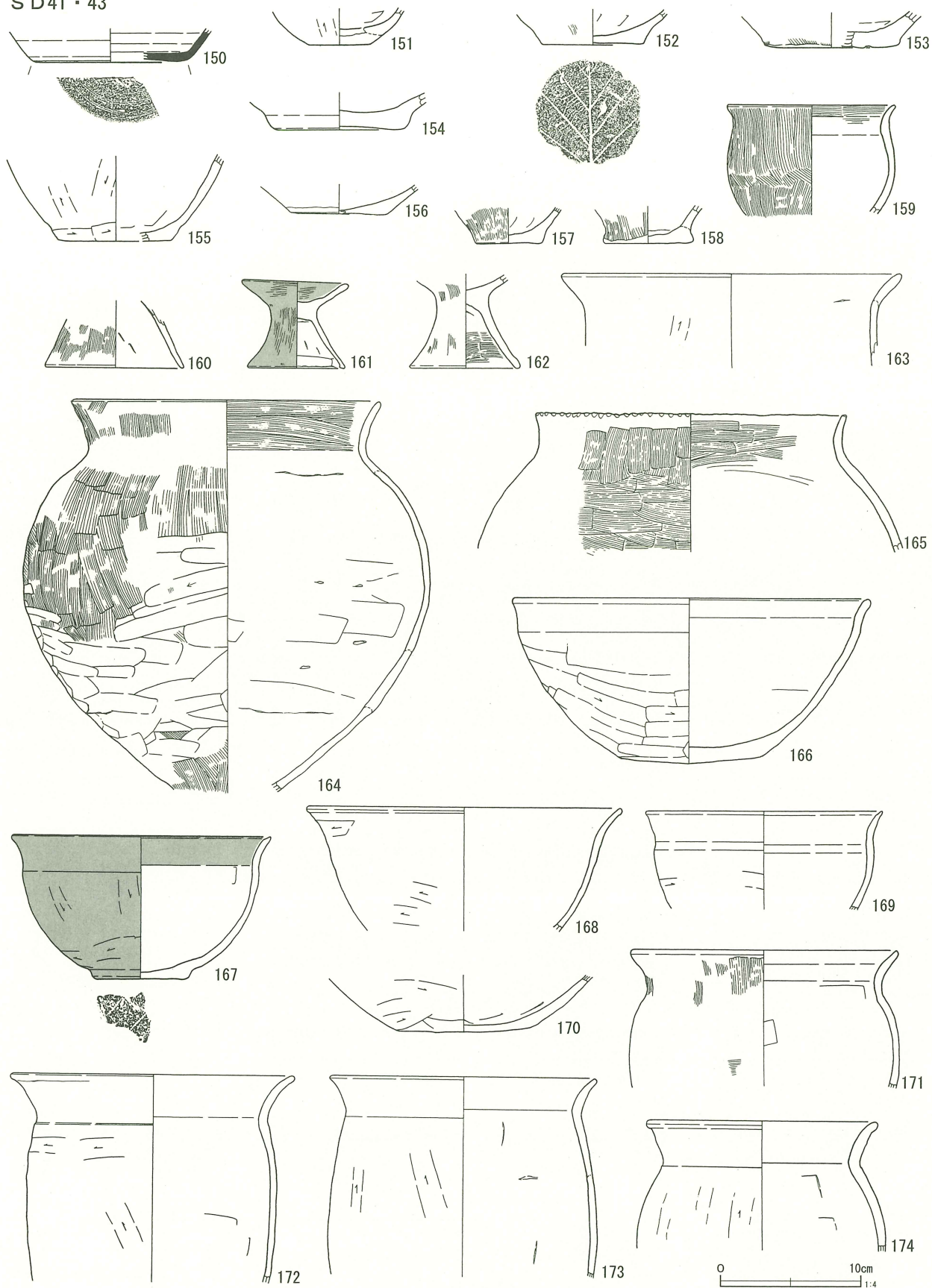


SD41 · 42 · 43



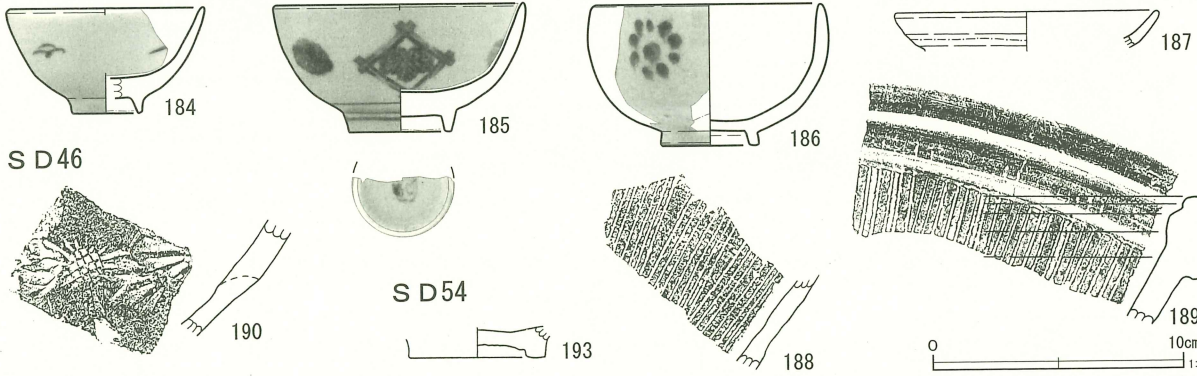
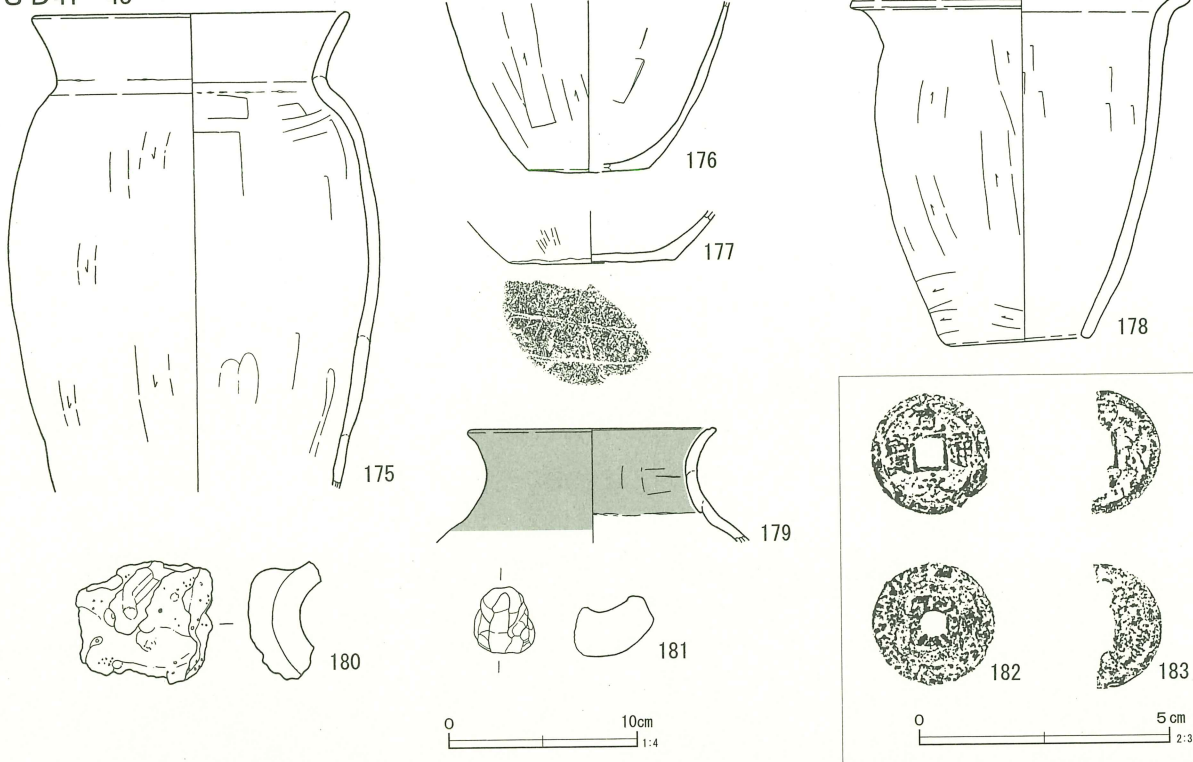
第248图 溝跡出土遺物(6)

SD41 · 43



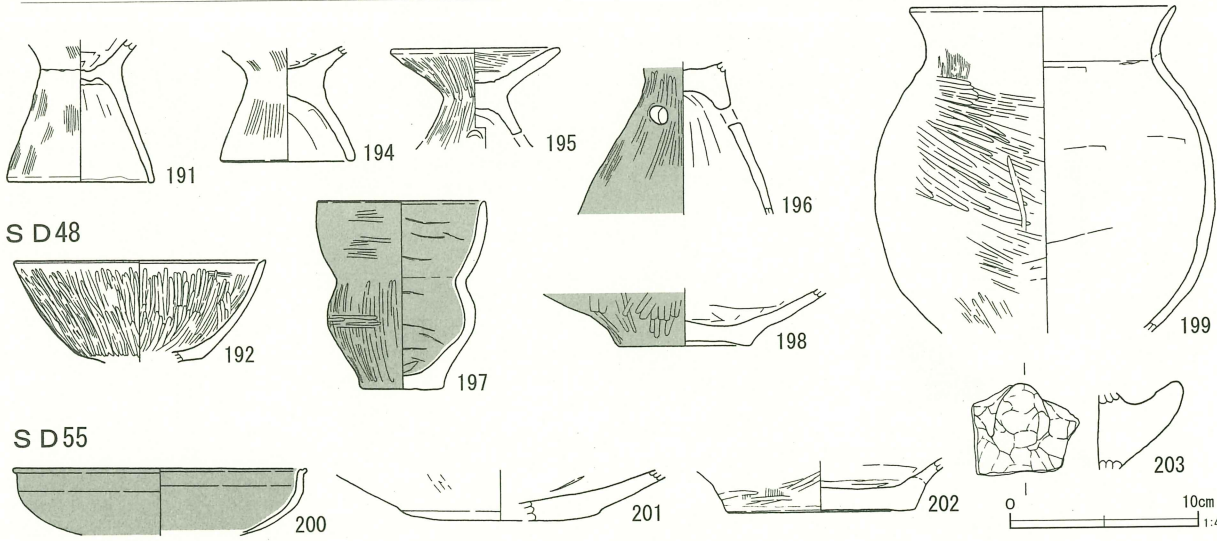
第249图 清跡出土遺物 (7)

SD41 · 43



SD46

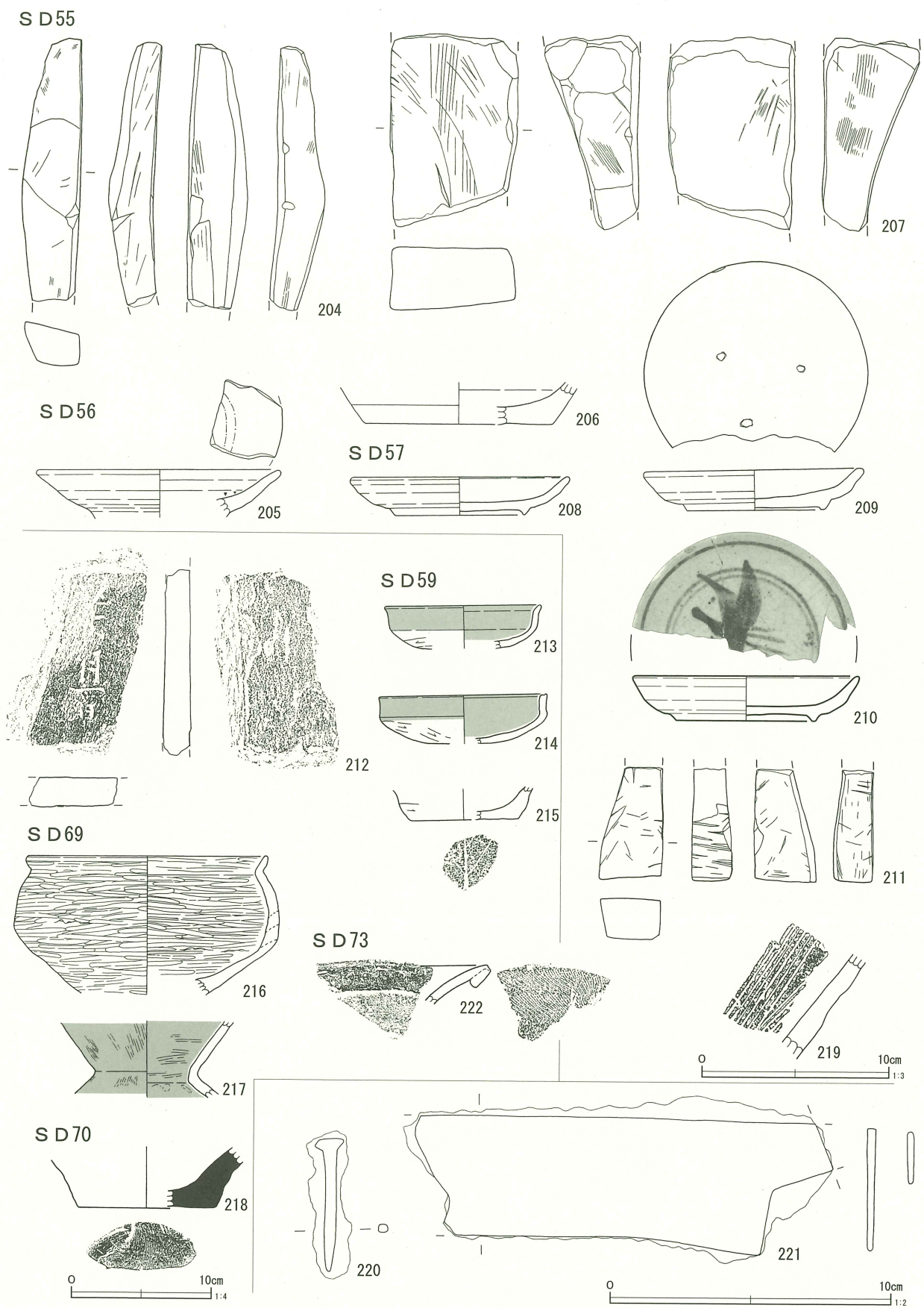
SD54



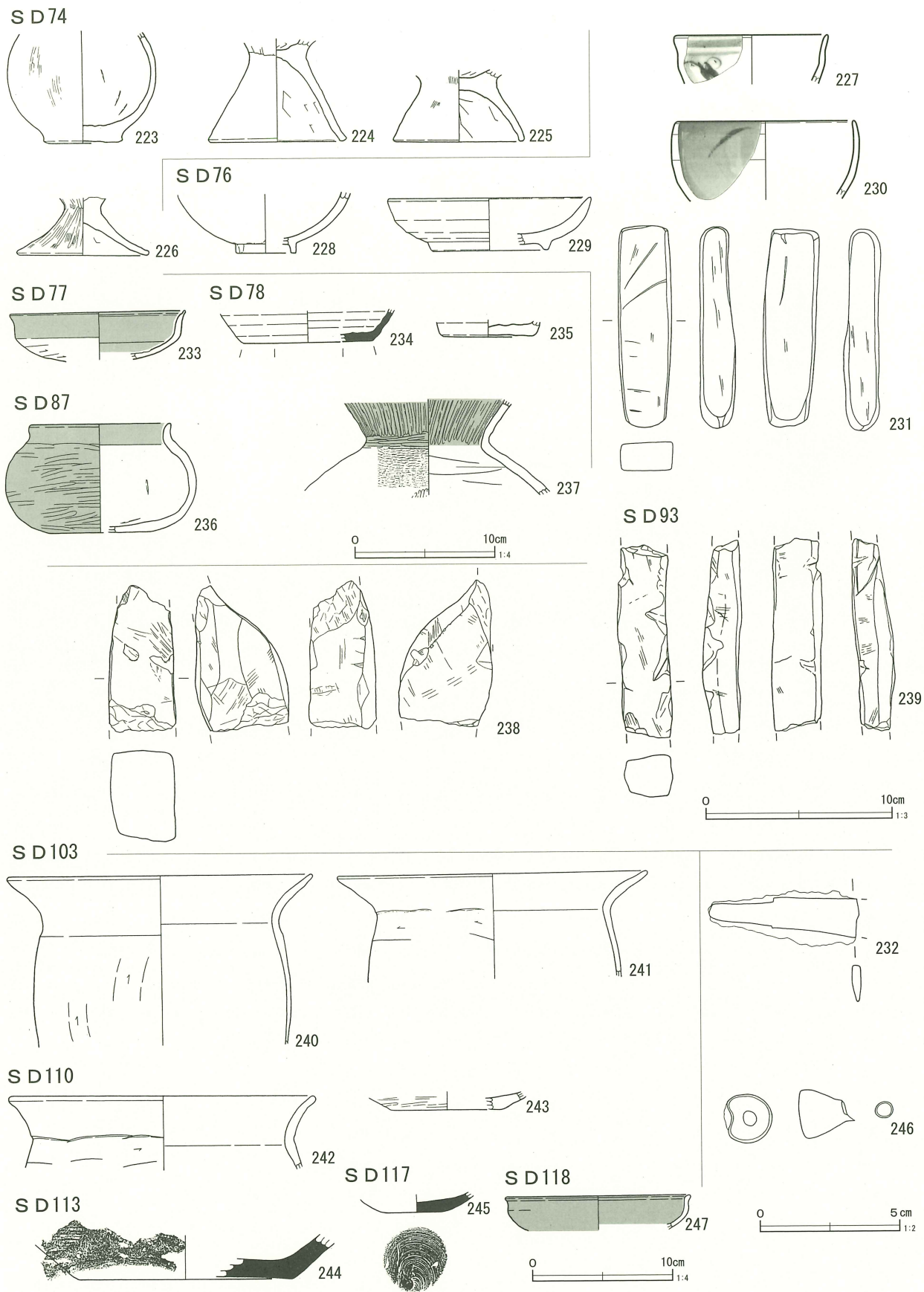
SD48

SD55

第250图 清跡出土遺物 (8)

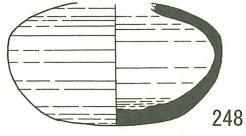


第251図 溝跡出土遺物(9)

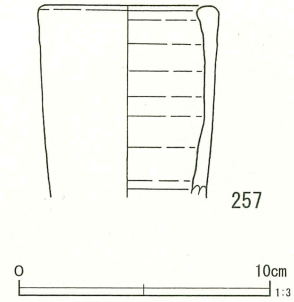
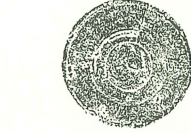
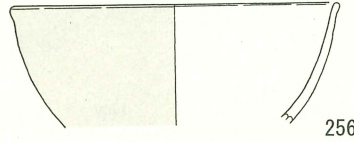
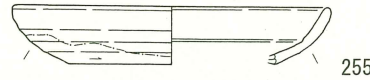
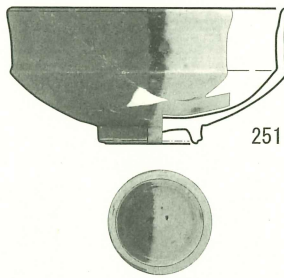
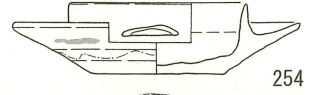
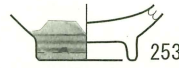
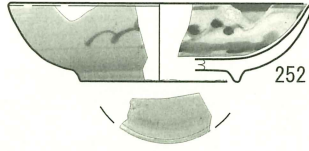
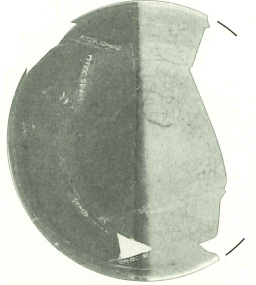
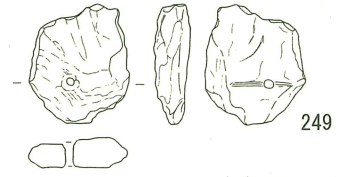
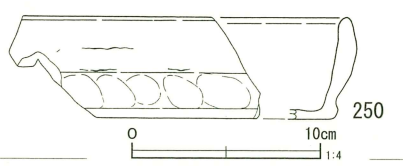


第252図 溝跡出土遺物 (10)

SD120



SD123



第253図 溝跡出土遺物 (11)

第28表 溝跡出土遺物観察表

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
1	SD1	A	土師器	壺	40		(8.0)	[4.9]	A C D F G	普通	橙		O-20G 器面風化顕著 底部木葉痕
2	SD1	A	土師器	台付甕か	60	(12.4)		[12.3]	A F G H	普通	明赤褐		B-21G 器面風化 被熱により赤色化
3	SD1	A	土師器	甕	10	(18.0)		[3.3]	C E F J	普通	灰白		No.10 器面風化顕著
4	SD1	A	土師器	甕	10	(16.8)		[2.0]	A D F G	普通	灰褐		B-21G 器面風化顕著
5	SD1	A	土師器	坏	40	(13.0)		[2.8]	A C F G J	普通	橙		A-21G 器面風化
6	SD1	A	須恵器	坏	40		(6.0)	[2.0]	A C G H	良好	灰	轆轤	A-21G 底部回転糸切り離し後ヘラナデ
7	SD1	A	須恵器	坏	40		(6.0)	[1.7]	A C G H	良好	灰	轆轤	A-21G 底部回転糸切り離し
8	SD1	A	須恵器	坏	30		(6.6)	[0.7]	A G H	良好	灰	轆轤	A-21G 底部回転糸切り離し
9	SD1	A	須恵器	坏	95		4.4	[0.8]	A F G	不良	にぶい黄橙	轆轤	底部回転糸切り離し
10	SD1	A	須恵器	坏	20		(10.0)	[1.0]	A C F G	普通	灰白	轆轤	A-21G 底部回転糸切り離し後ヘラ削り
11	SD1	A	須恵器	坏	25		(9.5)	[0.7]	A C D G H	良好	黄灰	轆轤	A-21G 底部回転ヘラ削り
12	SD1	A	須恵器	坏	25		(10.0)	[1.3]	A G H	普通	灰	轆轤	A-21G 底部回転糸切り離し後ヘラ削りか
13	SD1	A	須恵器	坏	20	(16.0)	(10.0)	3.3	C F H	普通	灰	轆轤	内外面火だすきあり 底部回転ヘラ削り
14	SD1	A	須恵器	蓋	30		摘み径 2.8	[1.7]	A C E G H	良好	灰	轆轤	A-21G 回転ヘラ削り
15	SD1	A	須恵器	蓋	50			[2.2]	A G H	良好	灰	轆轤	回転ヘラ削り
16	SD1	A	須恵器	蓋	60		摘み径 3.1	[1.7]	A C D G H	普通	褐灰	轆轤	A-21G 回転ヘラ削り
17	SD1	A	須恵器	甕	10			[6.7]	A B G	普通	灰	轆轤	D-20G 内面自然釉
18	SD1	A	須恵器	壺	20	(15.3)		[4.7]	A F G H	普通	灰	轆轤	A-21G 内外面自然釉
19	SD1	A	須恵器	壺	70		14.2	[5.3]	A E G	良好	灰	轆轤	No.1 自然釉付着 底部に焼台と思われるもの有
20	SD1	A	須恵器	長頸壺	80			[10.6]	A C G H	良好	灰白	轆轤	P-20G 自然釉

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
21	SD1	A	陶器	小碗	80	6.6	3.1	4.1	A G	良好	灰白	轆轤	D-20G 灰釉 貫入多 腰～高台内無釉 貼付け高台か 瀬戸・美濃系 18C 後半か
22	SD1	A	陶器	碗	80	(9.3)	3.5	5.2	G	良好	灰白	轆轤	透明釉 銅緑釉 貫入多 花文 削出し高台 見込み砂粒微量付着 京・信楽系 18C 中～後半
23	SD1	A	陶器	碗	70	9.5	2.9	5.5	G	良好	灰白	轆轤	D-20G 灰釉 銅緑釉・鉄釉イッチン 貫入多 腰～高台内無釉 貼付け高台か 二次的被熱 京・信楽系 18C 中～後半 半球形
24	SD1	A	磁器	碗	85	8.8	3.1	5.8	G	良好	灰白 緻密	轆轤	D-20G 透明釉 呉須 畳付無釉 見込み「寿」 削出し高台 畳付～高台内砂粒付着 肥前系 18C 中～後半
25	SD1	A	磁器	碗	70	(9.6)	3.6	4.8	G	良好	灰白	轆轤	透明釉 呉須 文様は雑 削出し高台 瀬戸・美濃系か 19C 前～中
26	SD1	A	磁器	碗	90	10.0	3.4	4.5	C G	良好	灰白	轆轤	D-20G 透明釉 呉須 文様は雑 高台内襷「福」か 削出し高台 高台内砂粒多量付着 瀬戸・美濃系か 19C 前～中
27	SD1	A	磁器	碗	80	10.4	3.6	5.2	G	良好	灰白	轆轤	D-20G 透明釉 呉須 二重網目文 見込み二重圈 線・菊花文 高台内襷「福」か 瀬戸・美濃系か 19C 前～中
28	SD1	A	磁器	碗	50	(9.0)	(3.5)	5.6	G	良好	灰白	轆轤	透明釉 呉須 外面松 内面口縁四方禪文 五弁花文 削出し高台 肥前系 18C 中～後半
29	SD1	A	磁器	碗	40	(10.0)	(3.8)	4.9	G	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 高台内施釉 草花文 削出し高台 肥前系 18C 後半
30	SD1	A	磁器	碗	40	(9.0)		[5.2]	G	良好	灰白	轆轤	D-20G 透明釉 呉須 内面口縁四方禪文 肥前系 18C 後半
31	SD1	A	磁器	碗	30	(8.8)		[4.6]	G	良好	灰白 緻密	輪積	D-20G 透明釉 呉須 内面口縁四方禪文 肥前系 18C 中～後半
32	SD1	A	磁器	碗	80	(9.0)		[3.9]	D	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 肥前系 19C 代か
33	SD1	A	磁器	小坏	50	7.5	2.8	3.6	G	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 削出し高台 瀬戸・美濃系 19C 前～中葉
34	SD1	A	磁器	碗	80		4.5	[1.7]	A	普通	灰黄	轆轤	外面黄釉に白化粧土 貫入多 腰に刷毛目か 貼付け 高台か 回転ヘラ削り 瀬戸・美濃系か 18C 代か
35	SD1	A	轆轤 土師か	皿か	20		(6.8)	[2.0]	C E F H	普通	橙	轆轤	底部回転糸切り離し
36	SD1	A	土器	かわらけ	20	(11.3)	(6.4)	2.5	B E F	普通	橙	轆轤	A-21G 底部回転糸切り離し
37	SD1	A	陶器	平碗	55	(12.6)	4.2	5.1	G	良好	黄灰 緻密	轆轤	透明釉 貫入多 轆轤目比較的顕著 見込み楼閣山水文(鉄絵) 削出し高台 肥前系 17C 後半 京焼風陶器
38	SD1	A	磁器	菊皿	30	(18.8)	(12.6)	3.1	G	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 内面梅樹文か 削出し高台 畳付・高台内砂粒付着 肥前系 18C 前半
39	SD1	A	青磁	瓶	95		5.4	[14.4]	A	良好	灰 緻密	轆轤	双鳥形耳付 貫入多 高台内施釉 削出し高台 漆継ぎか 舶載品
40	SD1	A	陶器	灯明皿	20		(4.4)	[1.2]	A	良好	褐灰	轆轤	内外面鉄釉 外面刷毛塗り 見込み輪トチ跡 瀬戸・美濃系 18C 後半～19C 前半
41	SD1	A	陶器	灯明 受皿	40	(10.3)	5.0	1.8	A F G	良好	灰白	轆轤	外面煤付着 内面油溝(半月状)付近油煙付着 底部ヘラ削り 瀬戸・美濃系 19C 前半
42	SD1	A	陶器	乗燭	60		5.7	[6.2]	A G	良好	灰白 緻密	轆轤	D-20G 鉄釉 底部無釉 底部回転糸切り離し 瀬戸・美濃系 18C 中頃
43	SD1	A	陶器	播鉢	5			[2.5]	A G	良好	灰黄	輪積か	焼締か 丹波系か 18C 代か
44	SD1	A	土器	焙烙	5			5.6	A B F	普通	灰黄褐		B-21G 在地系
45	SD1	A	土器	焙烙	5			[4.8]	A G H	普通	灰	輪積	中層 外面煤付着
46	SD1	A	土器	焙烙	5			6.2	A B F G	普通	褐灰	輪積	上層
47	SD1	A	青磁	香炉	95	11.0	6.5	8.2	A G	良好	灰白 緻密	轆轤	D-26G 青磁釉 高台内施釉 削出し高台 畳付砂粒付着 高台内トチ跡 17C 後半
48	SD1	A	陶器	德利	100		7.2	[19.3]	A	良好	灰	轆轤	外面灰釉 畳付・高台内施釉 畳付トチ跡か 欠口粗く面取り 4.4台 瀬戸・美濃系 18C 後半
49	SD1	A	陶器	捏鉢か	25		(14.0)	[14.1]	A J	普通	灰白	轆轤	灰釉 貫入多 削出し高台 見込みトチ跡2 瀬戸・美濃系 18C 中葉～19C 初頭
50	SD1	A	陶器	甕	45		9.4	[5.7]	A B C D H	普通	褐灰	輪積	A-21G
51	SD1	A	磁器	瓶	10		(7.0)	[1.4]	A G	良好	灰白 緻密	轆轤	德利か 外面透明釉 貫入多 高台内施釉 削出し高台 高台内砂粒付着 肥前系 18C 代か
52	SD1	A	陶器	甕	20		(16.0)	[7.2]	A C F G	普通	黄灰	轆轤	B-21G 焼締 貼付け高台
53	SD1	A	石製品	砥石		長さ[8.1]cm 重さ110.9g	幅3.3cm	厚さ2.6cm					A-21G 4面使用(上下端部以外) 使用度高 凝灰岩
54	SD1	A	軟質 陶器	平瓦		長さ[17.1]cm 厚さ1.9cm	幅[12.3]cm 孔径0.5cm		D G H		灰		D-20G やや砂質
55	SD1	A	土製品	不明	80	長さ[6.6]cm 厚さ1.4cm	幅1.6cm 径1.4cm		F G		橙		No6
56	SD1	A	貝塚穴 痕泥岩			長さ2.5cm 重さ6.4g	幅1.7cm	厚さ1.5cm			にぶい 黄橙		3孔 被熱による赤色化弱
57	SD1	A	鉄製品	刀子か		長さ[4.6]cm 重さ9.8g	幅0.8cm	厚さ0.1～0.3cm					B-21G 両端部欠損 錆化著しい
58	SD1	A	鉄製品	鎌		長さ18.4cm 重さ127.9g	幅3.3cm	厚さ0.35cm					B-21G 錆化著しい
59	SD1	A	鉄製品	不明		長さ[16.0]cm 厚さ0.2～0.5cm	幅0.4～1.0cm	重さ55.8g					B-21G 錆化著しい

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
60	SD1	A	青銅製品	煙管吸口		長さ [4.3] cm	径0.9cm	重さ4.1 g					緑錆をふくものの遺存状況比較的良好
61	SD7	C	土師器	高坏	15		(11.0)	[4.8]	B E	普通	明褐		器面風化顕著
62	SD7	C	土師器	坏	10	(12.0)		[4.4]	A G	良好	明赤褐		内外面赤彩
63	SD8	C	土師器	坏	30	(13.2)		[3.6]	A B C G K	普通	橙		内面・外面口縁部赤彩
64	SD10	C	土師器	甌	20	(18.0)		[8.2]	C F J	普通	にぶい 黄橙		I-10G 外面黒斑あり
65	SD10	C	土師器	甌	15	(18.7)		[5.8]	A C F G	普通	にぶい 褐		I-10G
66	SD10	C	土師器	甌	20	(22.0)		[16.3]	C F G	普通	明赤褐		器面風化顕著
67	SD11	C	石製品	砥石		長さ [8.0] cm 重さ147.7 g	幅3.3cm	厚さ3.7cm					旧 SD33 上下端部以外使用 凝灰岩
68	SD13	C	磁器	碗	30	(7.0)		[2.8]	A	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 内外面全面釉 瀬戸・美濃系か 19C
69	SD13	C	磁器	小碗	10	(7.8)		[4.5]	G	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 菊花散らし文 内面口縁二重圏線 肥前系 18C 中～後葉 筒型
70	SD13	C	陶器	碗	95		4.4	[1.0]	A F	普通	灰黄	轆轤	内面施釉 削出し高台 見込み砂粒付着 瀬戸・美濃系 18C 代か 天目碗
71	SD14	C	磁器	蓋	40	(9.3)	摘み径 (4.0)	2.9	G	良好	白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 外面蛸唐草文 内面口縁四方摩文 見込み二重圏線・草花文 摘み内「大明□□」 摘み削出し 瀬戸・美濃系 19C 前半
72	SD14	C	鉄製品	釘か		長さ [4.5] cm 重さ8.7 g	幅1.1cm	厚さ [0.7] cm					錆化著しい 両端部欠損
73	SD16	A	土師器	壺	50		(7.4)	[2.0]	A B D G	普通	浅黄橙		器面磨滅顕著 調整痕はみえづらい
74	SD16	A	磁器	小坏	45	(6.6)	(2.8)	3.4	G	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 笹文 削出し高台 畳付砂粒付着 鉄漿塗付 肥前系 18C 中～後半
75	SD16	A	磁器	碗	30	(9.8)		[3.3]	A	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 梅樹文 肥前系 18C 中～後半
76	SD16	A	磁器	碗	20	(10.2)		[3.3]	G	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 蕨文 肥前系 18C 中頃
77	SD16	A	陶器	灯明皿	30	(10.9)	(5.0)	2.0	E	良好	浅黄	轆轤	鉄釉 見込み輪トチ跡 外面口縁重積跡 灰色かかる油のシミ跡か 瀬戸・美濃系 18C 後葉～19C 中葉
78	SD16	A	鉄製品	鋸か		長さ [2.4+2.2] cm 厚さ0.2cm 重さ19.2 g	幅0.2cm						錆化著しい
79	SD16	A	磁器	仏飯具	70	(5.0)	3.5	5.6	A G	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 削出し高台 畳付砂粒付着 肥前系 17C 末～18C 中葉
80	SD16	A	陶器	灯明皿 受台	80	11.8	7.0	4.9	A G	良好	灰黄	轆轤	外面灰釉 底部無釉 削出し高台 高台内に「十」 の墨書 瀬戸・美濃系 17C 中葉～18C 前半
81	SD16	A	陶器	香炉	30	(10.5)	(7.5)	4.0	A G	良好	灰白	轆轤	鉄釉 削出し高台 見込み輪トチ跡 畳付釉付着 瀬戸・美濃系 17C 後葉
82	SD16	A	陶器	皿	50	(10.7)	5.2	1.9	A G	良好	淡黄	轆轤	鉄釉 削出し高台 見込み目跡3カ所 外面砂目跡 瀬戸・美濃系 17C 後半か
83	SD16	A	陶器	碗	30		4.8	[2.9]	C F G	良好	灰白	轆轤	鉄釉 削出し高台 瀬戸・美濃系 18C 代か 天目碗
84	SD16	A	陶器	播鉢	5			[4.9]	A C G	普通	にぶい 橙		焼締 丹波系か 18C 代か
85	SD16	A	陶器	播鉢	10			[8.5]	A G	良好	赤褐	轆轤	焼締 卸目8本/条 堺系か 18C 中～後半
86	SD17	A	陶器	皿	20	(10.6)	(6.6)	2.0		普通	灰白	轆轤	長石釉 底面砂目跡 瀬戸・美濃系 17C 前半
87	SD17	A	陶器	皿	5		(8.4)	[1.7]	G	良好	灰白	轆轤	長石釉 貫入多 畳付施釉 削出し高台 瀬戸・美濃系 志野 16C 末～17C 初頭
88	SD17	A	陶器	皿	80		5.5	[2.0]	F G	良好	黄灰	轆轤	鉄釉 見込み蛇目釉剥ぎ 刻印(菊花文) 削出し高台 釉剥ぎ内高台跡 瀬戸・美濃系 17C 末～18C 中葉
89	SD17	A	磁器	碗	20		3.2	[2.9]	G	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 貫入多 高台内施釉 腰に寿文 見込み一重圏線・「寿」か 削出し高台 肥前系か 19C 前葉 焼継ぎ
90	SD17	A	磁器	仏飯具 か	70		4.2	[3.2]	A	良好	灰白	轆轤	透明釉 呉須 付高台か 見込み・畳付砂粒付着 肥前系 18C 後半か
91	SD17	A	磁器	碗	30		(4.6)	[2.2]	G	良好	灰白 緻密	轆轤	旧 SD36 透明釉 呉須 高台内施釉・一重圏線・ 襷「福」 削出し高台 畳付砂粒付着 見込みに擦痕 肥前系 18C 前～中葉
92	SD17	A	磁器	碗	95		4.5	[1.8]	G	良好	灰白 緻密	轆轤	旧 SD36 透明釉 呉須 外面丸文・一重圏線 高台内施釉・「大明」か 底部砂目跡 削出し高台 畳付に鉄漿 肥前系 18C 代
93	SD17	A	磁器	碗	50		3.8	[2.2]	G	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 見込み一重圏線・五弁花文 削出し高台 高台内砂粒付着 肥前系 18C 後半
94	SD17	A	磁器	碗	10	(8.0)		[5.1]	E	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 腰に笹文・雪輪文か 内面口縁二重 圏線 見込み一重圏線 肥前系 18C 後葉 筒型
95	SD17	A	陶器	皿	20	(13.1)	(7.6)	2.5	A G	普通	灰	輪積	鉄釉 畳付施釉 うのふ釉流し掛けか 削出し高台 瀬戸・美濃系 18C 代か
96	SD17	A	磁器	瓶	80	3.1		[7.6]	G	良好	灰白 緻密	轆轤	C-20G No5 透明釉 呉須 外面草花文 肥前系 17C 後半
97	SD17	A	陶器	茶碗	10	(10.8)		[6.3]	F	良好	灰白	轆轤	灰釉 貫入多 瀬戸・美濃系 18C 前半
98	SD17	A	陶器	播鉢	5			[3.6]	A C F G	良好	灰褐	輪積	鉄釉 卸目10本/条か 備前系か 18C 代か

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
99	SD17	A	陶器	香炉	20	(10.6)		[6.4]	A F G	良好	灰黄	轆轤	SD17・16 鉄釉 瀬戸・美濃系 18C 前半
100	SD17	A	陶器	鉢	5		(11.7)	[4.0]	A G	良好	にぶい赤褐	轆轤	外面鉄釉 内面鉄釉・白化粧土 削出し高台 見込み砂目跡 肥前系(唐津) 17C 末～18C 前半
101	SD17	A	石製品	硯		縦[5.5]cm 横[4.3]cm 厚さ[1.3]cm 重さ31.5g							赤間石
102	SD17	A	石製品	砥石		長さ[7.7]cm 幅2.5cm 厚さ2.4cm 重さ67.2g							上下端部以外の4面使用 鉄分・マンガン付着 凝灰岩
103	SD17	A	石製品	砥石		長さ[10.4]cm 幅3.6cm 厚さ4.0cm 重さ114.3g							全面使用 凝灰岩
104	SD17	A	石製品	砥石		長さ[10.4]cm 幅3.2cm 厚さ3.8cm 重さ171.1g							上下端部以外の4面使用 産目か 凝灰岩
105	SD17	A	土器	焙烙	5			[4.8]	B E	普通	黒褐	轆轤	外面煤付着
106	SD17	A	軟質陶器	平瓦	5	長さ2.2cm 厚さ[2.8]cm	幅[8.9]cm		A	良好	灰		
107	SD22	A	磁器	小坏	20		(2.4)	[1.7]	D G	良好	灰白緻密	轆轤	透明釉 鉄絵 草文 削出し高台 肥前系 18C 代か
108	SD22	A	磁器	瓶	65	6.2		[2.7]	G	良好	灰白緻密	輪積	透明釉 呉須 肥前系 17C 後半
109	SD22	A	土師器	甕	5	(12.0)		[4.8]	A F G J	普通	橙		器面風化顕著
110	SD22	A	石製品	板碑		長さ[17.2]cm 幅[15.0]cm 厚さ1.7cm							2行目に「南無阿弥陀仏」 緑泥片岩
111	SD23	A	土師器	甕	10	(22.0)		[5.2]	E F	普通	橙		器面風化
112	SD23	A	土師器	甕	40	(17.3)		[6.5]	A C D F G	普通	にぶい橙		器面風化顕著 調整痕殆どなし
113	SD23	A	土師器	台付甕	95		10.7	[8.5]	A D F G	普通	橙		器面風化顕著
114	SD23	A	土師器	台付甕	70		7.2	[5.7]	A C F G	普通	明赤褐		器面風化
115	SD23	A	磁器	皿	20		(6.8)	[1.5]	G	良好	灰白緻密	轆轤	透明釉 呉須 高台内施釉 見込み釉剥ぎ 五弁花文か 削出し高台 見込み高台跡 畳付砂粒付着 肥前系 18C 前半か
116	SD23	A	石製品	砥石		長さ9.7cm 重さ75.9g	幅5.3cm	厚さ0.9cm					上下端部以外使用 鉄分・マンガン付着 凝灰岩
117	SD28	A	磁器	小坏	45	(7.2)	(2.8)	3.6	A	良好	灰白緻密	轆轤	透明釉 箆文 削出し高台 高台内砂粒付着 畳付・高台無釉部分に鉄漿 肥前系 18C 中～後半
118	SD26	A	須恵器	坏	20	(11.4)		[3.0]	A G H	普通	灰	轆轤	
119	SD26	A	石製品	板碑		長さ[6.0]cm 幅[9.9]cm 厚さ[0.8]cm							二条線 緑泥片岩
120	SD26	A	石製品	板碑		長さ[9.7]cm 幅15.6cm 厚さ1.5cm							表面に割付のための細線 キリーク 緑泥片岩
121	SD29	A	須恵器	坏	20		(7.0)	[1.3]	A C H	普通	灰	轆轤	底部回転ヘラ削り
122	SD32	A	土師器	器台	45		(12.5)	[4.7]	A B C F G	普通	明赤褐		No1 器面風化顕著
123	SD32	A	磁器	碗	10	(12.2)		[4.3]	G	良好	灰白	轆轤	透明釉 呉須 口縁一重圈線 草花文か 肥前系 18C 中～後葉か
124	SD32	A	陶器	皿	20	(10.0)	(5.0)	1.9	A	普通	灰	轆轤	灰釉(オフケか) 削出し高台 見込み重積跡 畳付き釉付着 二次的被熱か 瀬戸・美濃系 18C 前半
125	SD32	A	陶器	碗	85		4.6	[2.9]	A G	普通	灰白緻密	轆轤	透明釉 貫入多 削出し高台 二次的被熱 瀬戸・美濃系 18C 後半
126	SD32	A	陶器	皿	10		4.8	[1.7]	A G	良好	灰白緻密	轆轤	外面透明釉 内面銅緑釉 削出し高台 見込み蛇目釉剥ぎ・高台跡 畳付・高台内釉付着 肥前系(内野山) 17C 後半～18C 前半
127	SD32	A	磁器	不明	20		(6.8)	[3.2]	G	良好	灰白緻密	轆轤	外面透明釉 肥前系か 19C 代か
128	SD40	A	陶器	德利	95		7.9	[19.9]	A G	良好	にぶい黄橙	轆轤	旧SD17 C-20G No2 灰釉 畳付・高台内一部釉付着 削出し高台 高台内・畳付トチ跡 瀬戸・美濃系 尾呂か 18C 前半か
129	SD40	A	陶器	甕	60		14.7	[4.2]	E F	良好	灰白	輪積	旧SD17 C-20G No1 鉄釉 畳付・高台内施釉(ハケ) 削出し高台 瀬戸・美濃系 19C 代か
130	SD40	A	青磁	碗	10	(12.2)		[3.6]	G	良好	灰白緻密	轆轤型打	C-19G 青磁釉 貫入多
131	SD41	A	須恵器	蓋	30	(16.3)		[1.9]	A G	良好	灰	轆轤	D-19G かえり欠損
132	SD41	A	土師器	坏	20	(11.2)		[2.5]	A F G	普通	明赤褐		D-19G 内外面赤彩 器面風化
133	SD41	A	土師器	坏	20	(12.0)		[2.9]	A D E F	普通	明赤褐		D-19G 内面・外面口縁部赤彩 器面風化 二次的被熱
134	SD41	A	土師器	坏	70	12.7		3.9	A C D G	普通	にぶい橙		D-19G 内面・外面口縁部赤彩 内面風化
135	SD42	A	土師器	坏	60	13.1		[4.2]	A C F G H J	良好	明赤褐		C-18G 内外面赤彩
136	SD42	A	土師器	坏	20	(13.6)		[5.2]	A C G	普通	赤褐		No3 内外面赤彩
137	SD42	A	土師器	坏	20	(13.0)		[3.5]	A C D F G	良好	明赤褐		C-18G 内面・外面一部赤彩
138	SD42	A	須恵器	坏(身)	65	12.6		4.1	A B C G H	普通	灰	轆轤	No2

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型 技法	備考
139	SD43	A	土師器	坏	40	(13.4)		[4.4]	A D F G H	普通	にぶい 褐		D-19G 内外面赤彩
140	SD43	A	土師器	坏	45	(12.0)		3.8	A B C D F	普通	橙		No5 全面赤彩 内外面とも風化顕著
141	SD43	A	土師器	坏	35	(12.6)		[4.0]	A B C D F G	良好	にぶい 赤褐		D-19G 内面・外面口縁部赤彩
142	SD43	A	土師器	坏	45	(12.4)		3.5	F J	やや 不良	橙		C-17G 器面風化顕著
143	SD43	A	土師器	坏	55	12.4		3.9	A B H	良好	褐		No10 内面・外面口縁部赤彩
144	SD43	A	土師器	坏	40	(12.4)		[3.5]	A B C G	良好	赤褐		C-18G 内面・外面口縁部赤彩
145	SD43	A	土師器	坏	85	13.5		4.4	A C F G	普通	橙		No8 内外面全面赤彩
146	SD43	A	土師器	坏	25	(14.3)		[3.0]	A G H	良好	にぶい 赤褐		D-18G 内外面赤彩
147	SD43	A	土師器	坏	80	12.1		4.6	A C F G	普通	赤褐		No7 内面赤彩
148	SD43	A	土師器	坏	5			[2.6]	A B C D G	普通	橙		No7・9 内外面赤彩
149	SD41	A	土師器	甗	15	(18.9)		[2.7]	A C F G	普通	灰褐		D-19G 器面風化
150	SD41	A	須恵器	坏	20		(11.0)	[2.3]	C E G	普通	灰	轆轤	D-19G 底部回転ヘラ削り
151	SD41	A	土師器	甗	50		4.4	[2.5]	A F G	普通	明赤褐		D-19G
152	SD41	A	土師器	壺	80		7.2	[2.4]	A B C G	普通	橙		D-19G 器面風化顕著 底部木葉痕
153	SD43	A	土師器	甗	20		(9.6)	[2.5]	A F	普通	にぶい 橙		D-19G
154	SD43	A	土師器	壺	60		9.4	[2.6]	A C F G I J	普通	褐灰		C-18G 外面被熱のため赤色化 風化顕著
155	SD43	A	土師器	甗	20		(8.0)	[6.0]	A B C D G	普通	明赤褐		No43・54・56
156	SD43	A	土師器	壺	20		(6.8)	[2.1]	A B C D F G	普通	にぶい 赤褐		D-19G 器面風化顕著 調整不明
157	SD43	A	土師器	甗	60		4.8	[2.5]	A F H	普通	にぶい 黄橙		L-18G
158	SD43	A	土師器	甗	25		(6.4)	[2.7]	A B C D F G	普通	明赤褐		D-19G
159	SD41	A	土師器	台付甗	30	(12.0)		[7.7]	A C J	普通	赤褐		E-18G
160	SD41	A	土師器	台付甗	50		(9.9)	[4.7]	B C D I	普通	明赤褐		E-18G 被熱のため赤色化 器面風化
161	SD41	A	土師器	器台	70	7.6	7.0	6.2	A D E F G	普通	赤褐		E-18G 器面風化
162	SD43	A	土師器	台付甗	90		7.9	[6.6]	A G	やや 不良	明赤褐		C-18G 器面風化顕著
163	SD41	A	土師器	甗	20	(24.2)		[6.6]	C E F	普通	橙		D-19G 器面風化顕著
164	SD41	A	土師器	台付甗	60	(22.0)		[27.5]	A C D F G H	良好	黄灰		No1 外面煤付着
165	SD41	A	土師器	甗	15	(22.0)		[9.6]	E F	普通	にぶい 黄褐		No3 器面風化 内面炭化物・外面煤付着
166	SD41	A	土師器	鉢	40	(25.2)	(10.0)	11.5	A C D F G H	普通	褐灰		No2 器面風化 外面煤付着
167	SD43	A	土師器	鉢	20	(18.4)	(7.0)	10.2	A C F G	普通	橙		No45 内面口縁部・外面赤彩 底部木葉痕
168	SD43	A	土師器	甗	25	(22.4)		[8.7]	A B C F G J	普通	にぶい 赤褐		No49 外面被熱のため赤色化 器面風化
169	SD43	A	土師器	鉢	25	(16.8)		[7.0]	A C D F G	普通	にぶい 黄橙		No40 赤彩か
170	SD43	A	土師器	壺	70		9.7	[4.0]	A B C F G	普通	にぶい 橙		D-19G No14・19
171	SD43	A	土師器	台付甗	25	(19.1)		[9.6]	A F G H	普通	にぶい 橙		No9 器面風化顕著 調整痕は殆ど残っていない
172	SD43	A	土師器	甗	20	(20.2)		[14.8]	B C F G	普通	にぶい 橙		D-19G No43・44 器面風化顕著 調整痕はみえにくい
173	SD43	A	土師器	甗	30	(19.0)		[14.3]	A B C D F G	普通	赤褐		C-18G 器面風化顕著
174	SD43	A	土師器	甗	30	(16.4)		[9.3]	A B C D G	普通	橙		D-19G No35・55・56 器面風化顕著
175	SD43	A	土師器	甗	60	16.8		[25.2]	A B C D F G	普通	にぶい 橙		No17・18 外面下半煤付着
176	SD41	A	土師器	甗	25		(6.6)	[9.0]	B D	普通	にぶい 橙		D-19G 器面風化
177	SD43	A	土師器	壺	30		(8.8)	[2.6]	A B C D G	普通	明赤褐		No15 器面風化顕著 底部木葉痕
178	SD43	A	土師器	甗	80	18.0	8.0	18.2	A C D G H	普通	橙		No24・35・52
179	SD43	A	土師器	壺	30	(13.2)		[6.0]	B C F	良好	赤褐		No35 内面口縁部・外面赤彩 器面風化
180	SD43	A	土器	羽口		長さ7.2cm 重さ102.5g	幅6.5cm		A C G		褐		気泡多

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
181	SD43	A	土師器	甌		長さ3.4cm 厚さ2.5cm	幅3.2cm		A C D F G	普通	赤褐		把手部分
182	SD43	A	青銅製品	銭	95	2.4cm×2.4cm×0.1cm		重さ4.4g					寛永通寶 銹化著しい
183	SD43	A	青銅製品	銭	50	2.4cm×(1.2)cm×0.1cm		重さ1.6g					寛永通寶か 銹化著しい
184	SD43	A	磁器	小碗	45	(7.8)	(2.8)	4.1	G	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 笹文 削出し高台 畳付無釉・砂粒付着 畳付・高台無釉部分に鉄漿 肥前系 18C 中～後半
185	SD43	A	磁器	碗	50	10.0	4.0	5.0	F G	良好	灰白	轆轤	透明釉 貫入 呉須 桐・井桁文 高台内渦「福」 削出し高台 畳付砂粒微量付着 見込み擦痕多 肥前系 18C 前半 くらわんか碗
186	SD43	A	陶器	碗	55	(9.2)	3.8	5.5	E F	普通	灰白	轆轤	透明釉 呉須 花文 貫入多 付高台か 瀬戸・美濃系 19C 前葉
187	SD43	A	陶器	灯明皿	10	(10.5)		[1.4]	A	良好	灰	轆轤	D-19G 鉄釉 瀬戸・美濃系 18C 後～19C 中葉
188	SD43	A	陶器	播鉢	5			[3.7]	A G	良好	灰褐	輪積	C-18G 鉄釉 卸目7本/条 備前系か 17C 代か
189	SD43	A	陶器	播鉢	5			[4.9]	A C G	良好	赤褐		D-18・19G 焼締 卸目8本/条 堺系か 18C 中～後半
190	SD46	A	陶器	甕	5			[4.6]	A G	良好	灰黄	輪積	焼締 外面に刻印
191	SD46	A	土師器	台付甕	55		(7.8)	[7.5]	A C D F G	普通	赤褐		器面風化
192	SD48	A	土師器	高坏	80	13.4		[5.4]	A F G	普通	にぶい 黄橙		C-17G 器面風化
193	SD54	A	陶器	碗	90		5.4	[1.2]	A	良好	灰褐	轆轤	内面銅緑釉か 削出し高台 肥前系か 18C か
194	SD54	A	土師器	台付甕	90		7.0	[6.0]	A G	普通	明赤褐		No1
195	SD54	A	土師器	器台	70	8.9		[5.4]	A B D F G	普通	明赤褐		D-16G 外面へラ磨き
196	SD54	A	土師器	高坏	90			[8.0]	A F G	普通	にぶい 橙		E-17G 外面赤彩 器面風化顕著 調整痕僅かしかみえない
197	SD54	A	土師器	埴か	50	(9.0)	4.5	10.0	A F G	良好	灰褐		D-16G 内外面赤彩
198	SD54	A	土師器	壺	50		7.0	[3.0]	A C D F G H	良好	褐灰		D-16G 外面赤彩
199	SD54	A	土師器	甕	35	(14.2)		[17.2]	A B G	普通	明褐		D-16G 被熱により表面剥離顕著
200	SD55	A	土師器	坏	15	(15.6)		[3.5]	A B D F G	普通	にぶい 橙		内面・外面一部赤彩
201	SD55	A	土師器	壺か	30		(10.0)	[2.7]	A B C G	普通	にぶい 赤褐		No1 器面風化顕著 調整痕殆どみえない
202	SD55	A	土師器	壺	60		(10.0)	[2.6]	A D F G	普通	明褐		旧 SD58 E-17G 器面風化
203	SD55	A	土師器	甌		長さ4.9cm 厚さ4.5cm	幅5.7cm		A B C D F G	普通	明褐		把手部分
204	SD55	A	石製品	砥石		長さ[13.7]cm 重さ111.6g	幅3.1cm	厚さ2.0cm					旧 SD58 E-17G 下端部以外の5面を使用 鉄分・マンガン付着 凝灰岩
205	SD56	A	陶器	皿	5	(13.0)		[2.8]	E	良好	灰	轆轤	透明釉 見込み高台跡有 瀬戸・美濃系 17C 後～18C 前
206	SD56	A	陶器	瓶	10		(10.0)	[2.2]	A C F	普通	黄灰	轆轤	F-18G 徳利か 鉄釉 瀬戸・美濃系 18C 後～19C 中葉
207	SD56	A	石製品	砥石		長さ[10.0]cm 重さ418.2g	幅6.8cm	厚さ3.3cm					F-18G 4面使用 被熱により炭化物付着 砂岩
208	SD57	A	陶器	皿	40	(11.8)	(6.8)	2.0	A	良好	灰白	轆轤	F-17G No4 長石釉 貫入有 畳付・高台内一部施釉 削出し高台 見込み砂粒付着 高台内円錐ピン跡・ 砂粒付着 瀬戸・美濃系 17C 前半
209	SD57	A	陶器	皿	90	11.8	7.4	2.1	A C G	普通	灰白	轆轤	F-17G No3・4 長石釉 削出し高台 見込み高台跡・ 円錐ピン跡 高台内円錐ピン跡・砂粒付着 瀬戸・美濃系 17C 前半
210	SD57	A	陶器	皿	50	(11.8)	7.4	2.4	F G	普通	灰白	轆轤	F-17G No1 長石釉 畳付・高台内施釉 削出し高台 見込み目跡 高台内円錐ピン跡 畳付砂粒付着 瀬戸・美濃系 志野 鉄絵 16C 末～17C 初頭
211	SD57	A	石製品	砥石		長さ[5.8]cm 重さ68.2g	幅3.3cm	厚さ2.1cm					5面使用 凝灰岩
212	SD57	A	石製品	板碑		長さ[12.6]cm	幅[6.3]cm	厚さ2.1cm					「□月□日」 緑泥片岩
213	SD59	A	土師器	坏	15	(11.2)		[3.0]	A F G	普通	にぶい 橙		内面・外面口縁部赤彩 器面風化顕著
214	SD59	A	土師器	坏	30	(12.0)		[3.4]	C E F	普通	明赤褐		内外面赤彩
215	SD59	A	土師器	甕	20		(7.6)	[2.3]	A C D F G	普通	にぶい 橙		器面風化顕著 調整痕は殆どみえない 底部木葉痕
216	SD69	A	土師器	鉢	85	17.3		[9.8]	A F G	良好	灰黄褐		No3 外面へラ磨き
217	SD69	A	土師器	壺	70			[5.4]	A D F G	普通	橙		No6 内外面赤彩 器面風化顕著 調整極めてみえづらい
218	SD70	A	須恵器	甕	30		(9.8)	[4.2]	A D F H	普通	灰白	轆轤	E-20G 底部回転糸切り離し
219	SD70	A	陶器	播鉢	5			[5.6]	A C E G	良好	褐灰	輪積	E-20G 鉄釉 備前系か 17C 代か

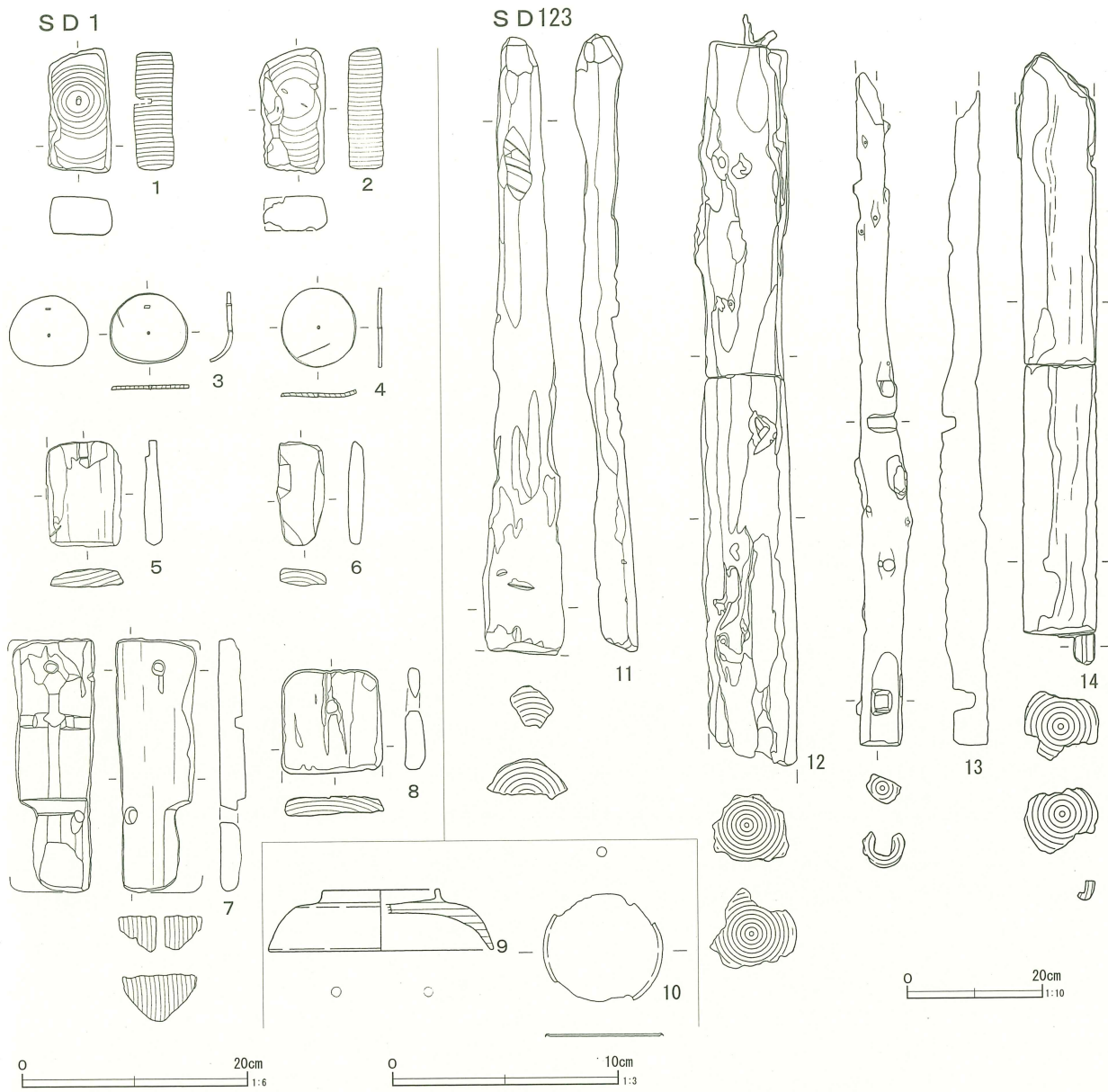
番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
220	SD70	A	鉄製品	頭巻釘		長さ [4.7] cm 厚さ [0.4] cm		頭幅 [1.0] cm 重さ 9.8 g					錆化著しい 断面形推定
221	SD70	A	鉄製品	鎌か		長さ [14.8] cm 重さ 125.9 g		幅 4.8 cm 厚さ 0.35 cm					両端部欠損 錆化著しい
222	SD73	A	土師器	壺	5			[2.7]	A B D F G	普通	にぶい 黄橙		器面風化顕著 赤彩の有無不明
223	SD74	A	土師器	壺	50		5.7	[7.8]	A F	普通	橙		No1 ヘラ磨き 器面風化
224	SD74	A	土師器	台付甕	95		9.9	[7.3]	A B C D G	普通	橙		No1 風化顕著
225	SD74	A	土師器	台付甕	60		(9.4)	[5.0]	A C D G	普通	明赤褐		No1 内面風化顕著
226	SD74	A	土師器	器台	25		(9.4)	[5.0]	A B F G	普通	明赤褐		No2 内面風化顕著
227	SD74	A	磁器	碗	10	(8.2)		[2.6]	G	良好	灰白 緻密	轆轤	C-16G 透明釉 呉須 外面二重圈線 草文か 肥前系 17C 前半か
228	SD76	A	陶器	碗	30		(3.2)	[3.2]	A	良好	灰白	轆轤	透明釉 貫入多 貼付け高台 京・信楽系 18C 後葉
229	SD76	A	陶器	皿	10	(10.8)	(6.0)	[2.7]	G	良好	灰白		灰釉 貫入多 畳付・高台内施釉 見込み円錐ビン跡 瀬戸・美濃系 17C 代
230	SD76	A	陶器	碗	20	(9.6)		[4.1]	G	良好	灰白	轆轤	透明釉 貫入多 草文か(鉄絵) 京・信楽系か 18C 中～後葉
231	SD76	A	石製品	砥石		長さ 10.7 cm 重さ 83.8 g	幅 2.9 cm	厚さ 1.5 cm					4面とも使用 使用度比較的高 凝灰岩
232	SD76	A	鉄製品	刀子か		長さ [5.2] cm 重さ 9.3 g	幅 1.3 cm	厚さ 0.3 cm					錆化著しい
233	SD77	A	土師器	坏	10	(12.6)		[3.4]	A B D F G	普通	橙		内面・外面口縁部赤彩
234	SD78	A	須恵器	坏	20		(9.2)	2.2	A C	良好	灰		底部回転ヘラ削り
235	SD78	A	土師器	壺	40		(6.8)	[1.1]	F G	良好	にぶい 黄橙		器面剥離顕著 調整不明
236	SD87	A	土師器	小型壺	35	(10.2)		7.7	A B F G	普通	にぶい 橙		内面口縁部・外面赤彩
237	SD87	A	土師器	壺	60			[6.8]	A G	普通	褐灰		No1 内外面口縁部赤彩
238	SD87	A	石製品	砥石		長さ [7.6] cm 重さ 165.1 g	幅 3.5 cm	厚さ 4.8 cm					旧 F-18G No2 上下端部以外の4面使用 側面使用度高 凝灰岩
239	SD93	A	石製品	砥石		長さ [10.1] cm 重さ 78.6 g	幅 2.6 cm	厚さ 2.0 cm					上下端部以外は使用している 広面は使用度高 凝灰岩
240	SD103	C	土師器	甕	20	(21.8)		[12.0]	A B C D F	やや 不良	にぶい 橙		器面風化顕著
241	SD103	C	土師器	甕	20	(22.0)		[7.6]	A B C D F G	普通	明赤褐		器面風化
242	SD110	C	土師器	甕	20	(22.0)		[5.3]	A B C D F G	普通	褐		器面風化
243	SD110	C	土師器	壺	25		(8.0)	[1.3]	A C F	普通	にぶい 赤褐		
244	SD113	C	須恵器	壺	20		(15.2)	[3.1]	A C D F G	良好	灰		叩き目
245	SD117	C	須恵器	坏	80		4.8	[1.3]	A	不良	灰	轆轤	底部回転糸切り離し
246	SD117	C	青銅 製品	煙管 (火皿)		径 1.7 cm	長さ [1.7] cm	重さ 1.7 g					緑錆をふく 剥離部分
247	SD118	C	土師器	坏	20	(13.2)		[2.4]	A C D F G	普通	明赤褐		Q-1G 内外面赤彩 器面風化顕著
248	SD120	C	須恵器	處	30			[6.4]	A C E G H	良好	青灰	轆轤	Q-1G
249	SD120	C	石製品	有孔 凹盤		長さ 4.6 cm 孔径 0.3 cm	幅 4.0 cm	厚さ 1.4 cm 重さ 28.8 g					Q-1G 滑石製
250	SD123	B	土器	焙烙	5			5.4	A B F	普通	灰白		外面煤付着
251	SD123	B	陶器	碗	60	11.1	4.0	5.3	A G	良好	にぶい 黄	轆轤	鉄釉・灰釉(貫入多)掛け分け 畳付無釉 削出し高台 瀬戸・美濃系 18C 中葉 腰折碗
252	SD123	B	磁器	皿	20	(12.1)	(6.3)	3.1	A B F	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 高台内施釉 高台脇・高台内一重圈線 削出し高台 見込みトチ跡 畳付砂粒・鉄漿有 肥前系 18C 前半
253	SD123	B	磁器	碗	60		4.0	[2.1]	A G	良好	灰白 緻密	輪積	透明釉 呉須 高台内施釉 削出し高台 見込み目跡 畳付砂粒付着 肥前系 18C 前半か
254	SD123	B	陶器	灯明 受皿	85	7.0	5.3	2.8	A G H	良好	灰 緻密	轆轤	鉄泥 外面腰部重積跡(環状)・油煙付着 底部回転 糸切り後回転ヘラ削り 志戸呂系 17C 後葉
255	SD123	B	陶器	皿	30	(12.4)		[2.3]	A	良好	灰白	轆轤	灰釉 瀬戸・美濃系 17C 代
256	SD123	B	磁器	碗	10	(13.0)		[4.7]	G	良好	灰白	轆轤	内面透明釉 外面銅緑釉 肥前系(内野山) 17C 後半
257	SD123	B	磁器	香炉	40	7.2		[7.5]	F G	良好	白 緻密	轆轤	青磁釉 肥前系か 18C か

遺物は出土しなかった。

第183号溝跡 (第233・234区)

G-16グリッドに位置する。第10号周溝状遺

構を切っているが、その他の重複遺構との新旧関係は確認できなかった。平面形は概ね直線状で、両端とも途切れる。規模は、全長1.00m、上場幅



第254図 溝跡出土木製品

第29表 溝跡出土木製品観察表

番号	遺構	区別	器種	計測値 (cm)	備考	番号	遺構	区別	器種	計測値 (cm)	備考
1	SD1	A	板状製品	長さ 11.0 cm 幅 5.6 cm 厚さ 3.4 cm	横断面芯持切断 柾目	8	SD1	A	下駄	長さ [9.1] cm 幅 8.7 cm 厚さ 1.7 cm	板目
2	SD1	A	板状製品	長さ 10.9 cm 幅 5.7 cm 厚さ 3.2 cm	横断面芯持切断 柾目	9	SD1	A	漆蓋	底径 (9.8) cm 摘み部径 [5.2] cm 器高 2.7 cm	内外面赤漆 横木取り
3	SD1	A	蓋	最大径 6.8 cm 厚さ 0.3 cm	柾目	10	SD123	B	漆碗又は漆蓋	径 [5.2] cm × [4.7] cm 厚さ 0.01 cm	No.6 赤漆
4	SD1	A	蓋	最大径 6.8 cm 厚さ 0.3 cm	柾目	11	SD123	B	柱材か	長さ [91.2] cm 幅 [12.0] cm 厚さ [5.2] cm	No.5 内面そぎ落とし半割
5	SD1	A	板状製品	長さ [9.2] cm 幅 [6.7] cm 厚さ 1.6 cm	板目	12	SD123	B	柱材か	長さ [110.8] cm 幅 [13.8] cm 厚さ [15.6] cm	No.1 芯持丸木
6	SD1	A	下駄の歯	長さ [9.1] cm 幅 [4.2] cm 厚さ 1.4 cm	板目	13	SD123	B	棒状製品	長さ [98.7] cm 幅 [7.6] cm 厚さ [6.2] cm	No.3 芯持丸木
7	SD1	A	下駄	長さ 22.2 cm 幅 [7.7] cm 厚さ 4.1 cm	本体柾目 前歯板目	14	SD123	B	柱材か	長さ [90.4] cm 幅 11.8 cm 厚さ [9.5] cm	No.2 表面炭化 2点あり同一個体 芯持丸木

0.25 ~ 0.32m、下場幅0.18 ~ 0.22m、深さ0.09m、断面形は皿状である。方位はN-34° - Eを

指す。

遺物は出土しなかった。

10. 性格不明遺構

規模や形状、あるいは出土遺物などから、遺構の性格を特定できないものを性格不明遺構として扱った。

性格不明遺構とした遺構は、A区5基、C区1基の計6基である。

第1号性格不明遺構 (第256～258図)

B-20・21、C-21グリッドに位置する。東側は調査区外に続く。第11号井戸跡・第1号溝跡を切っている。

検出範囲において平面形は隅丸長方形で、断面形は概ね逆台形である。規模は、長軸は上場幅8.90m、下場幅8.42mまでの確認で、短軸は上場幅4.05～4.33m、下場幅3.30～3.40m、深さ0.93～1.03m、長軸方向はN-65°-Wである。覆土は、埋め戻しによるものと考えられる。

出土遺物は多く、図化できたのは47点(1～47)であったが、これらは一括廃棄されたものであると推定される。

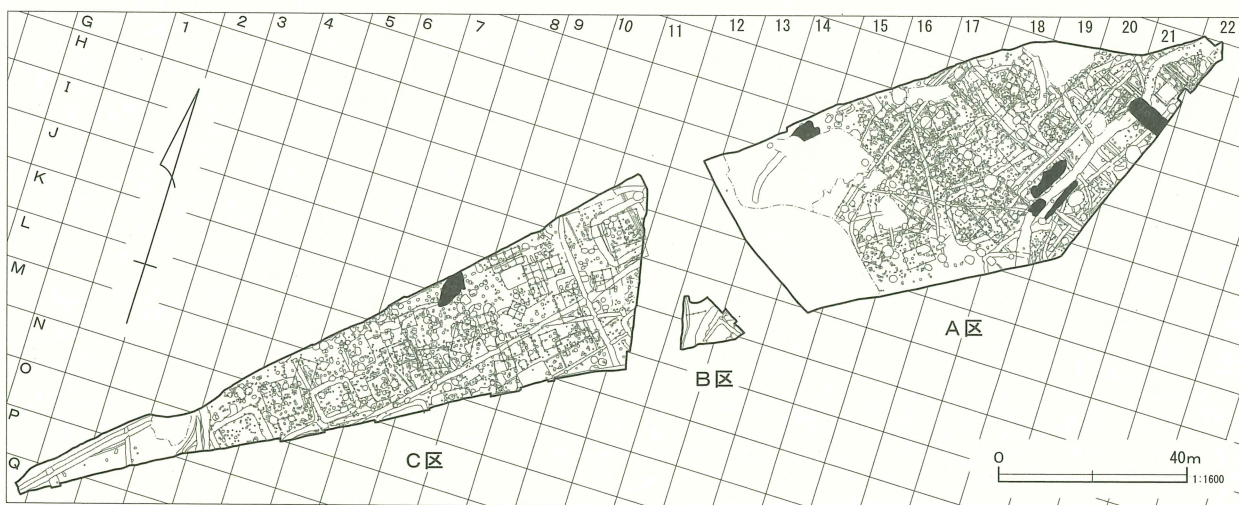
1は、肥前系の磁器皿である。灰釉は厚く、一部雫状に垂れている。2は欠口に、焼継ぎと推測される痕跡が認められる。10は肥前系の磁器小碗であるが、高台の無釉部分には鉄漿が施されている。16の欠口には、施釉されたかのような光沢が認められるが、焼継ぎの痕跡とも考えられる。18

は肥前系の磁器広東碗である。見込みに付着物が認められるが、これは使用時におけるものではなく、焼成時に付着したものと考えられる。34は、いわゆる「飯事」と呼ばれる玩具と推定される。37は石製の硯であるが、海の先端部が失われており、欠口には有機物がみられる。補修の痕跡と推測されるが、効果がなかったためか、裏面を窪ませ別個に海が設けられている。なおその他に、図化には至らなかったが、肥前系陶磁器(18C)、瀬戸・美濃系陶器(18～19C前半)などの小破片が出土している。

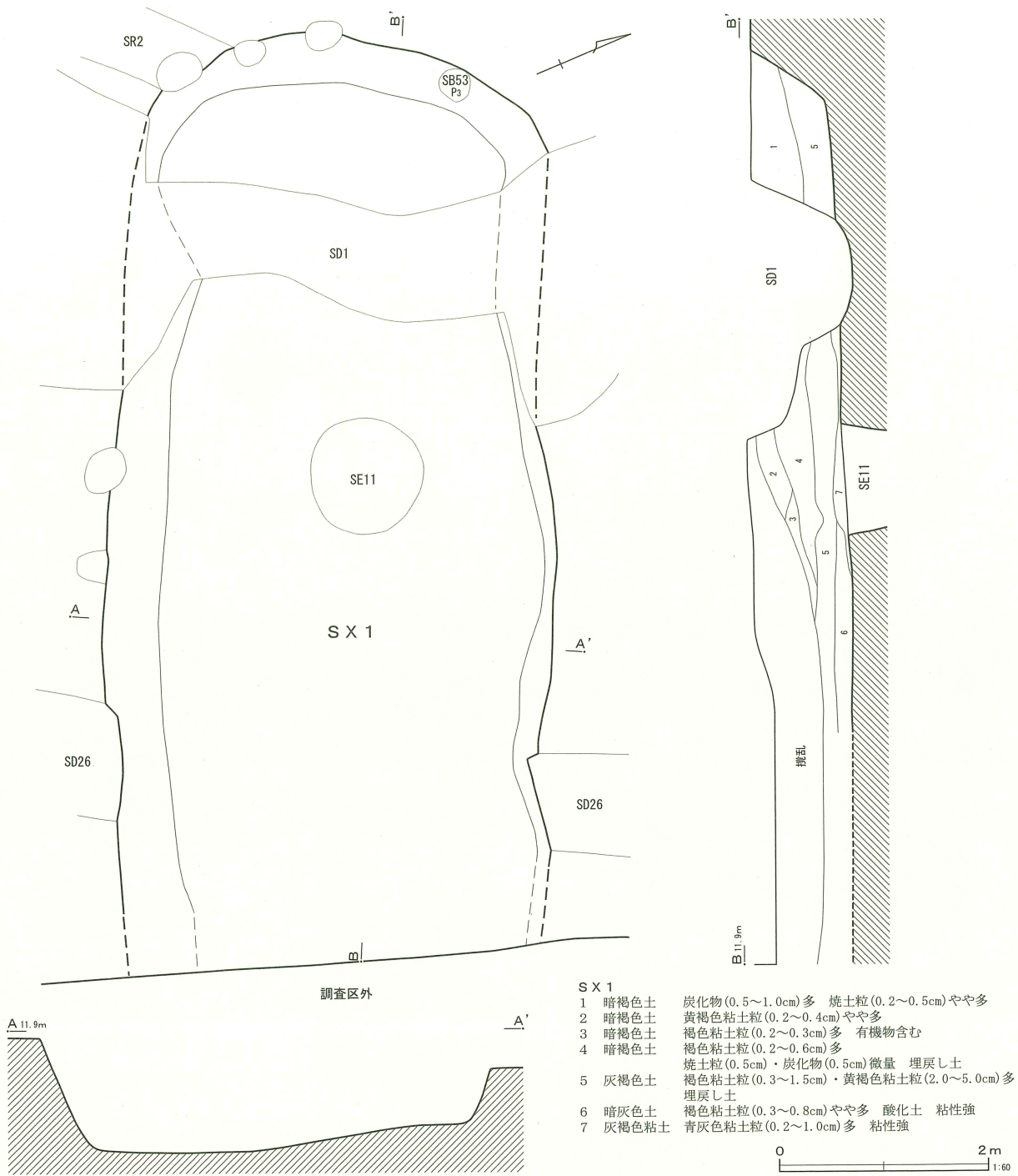
第2号性格不明遺構 (第259・260図)

J・K-8グリッドに位置する。一部が調査区外に続く。重複するすべてのピットに切られていると判断した。

平面形は、断面形が逆台形に近い部分では溝状、皿状に近い部分では不整形である。土層断面を観察すると、第1～3層と第4～6層で、両者には重複関係が認められる。前者を溝跡とするべきであったかも知れないが、遺構確認段階では別の遺構との判断がなく、セクションベルトを残して掘り下げをした。遺物は一括で取り上げを行ったため、帰属関係を識別できないことから、全体を性格不明遺構として扱うこととした。



第255図 性格不明遺構分布図



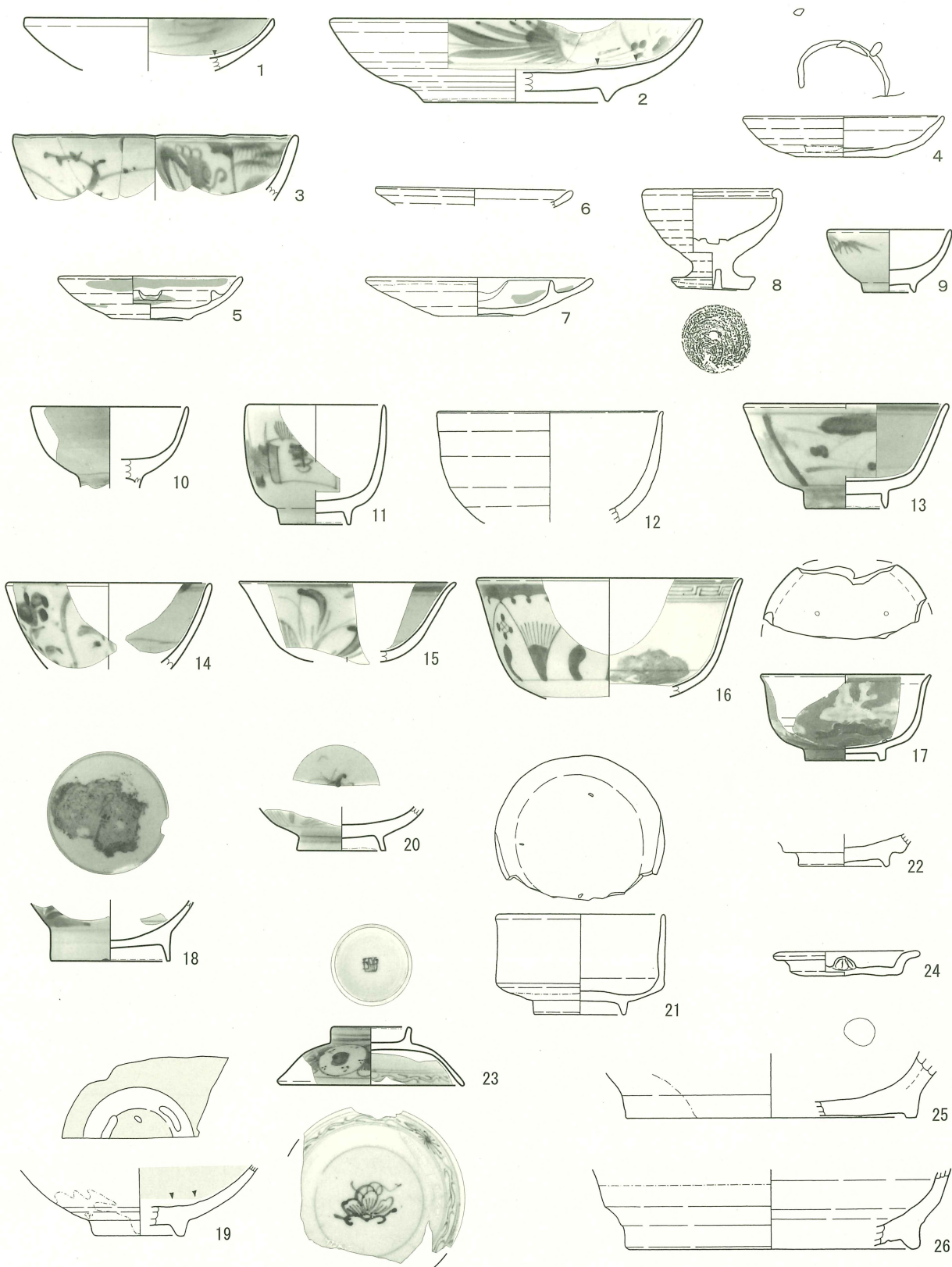
第256図 第1号性格不明遺構

溝状部分の規模は、長軸の上場幅8.90m、下場幅8.42m、短軸の上場幅1.42~2.00m、下場幅1.02~1.36m、深さ0.12~0.42m、長軸方向N-13°-Eである。溝状部分の東側部分では、最大上場幅2.86m、下場幅2.72m、深さ0.08~0.14mである。全体を通じての最大上場幅4.32m、最大下場幅4.05m、深さ0.08~0.42mとなる。

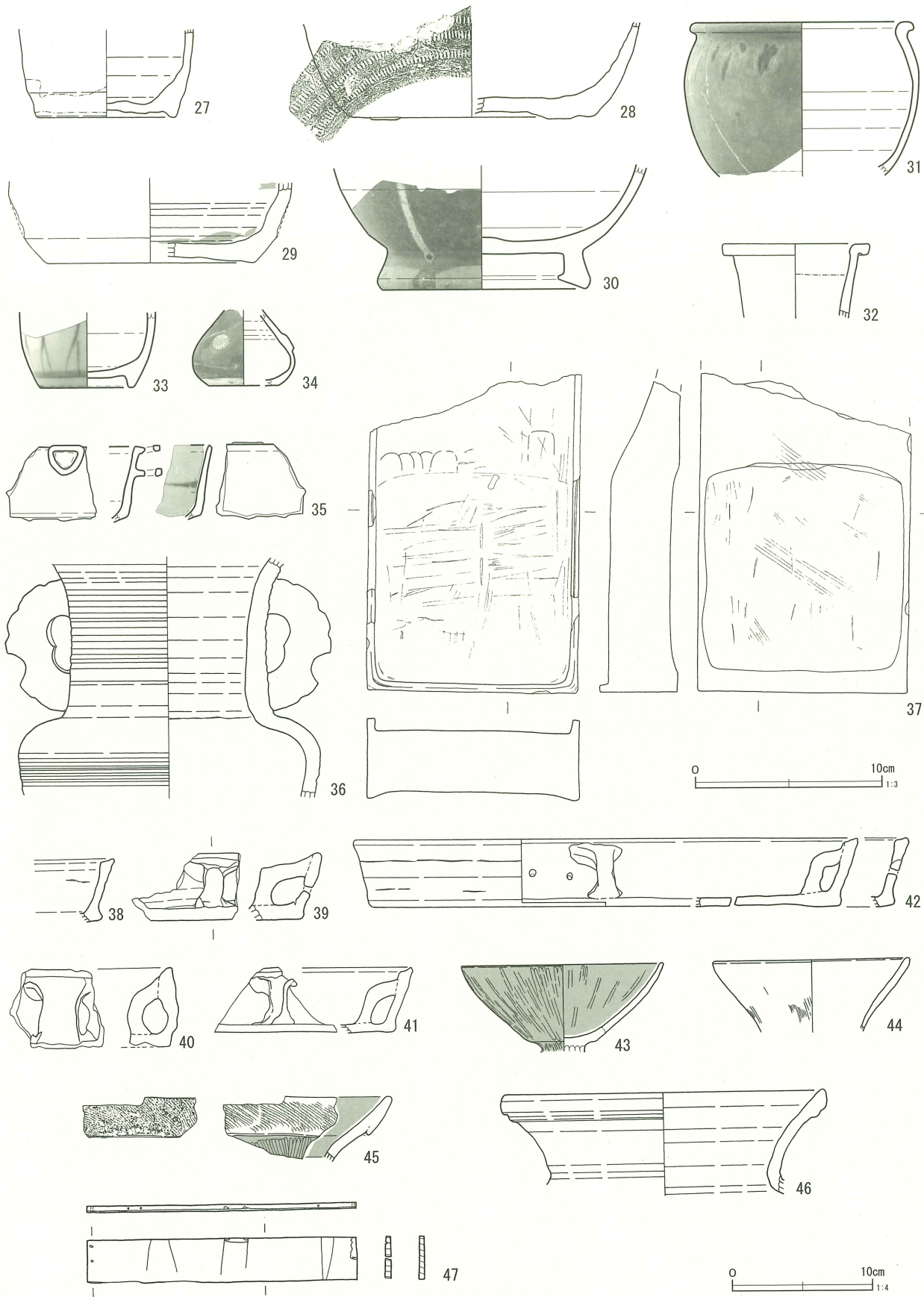
第1層から、土師器の小破片が多数出土したが、図化できたのは4点(1~4:7世紀第1四半期)である。

第3号性格不明遺構 (第261~264図)

D-19・20、E-19グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。遺構中央よりやや南寄りの部分に段を有しており、この位



第257图 第1号性格不明遺構出土遺物(1)

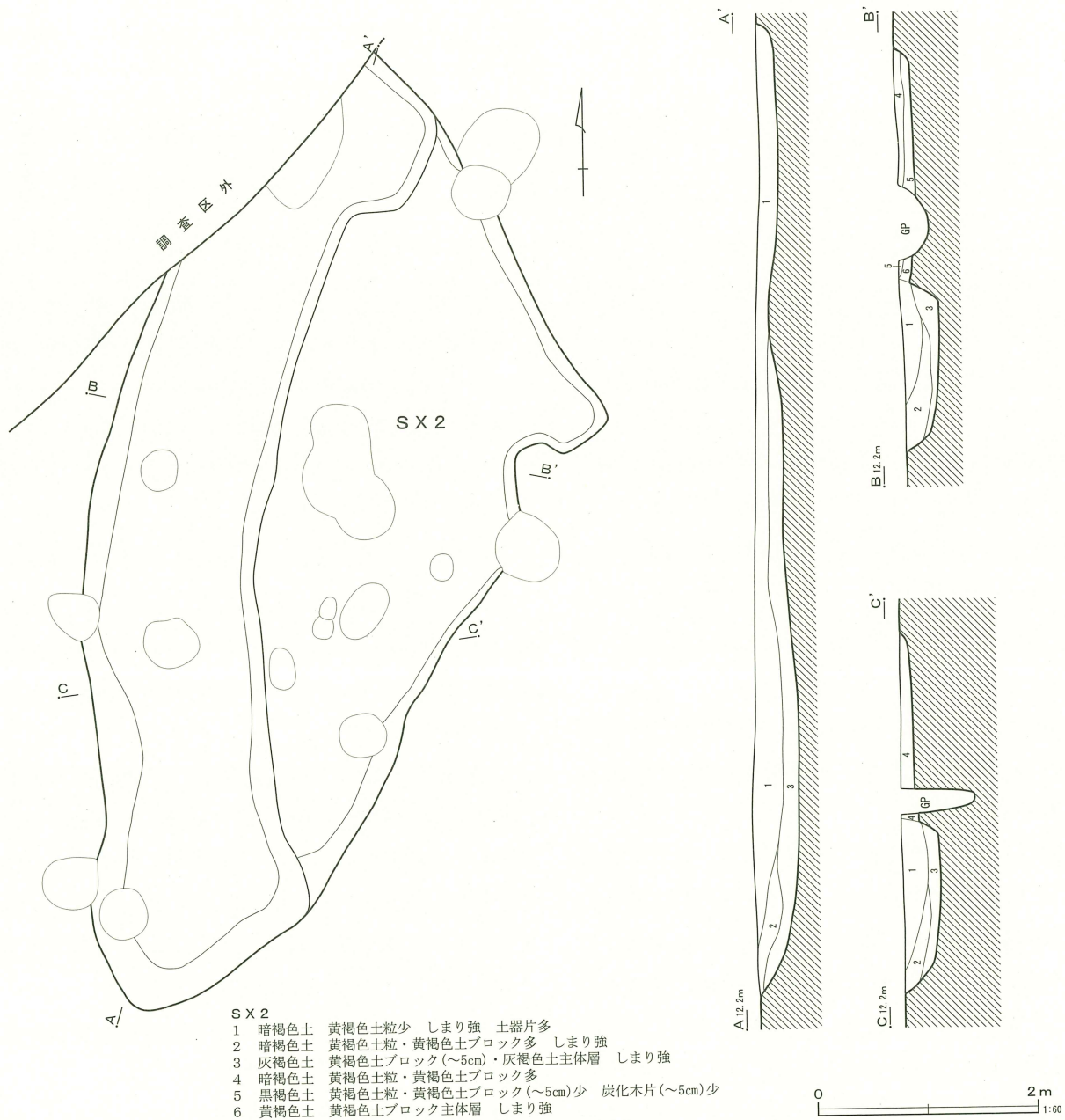


第258图 第1号性格不明遺構出土遺物(2)

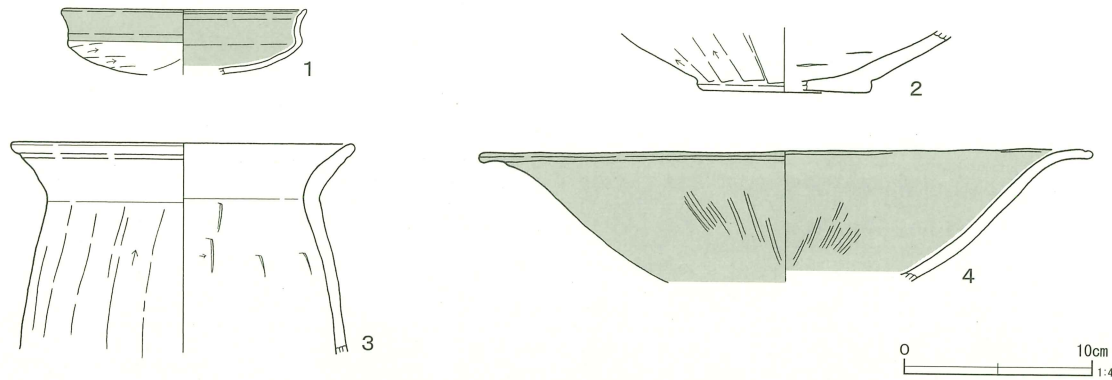
第30表 第1号性格不明遺構出土遺物観察表

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
1	SX1	A	磁器	皿	25	(12.6)		[2.7]	G	良好	灰白緻密	轆轤	灰釉 呉須 笹文か 見込み蛇目釉剥ぎ 肥前系 17C 後半～18C 前半
2	SX1	A	磁器	皿	45	(19.0)	(9.5)	4.0	G	良好	明青灰	轆轤	灰釉 呉須 草花文 削出し高台 畳付・高台内砂粒・鉄漿付着 蛇目釉剥ぎ 五弁花文 肥前系 18C 後半
3	SX1	A	磁器	皿	20	(14.4)		[3.3]	G	良好	灰白緻密	轆轤	透明釉 呉須 外面唐草文 内面草花文か 肥前系 18C 前半 輪花皿
4	SX1	A	陶器	灯明皿	50	(10.2)	4.7	2.0	G	良好	灰白緻密	轆轤	鉄釉 底部外面油煙付着 胎土砂粒微量 見込み輪トチ跡 瀬戸・美濃系 18C 後～19C 中葉
5	SX1	A	陶器	灯明受皿	50	9.3	4.0	2.2	G	良好	にぶい黄橙	轆轤	全面鉄釉 油溝半月状 胎土砂粒微量 内外面煤付着 瀬戸・美濃系 18C 後半～19C 中葉
6	SX1	A	陶器	灯明皿	30	(10.0)		[0.9]	A	良好	褐灰	轆轤	鉄釉 瀬戸・美濃系 18C 後～19C 中葉
7	SX1	A	陶器	灯明受皿	70	11.5	4.4	1.9	G	良好	灰白緻密	轆轤	灰釉 貫入多 油溝半月状 淡く油煙が残る 瀬戸・美濃系 18C 後～19C 中葉
8	SX1	A	陶器	乗燭	90	7.0	3.6	5.1	A G	良好	灰白	轆轤	鉄釉 燭台に設置する為の穿孔あり 瀬戸・美濃系 18C 後半～19C 中葉
9	SX1	A	磁器	小碗	80	6.3	2.7	3.1	G	良好	灰白	轆轤	透明釉 呉須 笹文 削出し高台 畳付砂粒付着 肥前系 18C
10	SX1	A	磁器	小碗	20	(8.0)		[4.1]	E	良好	灰白緻密	轆轤	透明釉 呉須 削出し高台 高台外面の無釉部分鉄漿 肥前系 18C
11	SX1	A	磁器	碗	50	(7.0)	3.6	6.0	G	良好	灰白緻密	轆轤	透明釉 貫入あり 呉須 削出し高台 畳付砂粒少量付着 19C 代
12	SX1	A	磁器	碗	15	(11.4)		[5.6]	G	良好	灰白緻密	轆轤	青磁 欠口全面に黒色付着物あり (漆継ぎか) 龍泉窯か
13	SX1	A	磁器	碗	60	10.4	4.2	5.2	G	良好	灰白緻密	轆轤	透明釉 呉須 貫入あり 削出し高台 畳付砂粒付着 二次的被熱 瀬戸・美濃系 19C 前半～中葉
14	SX1	A	磁器	碗	10	(10.4)		[4.3]	G	良好	灰白緻密	轆轤	透明釉 呉須 草花文 口縁内面二重圈線 見込み一重圈線 肥前系 18C 前半～中葉
15	SX1	A	磁器	碗	10	(11.0)		[4.0]	E	良好	灰白緻密	轆轤	透明釉 呉須 口縁外面一重圈線・草文 口縁内面二重圈線 見込み一重圈線 肥前系 18C 後半～後葉か
16	SX1	A	磁器	碗	20	13.6		[5.9]	G	良好	灰白緻密	轆轤	灰釉 呉須 内面口縁雷文 見込み一重圈線・目跡1 瀬戸・美濃系 19C 中葉～後葉か
17	SX1	A	磁器	碗	40	(8.6)	(4.0)	4.4	G	良好	灰緻密	轆轤	錆釉・鉄釉・灰釉ピラ掛けか 呉須 内面貫入多 削出し高台 見込み目跡2 関西系か 18C 後半
18	SX1	A	磁器	碗	80		6.1	[3.0]	G	良好	白	轆轤	灰釉 呉須 外面草花文 内面銘・一重圈線 削出し高台 肥前系 19C 前半 広東碗
19	SX1	A	陶器	皿	30		(4.6)	[3.5]	G	良好	灰白	轆轤	外面透明釉 内面銅緑釉 削出し高台 見込み蛇目釉剥ぎ・目跡 肥前系 (内野山) 17C 末～18C 前半
20	SX1	A	陶器	碗	40		(4.5)	[2.2]	G	良好	灰白緻密	轆轤	透明釉 呉須 削出し高台 肥前系 18C 後半か
21	SX1	A	陶器	碗	60	(8.6)	4.7	5.0	E	良好	灰白	轆轤	透明釉 貫入多 腰～高台内無釉 貼付高台か 凹錐ピン跡3 瀬戸・美濃系 19C 代か
22	SX1	A	陶器	碗	80		4.6	[1.6]	C	良好	灰白	轆轤	鉄釉 削出し高台 瀬戸・美濃系 18C 代か 天目碗
23	SX1	A	磁器	蓋	60	9.6	摘み径 4.1	2.9	G	良好	白緻密	轆轤	透明釉 呉須 削出し摘み 摘み砂粒付着 瀬戸・美濃系 19C 前～中葉
24	SX1	A	陶器	有耳壺蓋	95	7.4		1.2	F G	良好	灰白緻密	轆轤	上面鉄釉 砂粒付着 底部回転ヘラ削り 二次的被熱 瀬戸・美濃系 18C 後～19C 中葉
25	SX1	A	陶器	甕	25		(14.8)	[3.3]	F G	良好	灰白	轆轤	内面鉄釉 削出し高台 見込み砂目跡2 瀬戸・美濃系 18C 後～19C 中葉 錢甕か
26	SX1	A	陶器	甕	10		(15.0)	[4.0]	A G	良好	にぶい黄橙	轆轤	内外面鉄釉 削出し高台 見込みピン跡 二次的被熱 瀬戸・美濃系 18C 後～19C 中葉 錢甕か
27	SX1	A	陶器	甕	75		7.5	[4.7]	A C	良好	にぶい黄橙	轆轤	灰釉 貫入少 削出し高台 高台内八割程釉付着 畳付胎土片付着 底部トチ跡 瀬戸・美濃系 18C 後半～19C 中葉か 錢甕か
28	SX1	A	土器	火鉢	35		(13.0)	[5.1]	B D F G	普通	褐	轆轤	三足は磨滅している 在地系か 19C か
29	SX1	A	陶器	甕か	45		(11.0)	[4.4]	A B F	不良	褐	轆轤	焼締 見込み油煙付着
30	SX1	A	陶器	甕	80		11.4	[6.5]	A G	良好	暗赤褐	轆轤	鉄釉 灰釉流し掛け 高台～高台内煤付着 瀬戸・美濃系 18C 後半～19C 中葉
31	SX1	A	陶器	甕	35	(11.8)		[8.1]	A	良好	にぶい赤褐	轆轤	鉄釉 漆黒釉流し掛け 内面轆轤目顕著 瀬戸・美濃系 18C 後～19C 中葉
32	SX1	A	陶器	瓶か	10	(7.6)		[4.0]	A G	良好	灰	轆轤	灰釉 内面は口縁部のみ施釉か 瀬戸・美濃系か 18C か
33	SX1	A	磁器	瓶	70		5.0	[4.0]	G	良好	灰白緻密	轆轤	外面透明釉 高台内施釉 呉須 一重網目文 二重圈線 削出し高台 畳付砂粒付着 肥前系 19C 中葉
34	SX1	A	陶器	壺	35		(3.8)	[4.0]	F G	普通	橙	轆轤	外面鉄釉・白化粧土 胴部貼花(菊花文) 玩具 18C 代か
35	SX1	A	陶器	急須	15			[3.9]	A G	普通	灰白	轆轤	内外面透明釉 貫入多 鉄絵 京・信楽系か 18C 代か
36	SX1	A	陶器	仏花瓶	60			[12.7]	A	良好	灰緻密	轆轤	外面鉄釉 灰釉流し掛けか 瀬戸・美濃系 18C 後半
37	SX1	A	石製品	硯	80	縦[16.7]cm 横11.2cm 厚さ4.2cm					灰白		欠口に有機物付着 漆継ぎか 裏面にも海が設けられている 欠損後に造られたと思われる 全面に墨痕 凝灰岩
38	SX1	A	土器	焙烙	5			[4.5]	A B	普通	褐灰		外面煤付着
39	SX1	A	土器	焙烙	5			4.7	A B	普通	灰		外面煤付着

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
40	SX1	A	土器	焙烙	5			5.6	A F G	普通	灰白		外面煤付着
41	SX1	A	土器	焙烙	5			4.5	A B F G	良好	灰		外面煤付着
42	SX1	A	土器	焙烙	20	(36.0)	(33.6)	4.8	A D H	良好	黒褐		底部に穿孔あり 補修孔か 外面煤付着 在地系
43	SX1	A	土師器	高坏	20	(14.4)		[6.2]	A D F G	普通	明赤褐		旧 SD33 内外面赤彩 内面風化顕著
44	SX1	A	土師器	柑	25	(14.0)		[5.0]	A D G	普通	にぶい黄橙		旧 SD33 器面風化顕著
45	SX1	A	土師器	壺	10	(19.0)		[4.5]	C E F	普通	明赤褐		旧 SD33 内面・外面一部赤彩
46	SX1	A	須恵器	甕	15	(23.2)		[7.3]	A B	良好	褐灰	轆轤	自然釉
47	SX1	A	木製品	箱状品の側板		長さ 19.2 cm 幅 3.1 cm 厚さ 0.4 cm							榫目



第259図 第2号性格不明遺構



第260図 第2号性格不明遺構出土遺物

第31表 第2号性格不明遺構出土遺物観察表

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
1	SX2	C	土師器	坏	20	13.0		[3.5]	A G	良好	にぶい 橙		内面・外面口縁部赤彩
2	SX2	C	土師器	壺	20		(9.0)	[3.4]	A C F G	良好	にぶい 赤褐		外面ヘラ削り
3	SX2	C	土師器	甕	60	(18.2)		[11.1]	A B C D F G	不良	橙		胴部外面～口縁部内面煤付着
4	SX2	C	土師器	高坏	40	32.6		[6.9]	A B G K	普通	橙		全面赤彩 口縁歪みあり 内外面ヘラ磨き 風化顕著 調整殆ど残っていない

置を境に南北に2基の遺構が重複している可能性が考えられる。しかし、遺溝内の湧水が激しく、土層により遺構の数や新旧関係を把握することができず、1基の性格不明遺構として扱った。

平面形は溝状に近い長楕円形で、断面形は概ね碗状もしくは逆台形に近い。規模は、長軸は上場幅10.53m、下場幅9.45m、短軸は上場幅1.83～3.14m、下場幅1.35～1.96m、深さ0.35～1.10m、長軸方向はN-22°-Eである。覆土は、埋め戻しによるものと考えられる。

出土遺物は多く、図化できたのは40点(1～40)であったが、これらは一括廃棄されたものであると推定される。

22の底面は、釉をぬぐい取った後、鉄漿が施されている。32の見込みおよびその周辺は、卸目の磨滅が顕著である。底面には、焼成時に先立って積み重ねる際に用いられる焼台の痕跡が認められることから堺系といえる。34は砥石である。側面に未調整の条痕が認められるが、砥沢産砥石の産目と推定される。なおこれらの他に、図化には至らなかったが、肥前系の陶器碗・皿・徳利(18C前

～中葉)、信楽系陶器碗(18C後葉)、瀬戸・美濃系陶器甕・鉢(18C後葉～19C中葉)・磁器碗(19C中～後葉)の小破片が出土している。

第4号性格不明遺構(第265・266図)

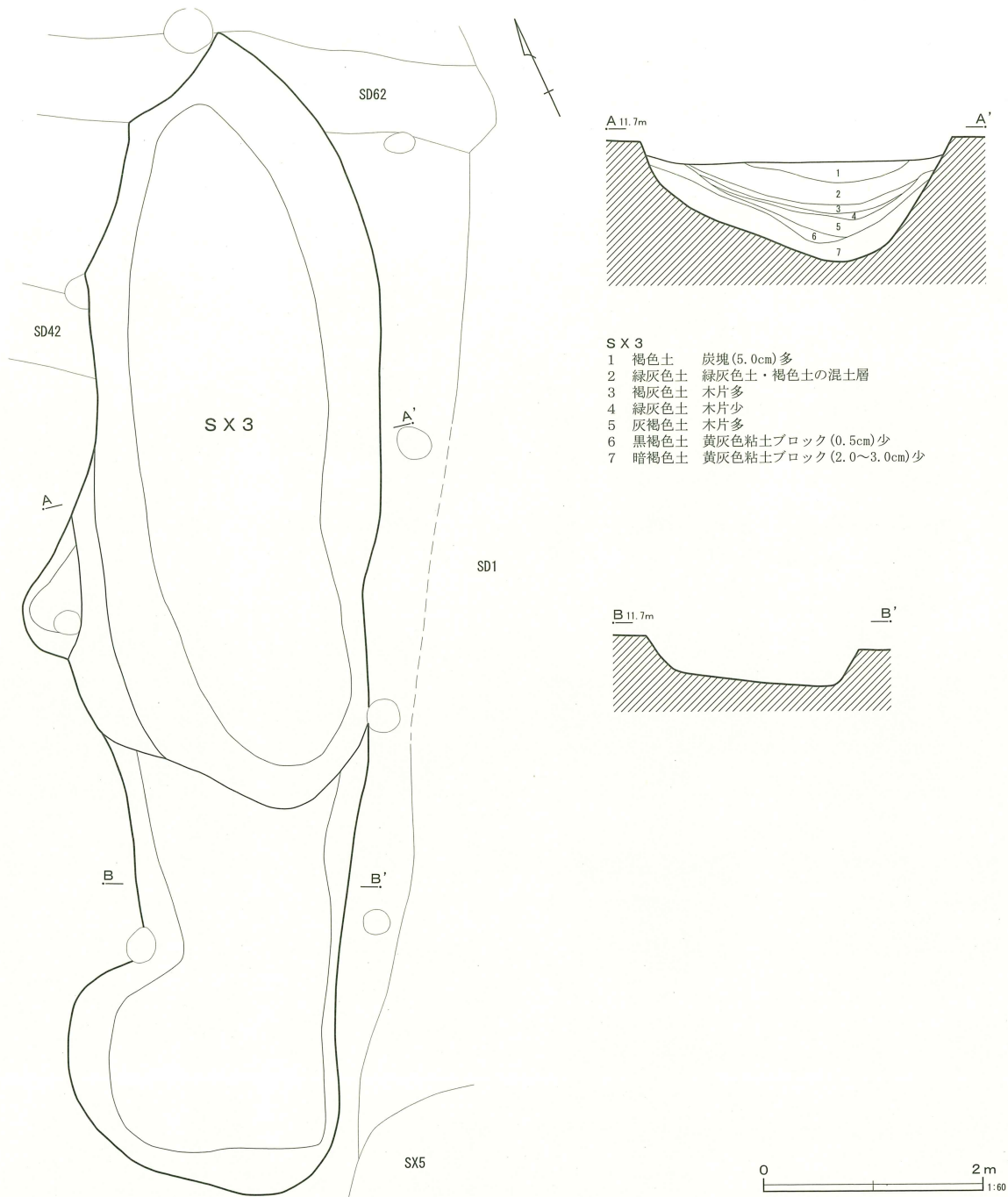
D-20、E-19・20グリッドに位置する。重複遺構との新旧関係は確認できなかった。南端部は、第63号井戸跡と重複して途切れている。溝跡として扱った遺構の一部の可能性はあるが、どの溝跡の一部であるのか特定できなかったことと、溝跡と覆土が異なっていたため性格不明遺構として扱った。

平面形は溝状に近い長楕円形で、断面形は概ね碗状もしくは逆台形に近い。長軸は上場幅10.44m、下場幅10.02mまでの確認で、短軸は上場幅1.12～1.45m、下場幅0.35～1.10m、深さ0.88～1.00m、長軸方向はN-22°-Eである。覆土は、埋め戻しによるものと考えられる。

出土遺物は少なく、図化できたのは木製品1点(1)であった。

第5号性格不明遺構(第267図)

E-19グリッドに位置する。第1号溝跡を切



第261図 第3号性格不明遺構

り込むように掘削されている。遺構中央よりやや北寄りの部分に段を有しており、この位置を境に南北に2基の遺構が重複している可能性が考えられる。しかし、遺溝内の湧水が激しく、土層による遺構の数や新旧関係を把握することができず、1基の性格不明遺構として扱った。

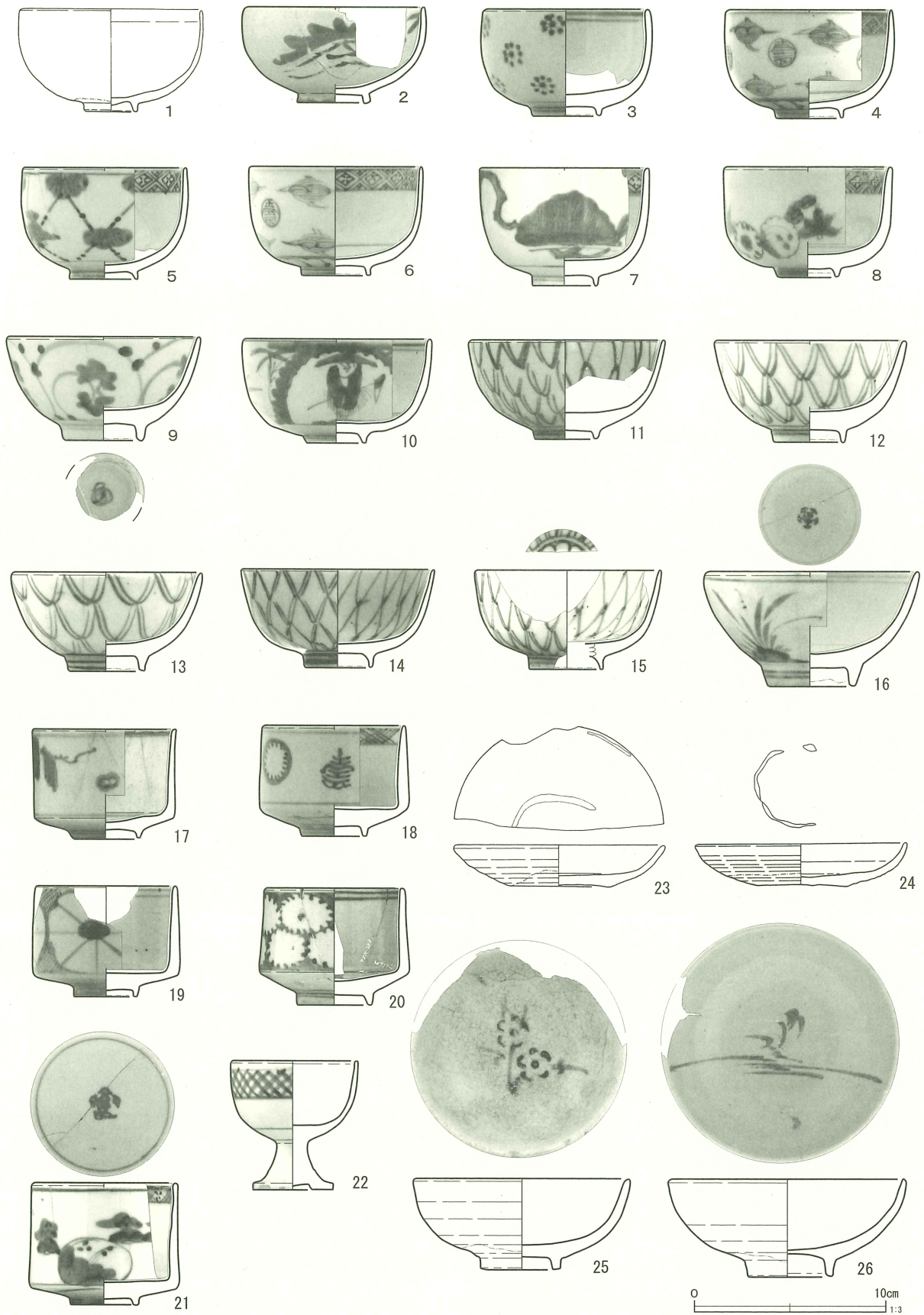
平面形は隅丸長方形で、断面形は概ね碗状もしくは逆台形に近い。長軸は上場幅4.03m、下場幅

3.02mまでの確認で、短軸は上場幅2.25～2.35m、下場幅0.54～1.02m、深さ0.55～1.78m、長軸方向はN-22°-Eである。覆土は、埋め戻しによるものと考えられる。

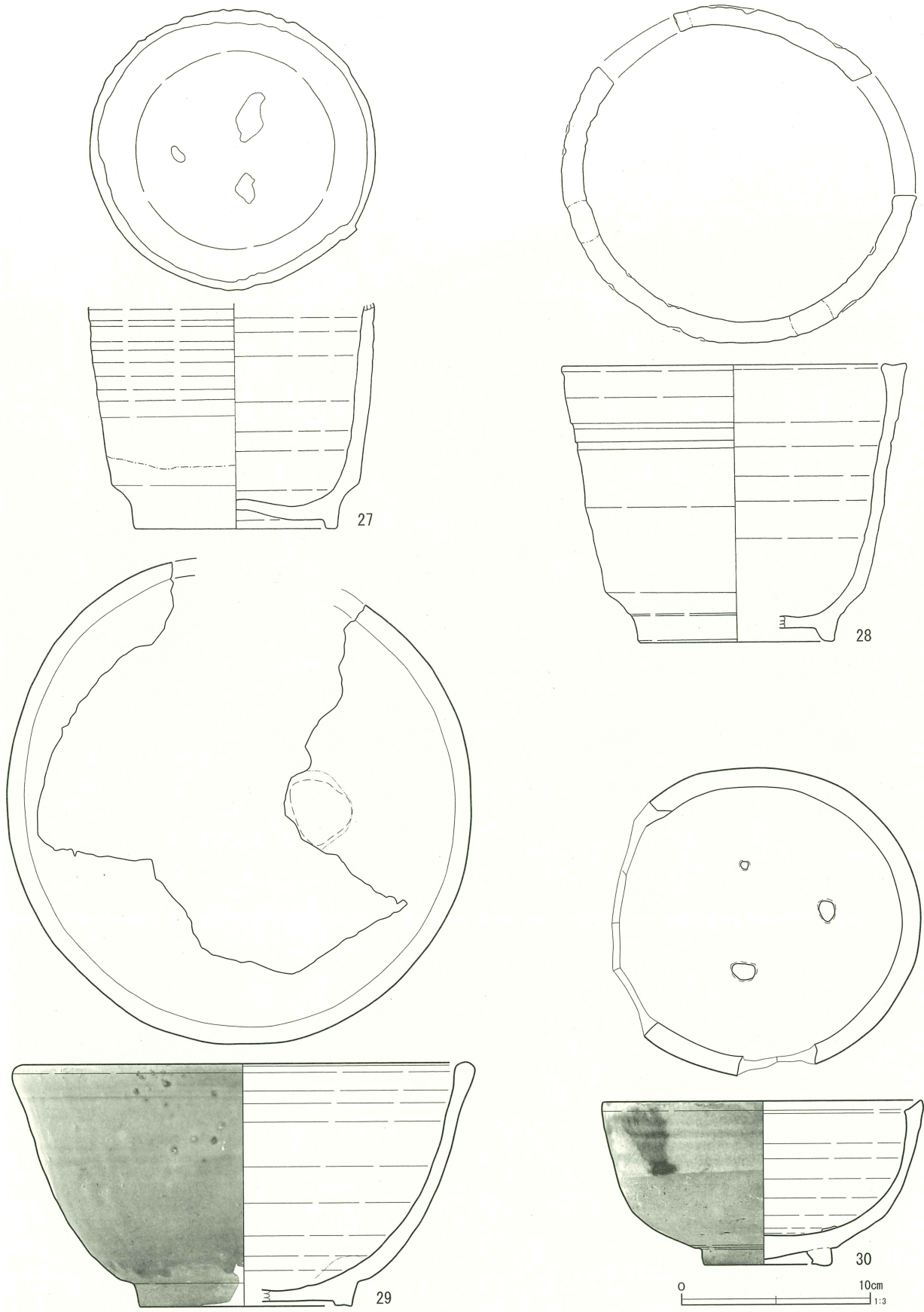
遺物は出土しなかった。

第6号性格不明遺構 (第265・267図)

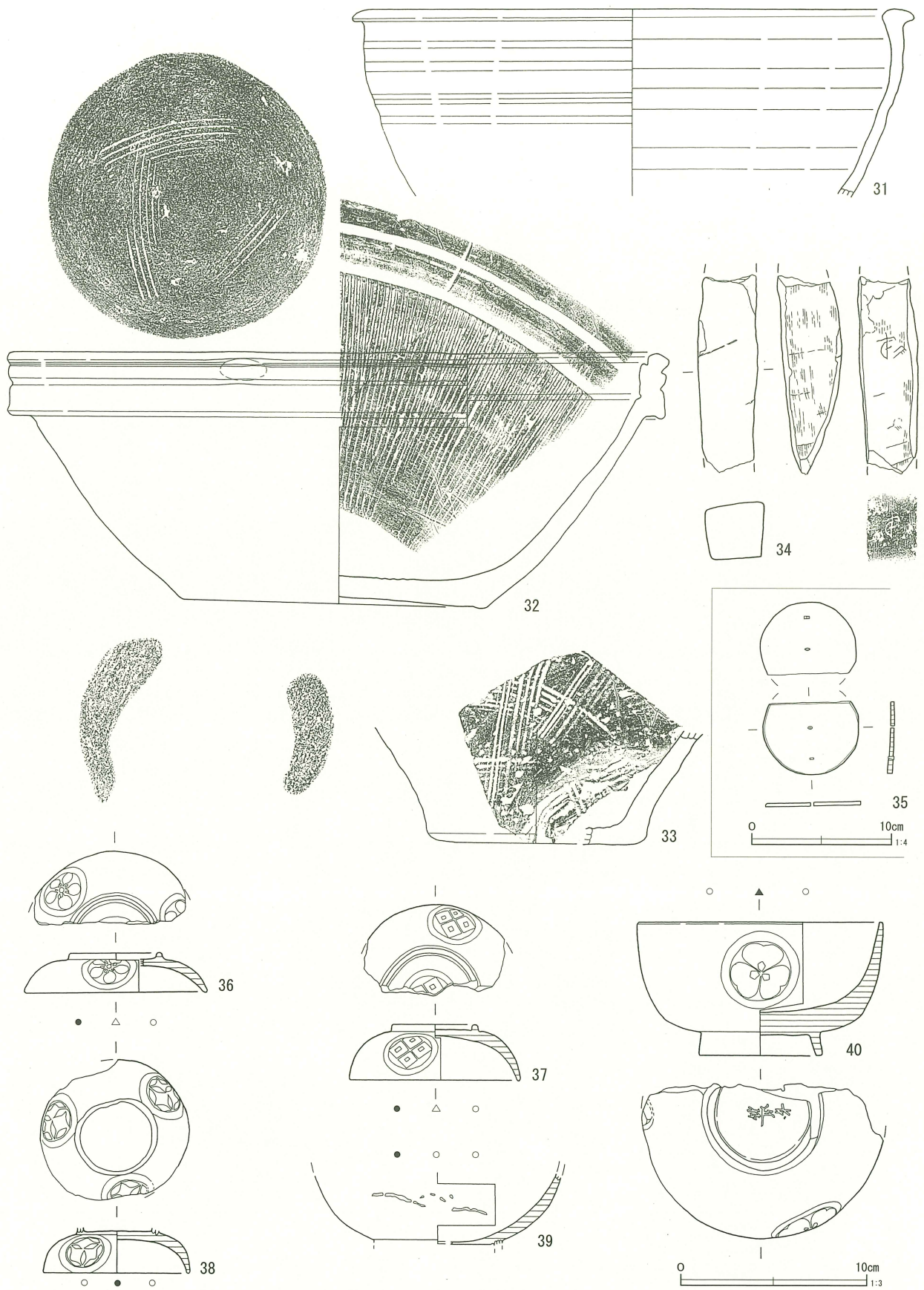
E-14グリッドに位置する。南側は、攪乱を受けておりプランを失っている。東側で重複してい



第262图 第3号性格不明遺構出土遺物(1)



第263図 第3号性格不明遺構出土遺物(2)

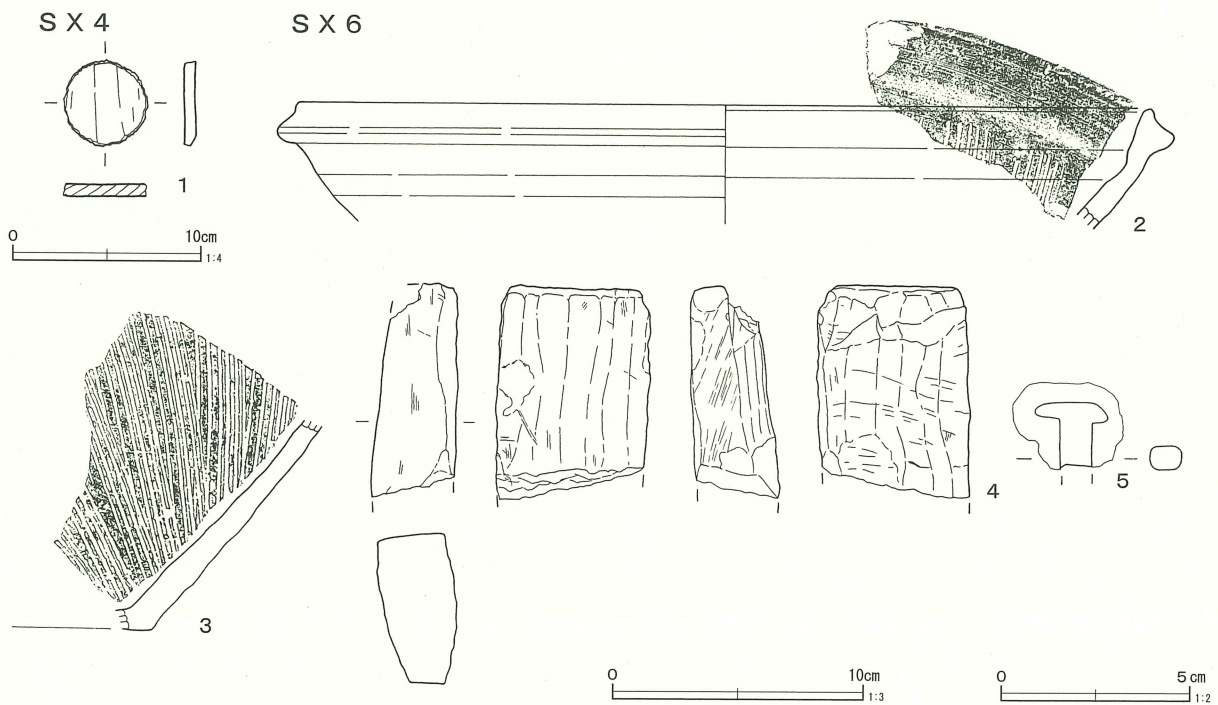


第264図 第3号性格不明遺構出土遺物 (3)

第32表 第3号性格不明遺構出土遺物観察表

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
1	SX3	A	陶器	碗	50	(9.4)	2.3	5.3	A	良好	灰白 緻密	轆轤	透明釉 貫入多 削出し高台 見込み砂粒付着 瀬戸・美濃系又は京・信楽系 18C中葉
2	SX3	A	陶器	碗	70	9.2	3.8	5.0	F G	良好	灰白	轆轤	灰釉 銅緑釉・鉄釉 貫入多 削出し高台 京・信楽系 18C中～後葉 半球碗
3	SX3	A	磁器	碗	50	(8.6)	3.6	5.5	G	良好	灰白	轆轤	灰釉 呉須 五弁花文 高台脇一重圈線 高台際・ 口縁内側・見込み二重圈線 削出し高台 肥前系 18C後半 丸碗
4	SX3	A	磁器	碗	95	8.6	3.6	5.6	G	良好	白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 外面丸・寿・宝・花卉文 高台際二 重圈線 内面四方禪文 見込み二重圈線・五弁花文 削出し高台 畳付砂粒付着 瀬戸・美濃系か 19C前半～中葉
5	SX3	A	磁器	碗	60	8.5	3.5	5.7	G	良好	白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 内面四方禪文 見込み五弁花文・ 二重圈線 削出し高台 見込み重積跡 畳付砂粒付着 瀬戸・美濃系か 19C前半～中頃
6	SX3	A	磁器	碗	30	(9.0)	3.6	5.6	G	良好	白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 外面丸・寿・宝・花卉文 高台際二 重圈線 内面四方禪文 見込み二重圈線・五弁花文 削出し高台 畳付砂粒付着 瀬戸・美濃系か 19C前半～中葉
7	SX3	A	磁器	碗	65	(8.8)	3.4	6.0	G	良好	白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 外面松文・一・二重圈線 見込み二重圈線・五弁花文 口縁四方禪文 削出し高台 肥前系 18C中～後半
8	SX3	A	磁器	碗	50	(8.8)	(3.3)	5.6	G	良好	白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 外面一・二重圈線・雪輪・松文か 内面口縁四方禪文 見込み二重圈線・五弁花文 削出し高台 高台内砂粒付着 肥前系 18C中～後半 くらわんか碗
9	SX3	A	磁器	碗	90	10.1	(4.2)	5.3	G	良好	灰白	轆轤	透明釉 呉須 花唐草文 高台脇一重圈線 高台内襷「福」 高台際二重圈線 削出し高台 見込み砂粒付着 肥前系 18C前半 くらわんか碗
10	SX3	A	磁器	碗	55	9.2	3.0	5.3	G	良好	白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 外面孟宗筍掘文・雪輪・竹 見込み 二重圈線・五弁花文 削出し高台 見込み目跡1 畳付砂粒付着 肥前系 18C後葉～19C初
11	SX3	A	磁器	碗	70	(10.0)	3.4	5.1	G	良好	白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 外面二重網目文 内面一重網目文・ 二重圈線・菊花文 削出し高台 見込み円錐ビン跡 高台内砂粒多量付着 瀬戸・美濃系 19C前～中葉
12	SX3	A	磁器	碗	95	10.0	3.7	5.2	G	良好	灰白	轆轤	透明釉 呉須 外面二重網目文 高台脇一重圈線 高台際二重圈線 削出し高台 肥前系 18C前半 くらわんか碗
13	SX3	A	磁器	碗	80	10.0	4.0	5.0	A G	良好	明青灰	轆轤	透明釉 呉須 外面二重網目文 高台脇一重圈線 高台際二重圈線 削出し高台 畳付砂粒付着 肥前系 18C前半
14	SX3	A	磁器	碗	90	10.1	3.6	5.5	G	良好	白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 外面二重網目文・一・二重圈線 内面一重網目文 見込み菊花文 高台内銘 削出し 高台・砂粒付着 瀬戸・美濃系 19C前～中葉
15	SX3	A	磁器	碗	30	(9.6)	(3.8)	5.1	G	良好	白 緻密	轆轤	透明釉 呉須 外面二重網目文・一・二重圈線 内 面一重網目文 見込み二重網目文・菊花文 削出し 高台 畳付砂粒付着 瀬戸・美濃系 19C前～中葉
16	SX3	A	磁器	碗	100	11.2	4.6	5.9	A	良好	明青灰 緻密	轆轤	透明釉 呉須 外面草花文・雪輪 内面圈線 見込 み五弁花文 削出し高台 畳付砂粒付着 肥前系 18C前半か
17	SX3	A	磁器	碗	80	7.4	3.5	5.7	G	良好	灰白	轆轤	透明釉 貫入多 呉須 外面松葉 内面見込み五弁 花文・二重圈線 口縁二重圈線 削出し高台 畳付 砂粒付着 瀬戸・美濃系 19C前半～中 筒型湯呑み
18	SX3	A	磁器	碗	80	7.4	3.4	5.7	G	良好	灰白	轆轤	透明釉 呉須 外面雪輪・寿文 高台脇折松枝文 内面四方禪文 見込み五弁花文・一重圈線 畳付砂 粒付着 削出し高台 肥前系 18C後半～19C前半 筒型湯呑み
19	SX3	A	磁器	碗	30	(7.4)	3.2	5.7	A G	良好	灰白	轆轤	透明釉 呉須 外面菊花・氷裂文 内面口縁二重圈 線 見込み一重圈線・五弁花文 畳付砂粒付着 肥前系 18C後半～19C前半 筒型湯呑み
20	SX3	A	磁器	碗	50	(7.3)	3.8	6.0	A G	良好	灰白	轆轤	透明釉 呉須 外面花輪文 内面口縁二重圈線 見込み一重圈線・五弁花文 削出し高台 見込み・ 畳付砂粒付着 肥前系 18C後半～19C前半 筒型湯呑み
21	SX3	A	磁器	碗	95	7.6	3.6	6.3	G	良好	灰白	轆轤	透明釉 呉須 外面松・草花文 内面四方禪文 見込み五弁花文・一重圈線 削出し高台 高台内砂粒付着 肥前系 18C後半 筒型湯呑み
22	SX3	A	磁器	仏飯具	80	6.5	4.2	6.6	G	良好	白 緻密	轆轤	灰釉 呉須 四方禪文 畳付・高台内鉄漿 肥前系 18C後半
23	SX3	A	陶器	灯明皿	50	(11.0)	(5.3)	2.1	A G	良好	灰白 緻密	轆轤	鉄釉 轆轤目顯著 見込み輪ト子跡 瀬戸・美濃系 18C後葉～19C中葉
24	SX3	A	陶器	灯明皿	95	11.0	4.8	2.1	A G	良好	灰白 緻密	轆轤	鉄釉 轆轤目顯著 見込み輪ト子跡 瀬戸・美濃系 18C後葉～19C中葉
25	SX3	A	陶器	摺絵皿	80	11.2	4.2	4.7	A G	良好	灰白	轆轤	灰釉 呉須 貫入多 鉄釉 見込み摺絵 (花文) 瀬戸・美濃系 18C後葉
26	SX3	A	陶器	碗	95	12.3	4.4	5.0	G	良好	灰褐	轆轤	灰釉 貫入多 見込み鉄絵 (楼閣山水文)・目跡1 轆轤目顯著 肥前系 17C後半 京焼風陶器
27	SX3	A	陶器	甕	80		10.6	[11.7]	E F	良好	にぶい 黄橙	轆轤	鉄釉 見込み目跡3 貼付け高台 瀬戸・美濃系 19C初～中葉 錢甕か

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
28	SX3	A	陶器	甕	70	18.1	(10.3)	14.5	A G	良好	明褐	轆轤	SD1 D-20G 鉄釉 削出し高台 口縁外面・口唇部目跡3 瀬戸・美濃系 18C後半~19C中葉 銭甕か
29	SX3	A	陶器	鉢	80	24.5	(11.3)	12.7	A G	良好	灰白	轆轤	灰釉 貫入多 削出し高台 見込み目跡 外面砂粒付着 瀬戸・美濃系 18C後~19C中葉
30	SX3	A	陶器	鉢	85	(16.9)	6.7	8.5	A C G	良好	灰白	轆轤	灰釉 貫入多 緑釉流し掛け 貼付高台 見込み目跡3 瀬戸・美濃系 18C末~19C初
31	SX3	A	陶器	鉢	20	(30.0)		[10.0]	A F G	良好	灰白 緻密	轆轤	灰釉 貫入多 鉄釉流し掛けか 瀬戸・美濃系 19C前半 練鉢
32	SX3	A	陶器	播鉢	95	35.4	16.2	13.4	A B C F G	良好	赤褐		焼締 卸目10本/条 (左回転) 底部外面に焼台跡 堺系 18C中~後半
33	SX3	A	土器	播鉢	20		(11.4)	[6.0]	A B F	不良	灰白	輪積か	焼締 卸目8本/条 内外面風化顕著
34	SX3	A	石製品	砥石		長さ [10.5] cm 重さ 141.5 g	幅 3.2 cm 厚さ 3.1 cm						上下端面以外使用 一部産目残る 刻印あり 凝灰岩
35	SX3	A	木製品	蓋		最大径 6.7 cm 厚さ 0.3 cm							追柁目
36	SX3	A	木製品	漆蓋		口径 (9.8) cm 器高 2.1 cm	摘み部径 (4.9) cm						横木取り 外面黒漆 内面赤漆 文様金
37	SX3	A	木製品	漆蓋		口径 (9.0) cm 器高 3.0 cm	摘み部径 4.4 cm						横木取り 外面黒漆 内面赤漆 文様金 家紋は丸に四つ目
38	SX3	A	木製品	漆蓋		口径 7.8 cm 器高 [2.4] cm	摘み部径 [4.4] cm						横木取り 内外面赤漆 文様黒漆
39	SX3	A	木製品	漆碗		口径 [13.2] cm 器高 [3.8] cm	底径 [6.8] cm						横木取り 外面黒漆 内面赤漆 文様赤漆
40	SX3	A	木製品	漆碗		口径 13.0 cm 器高 7.1 cm	底径 6.6 cm						横木取り 内外面赤漆 文様銀 底部文字黒漆 家紋は丸に酢漿草



第265図 第4・6号性格不明遺構出土遺物

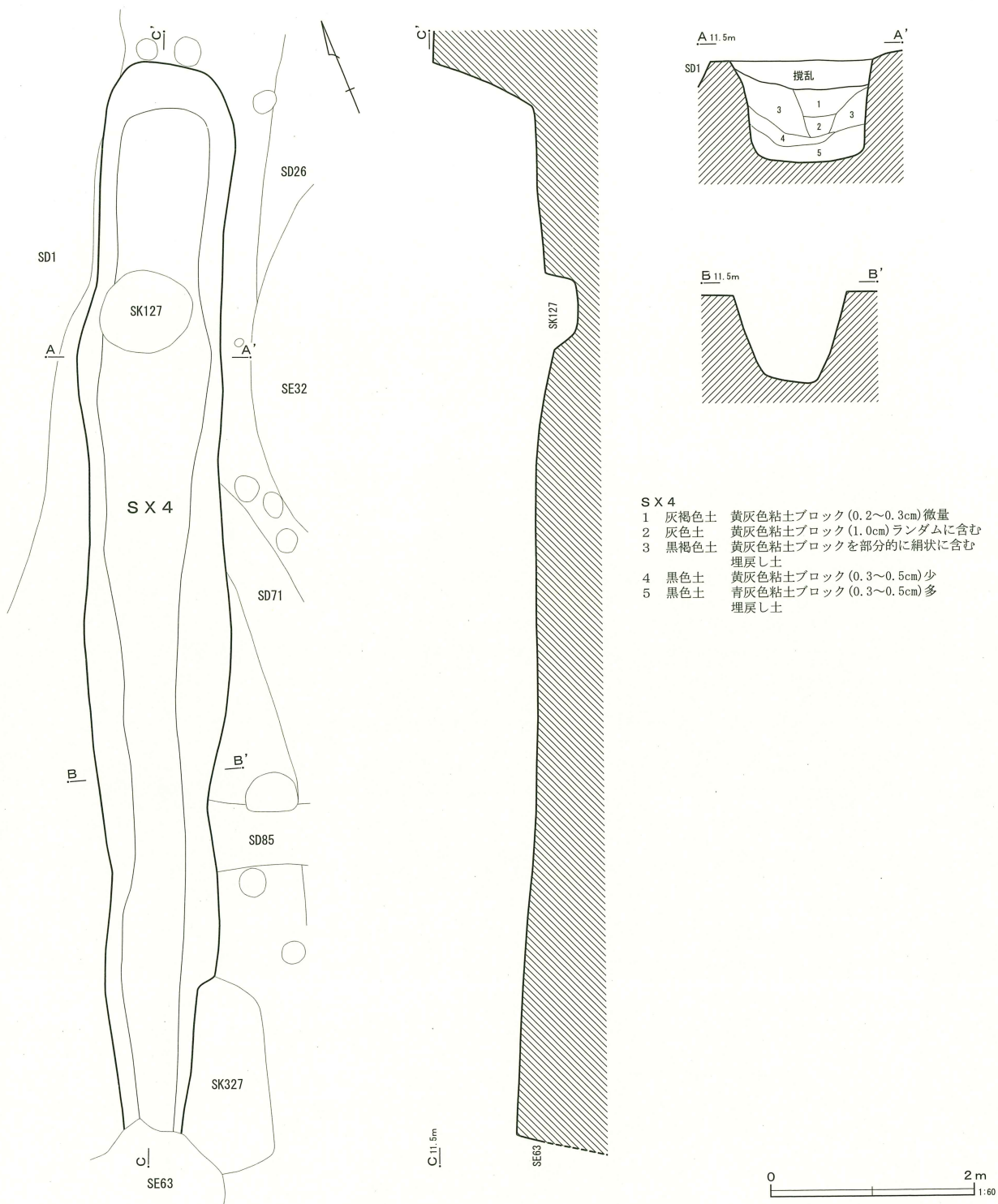
第33表 第4・6号性格不明遺構出土遺物観察表

番号	遺構	区別	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	成型技法	備考
1	SX4	A	木製品	底板		最大径 (4.5) cm		厚さ 0.6 cm					柁目
2	SX6	A	陶器	播鉢	5	(33.8)		[4.7]	A G J	普通	灰白	輪積	焼締 卸目6本/条 丹波系か 17C後半
3	SX6	A	陶器	播鉢	10			[8.5]	A G	良好	にぶい 黄橙	輪積	焼締 卸目8本/条 丹波系か 18C代か
4	SX6	A	石製品	砥石		長さ [8.5] cm 重さ 217.7 g	幅 3.2 cm 厚さ 5.9 cm						5面使用 広面・側面の各1面ずつが使用度高い 凝灰岩
5	SX6	A	鉄製品	巻頭釘		長さ [1.7] cm 厚さ 0.6 cm	頭幅 1.9 cm 幅 0.8 cm						錆化著しい 下半部欠損

る (土層断面第6~9層) 部分は遺構ではないと判断した。第6号性格不明遺構は、この窪みを埋

めている土層を掘り込んでいる。

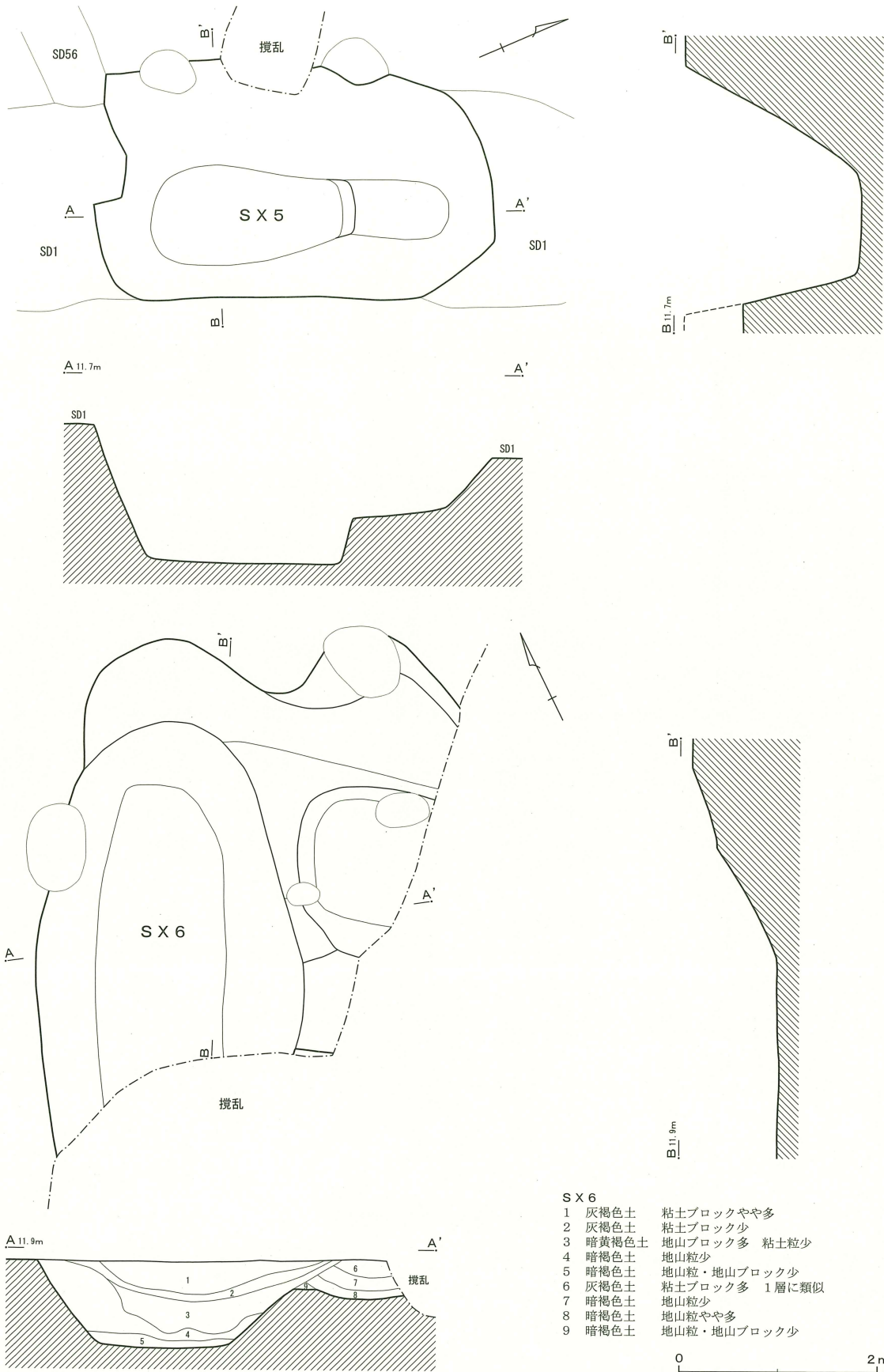
確認できた範囲内において、平面形は長楕円形、



第266図 第4号性格不明遺構

断面形は概ね逆台形である。長軸は上場幅4.32m、下場幅2.83mまでの確認で、短軸は上場幅2.62~2.75m、下場幅1.05~1.35m、深さ0.87m、長軸方向はN-24°-Eである。覆土は、埋め戻しによるものと考えられる。

図化できた遺物は4点(2~5)である。なおこれらの他に、図化には至らなかったが、肥前系の磁器碗(18C)、瀬戸・美濃系の陶器碗・皿(ともに17C)・甕(18C後葉~19C中葉)、信楽系の陶器碗(18C後葉)・青磁碗の小破片が出土した。



第267図 第5・6号性格不明遺構

11. 畝状遺構

浅く不整形な溝の内側に、浅いピットが不規則に並んだ状態でC区から1基検出されたが、これらの窪みを鋤や鍬などの、農具による耕作の痕跡と判断し、畝状遺構とした。

第1号畝状遺構 (第268図)

M-5・6グリッドに位置する。第4号方形周溝墓を切っていると推定される。

北側は途切れ、南側は第4号方形周溝墓と重複し、その先には認められず途切れている。これらのピット状の窪みの規模は、径は15×15cm～36×45cm、深さは5～18cm程の小規模なものである。このピットの並び不規則で、まばらな部分と密集している部分がある。

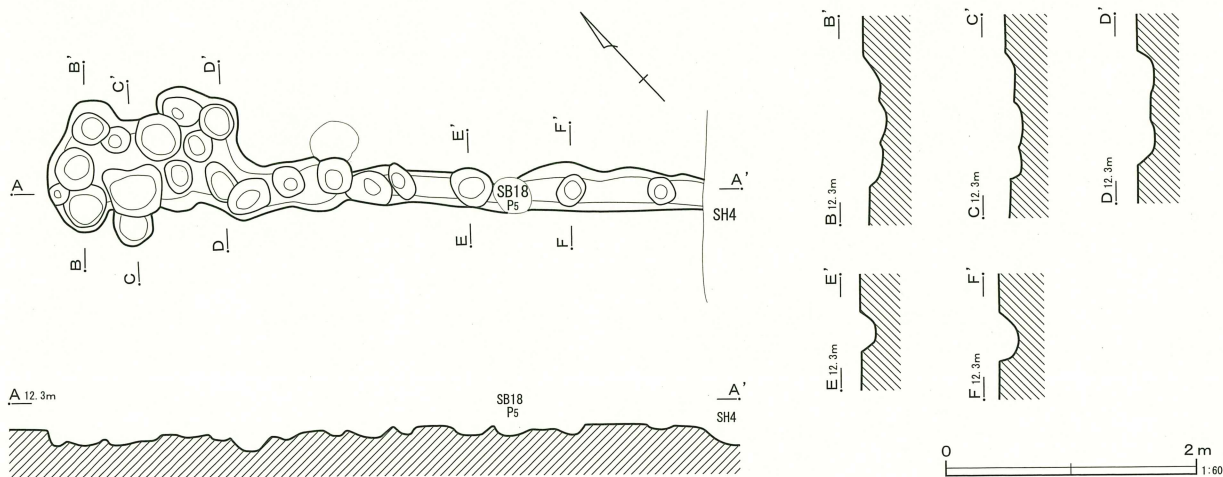
溝状の部分の全長は5.28m、北端部付近の平面形は、不整形な長楕円形の土壌が数基重複したか

のような形状で、幅70～96cm、深さは2～13cmである。この部分以南の平面形は概ね直線状で、幅25～36cm、深さは4～13cmである。この畝状遺構の長軸方位は、N-43°-Wである。

この畝状遺構とした遺構が畝跡であるとするれば、畑跡の一部ということになるが、周囲には同様の遺構は認められない。しかし周囲を観察してみると、径・深さの類似したピットが列状に点在している個所があり、さらには畝状遺構と近い方位で連なっている例も認められる。

これらの中には、耕作や削平の結果、溝状の部分が失われた畝跡が存在している可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。



第268図 第1号畝状遺構

12. グリッドピット

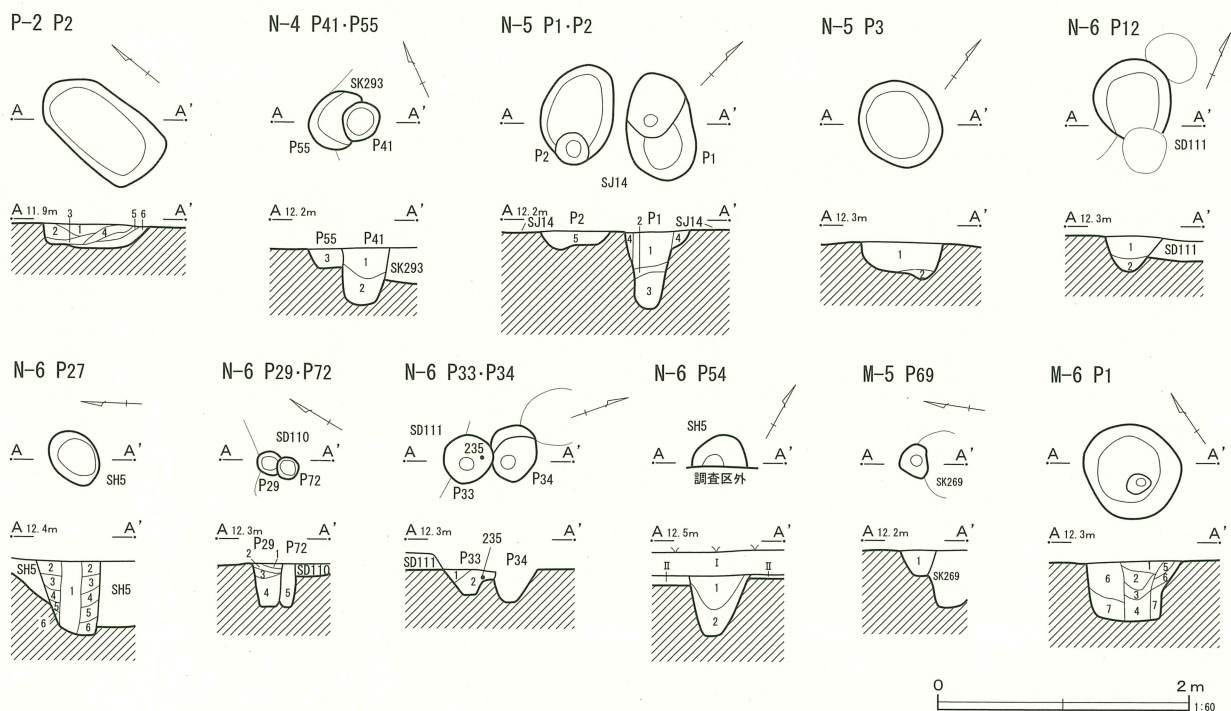
グリッドピットを一括して掲載する。

ピットの分布についてまず気付くのは、1つ目にピットの集中している部分と、少数しか分布していない部分があるという点である。この傾向はA・C区の両地点でみられる。A区のピット数はC区以上に多く、集中度も高い。C区では、西端部では僅かに分布するのみである。

2つ目は、ピットの密集する部分は、掘立柱建物跡の分布する範囲内、およびその周辺に多く認められるという点である。この傾向についてもA区で顕著である。逆な表現をするならば、ピット

の集中する範囲内で、ピット列を検出して掘立柱建物跡のプランを確定したことになる。そのため、ピット列として、掘立柱建物跡や柵列として特定できなかった柱穴も少なからず存在すると考えられる。この点については、C区も同様である。

また、11の畝状遺構の項で述べたように、畝状遺構の溝の部分が失われ、ピット状の窪みのみが残され、グリッドピット扱いになっている可能性も考えられる。しかし、大多数のピットについては性格が特定できなかった。



- P-2 P2**
 1 褐色土 焼土粒・炭化物微量
 2 褐色土 暗褐色土ブロック多
 3 暗褐色土 灰褐色土ブロックやや多
 4 暗褐色土 灰褐色土ブロック多
 5 暗褐色土 褐色土ブロック・灰褐色土ブロック少
 6 灰色土 暗褐色土ブロックやや多

- N-4 P41・P55**
 1 暗褐色土 ローム粒多
 2 暗褐色土 ロームブロック少
 3 暗褐色土 ローム粒多

- N-5 P1・P2**
 1 黒褐色土 焼土粒微量
 2 黒褐色土 黄褐色土ロームブロック少
 3 暗黄褐色土 黄褐色土ロームブロック多
 4 黄褐色土 黄褐色土ロームブロック主体層
 5 黒褐色土 ローム粒少

- N-5 P3**
 1 黒褐色土 ロームブロック少
 2 暗黄褐色土 ロームブロック多

- N-6 P12**
 1 黒褐色土 地山粒少
 2 黒褐色土 地山粒・地山ブロック少

- N-6 P27**
 1 暗褐色土 地山粒少 柱痕跡
 2 暗褐色土 地山粒・地山ブロック少
 3 暗黄褐色土 地山粒・地山ブロック多
 4 暗褐色土 地山粒・地山ブロック少
 5 暗褐色土 しまり強 粘性弱
 6 暗黄褐色土 地山粒・地山ブロック極多

- N-6 P29-72**
 1 黒褐色土 地山ブロック・炭化物少
 2 暗褐色土 地山ブロックやや多 炭化物少
 3 暗褐色土 地山ブロック多 焼土粒少
 4 暗褐色土 地山ブロック・焼土粒少
 5 暗黄褐色土 地山ブロック極多

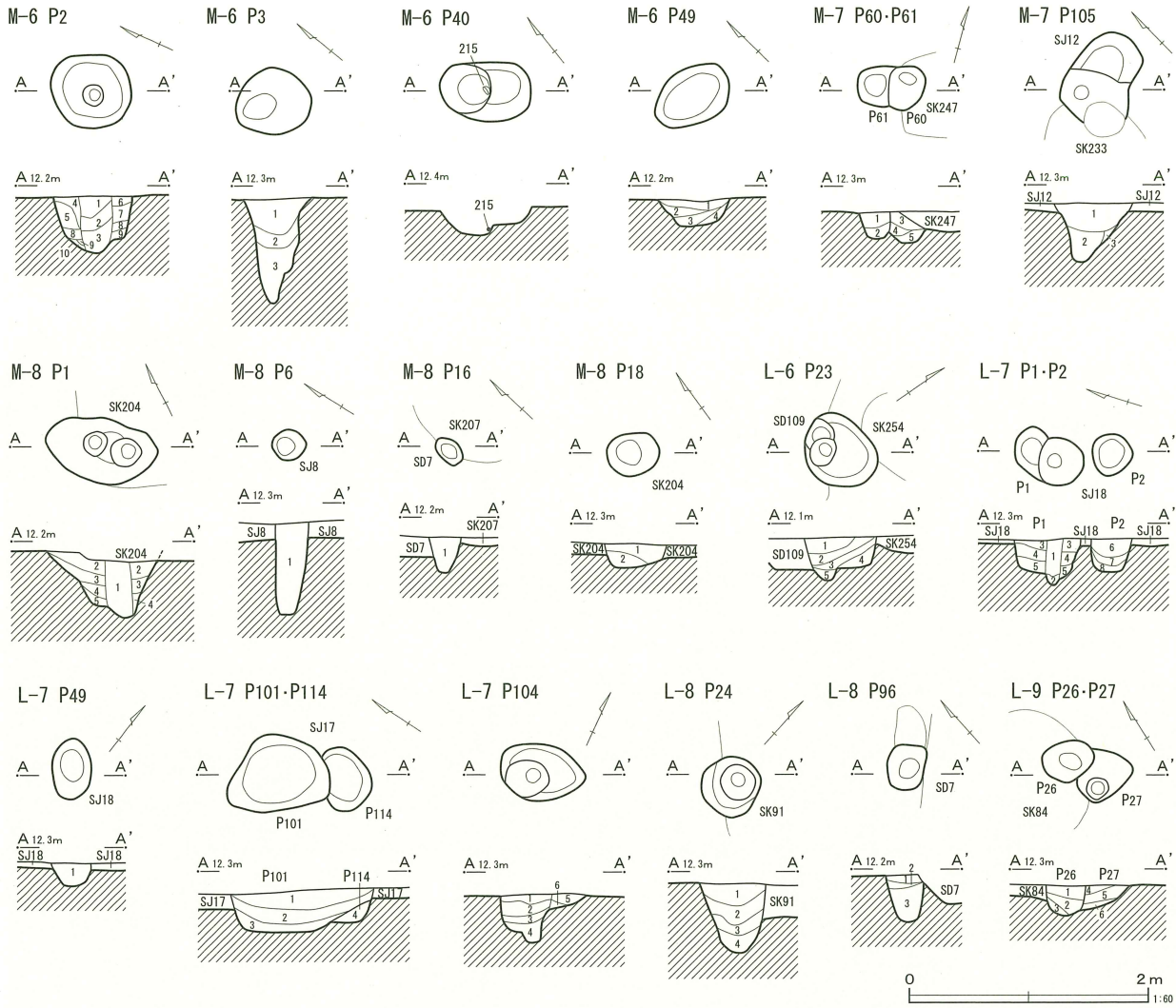
- N-6 P33**
 1 暗褐色土 焼土ブロック微量 炭化物少
 2 暗黄褐色土 焼土ブロック微量 炭化物少

- N-6 P54**
 I 耕作土
 II 暗褐色土 遺物包含層 炭化物微量
 1 黒褐色土 焼土ブロック・地山ブロック少
 2 暗褐色土 地山粒・地山ブロック少

- M-5 P69**
 1 褐色土 粘土粒微量

- M-6 P1**
 1 暗褐色土 焼土粒微量
 2 暗黄褐色土 地山ブロック多
 3 暗褐色土 地山ブロック少
 4 暗褐色土 地山ブロックやや多
 5 暗褐色土 地山ブロック微量
 6 黒褐色土 地山ブロック微量 焼土ブロック少
 7 黒褐色土 地山ブロック微量 炭化物少

第269図 グリッド・ピット (1)



- M-6 P2**
 1 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物微量
 2 暗褐色土 炭化物少
 3 暗褐色土 炭化物少
 4 暗褐色土 焼土ブロック微量
 5 黒褐色土 炭化物少
 6 黄褐色土 地山ブロック極多
 7 黒褐色土 焼土ブロック微量
 8 黄褐色土 地山ブロック極多
 9 暗褐色土 地山ブロック少
 10 暗褐色土 地山ブロック少

- M-6 P3**
 1 暗褐色土 焼土粒微量
 2 暗褐色土 焼土ブロック少
 3 暗褐色土 焼土ブロックやや多

- M-6 P49**
 1 黒褐色土 炭化物少
 2 暗黄褐色土 地山ブロック多
 3 暗褐色土 地山ブロック少
 4 暗黄褐色土 地山ブロック多

- M-7 P60-61**
 1 暗褐色土 焼土ブロック少
 2 暗褐色土 炭化物少
 3 暗褐色土 炭化物ブロック少
 4 暗褐色土 炭化物ブロックやや多
 5 暗黄褐色土 炭化物ブロックやや多

- M-7 P105**
 1 黒褐色土 焼土粒少
 2 黒灰色土 地山ブロック多
 3 暗黄褐色土 地山ブロック極多

- M-8 P1**
 1 黒褐色土 焼土粒微量 柱痕跡
 2 暗褐色土 焼土ブロック微量
 3 暗黄褐色土 地山ブロック多
 4 暗褐色土 地山ブロック少
 5 暗褐色土 地山ブロック少

- M-8 P6**
 1 黒褐色土 地山ブロック少

- M-8 P16**
 1 暗褐色土 地山粒少 近世ビット

- M-8 P18**
 1 黒褐色土 炭化物微量
 2 暗黄褐色土 炭化物微量

- L-6 P23**
 1 黒褐色土 地山粒少
 2 黒褐色土 地山ブロック少
 3 暗褐色土 地山ブロック・焼土粒少
 4 暗褐色土 地山ブロック少 焼土粒微量
 5 暗黄褐色土 地山ブロックやや多

- L-7 P1-2**
 1 黒褐色土 焼土ブロック・炭化物微量 柱痕跡
 2 暗黄褐色土 地山ブロック多
 3 暗褐色土 焼土ブロック少
 4 暗褐色土 炭化物やや多
 5 暗黄褐色土 炭化物やや多
 6 暗褐色土 炭化物少
 7 黒褐色土 炭化物少
 8 暗褐色土 炭化物少

- L-7 P49**
 1 暗褐色土 地山ブロックやや多

- L-7 P101-114**
 1 黒褐色土 焼土ブロック・炭化物ブロックやや多
 2 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物ブロック少
 3 暗褐色土 地山ブロックやや多
 4 黒褐色土 焼土ブロック・炭化物ブロックやや多

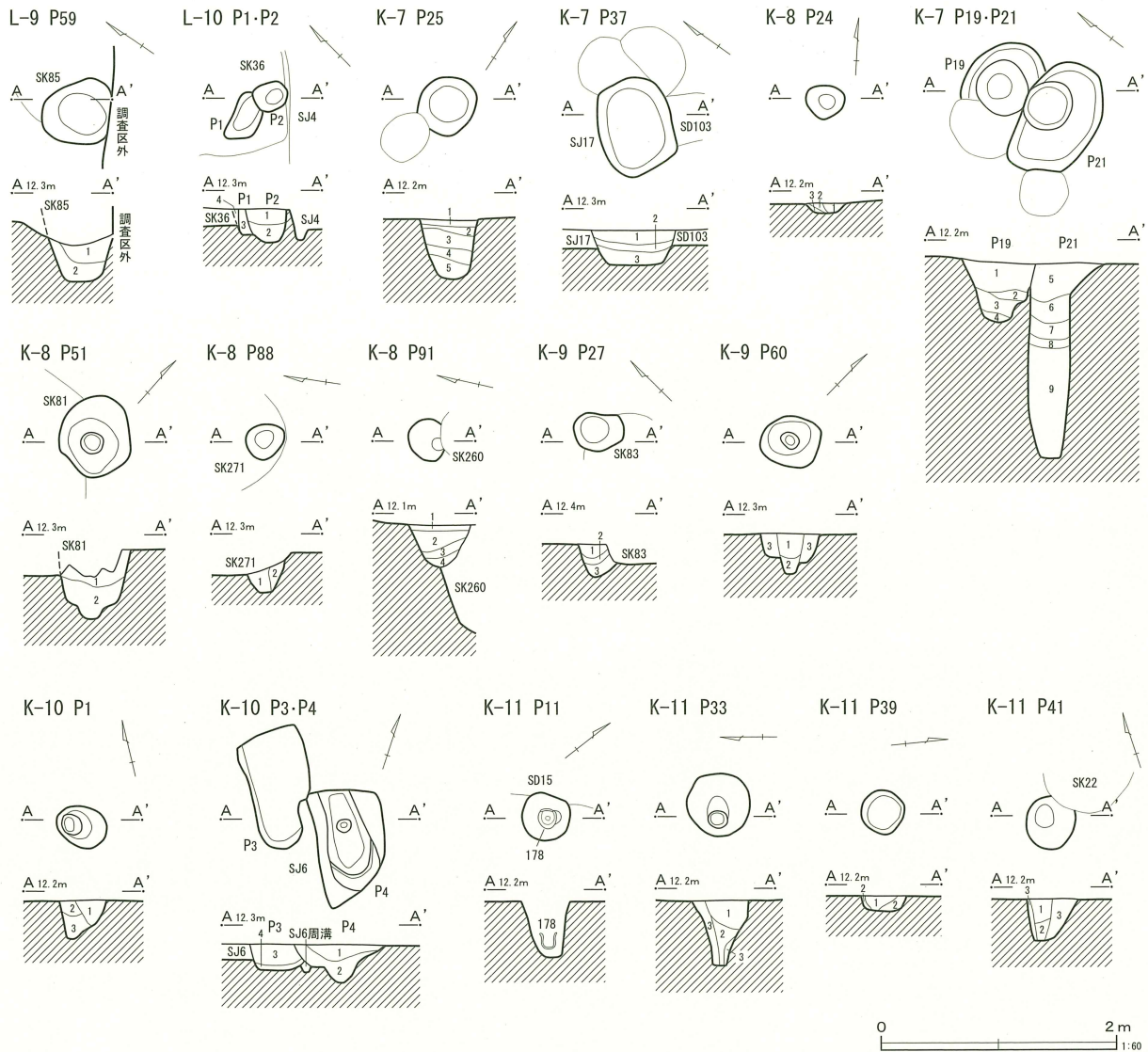
- L-7 P104**
 1 暗褐色土 炭化物微量
 2 暗褐色土 炭化物微量
 3 暗黄褐色土 炭化物微量
 4 暗褐色土 炭化物微量
 5 暗褐色土 炭化物少
 6 暗黄褐色土 炭化物微量

- L-8 P24**
 1 暗褐色土 地山ブロック若干
 2 黒褐色土 地山ブロックやや多
 3 暗黄褐色土 地山ブロック多
 4 暗黄褐色土 地山ブロック極多

- L-8 P96**
 1 黒褐色土 焼土ブロック微量
 2 黒褐色土 焼土ブロック少
 3 暗褐色土 地山ブロックやや多

- L-9 P26-P27**
 1 暗褐色土 炭化物微量
 2 暗褐色土 炭化物微量
 3 暗黄褐色土 炭化物微量
 4 暗褐色土 炭化物微量
 5 暗褐色土 炭化物微量
 6 暗黄褐色土 炭化物微量

第270図 グリッド・ピット (2)



L-9 P59

- 1 暗褐色土 炭化物少
- 2 暗黄褐色土 地山ブロック多

L-10 P1・2

- 1 灰暗褐色土 黄褐色土ブロック多
- 2 暗黄褐色土 黄褐色土ブロック主体
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒微量
- 4 暗黄褐色土 黄褐色土主体層

K-7 P19・21

- 1 暗褐色土 粘土ブロック・焼土ブロック少
- 2 暗褐色土 粘土ブロック多
- 3 暗褐色土 粘土ブロック少
- 4 暗褐色土 粘土ブロック少
- 5 暗褐色土 粘土ブロック少
- 6 暗褐色土 粘土ブロック微量 炭化物少
- 7 暗褐色土 粘土ブロック多
- 8 暗褐色土 粘土ブロック少
- 9 黒褐色土 粘土ブロック少

K-7 P25

- 1 暗褐色土 粘土ブロック少
- 2 黄褐色土 暗褐色土をブロック状に少
- 3 暗褐色土 粘土ブロック多
- 4 暗褐色土 粘土ブロック少
- 5 黄褐色土 粘土・暗褐色土の混土層

K-7 P37

- 1 暗褐色土 焼土粒・地山粒やや多
- 2 黒褐色土 焼土粒やや多 炭化物ブロック多
- 3 暗黄褐色土 地山ブロック極多 炭化物ブロック少

K-8 P24

- 1 暗褐色土 地山ブロック・地山粒少
- 2 暗褐色土 地山ブロックやや多 地山粒少
- 3 暗褐色土 地山ブロック・地山粒少

K-8 P51

- 1 暗褐色土 地山粒・地山ブロック少
- 2 暗黄褐色土 地山粒・地山ブロック多

K-8 P88

- 1 黒褐色土 粘土ブロック少 柱抜取痕
- 2 黒褐色土 粘土ブロック多

K-8 P91

- 1 暗褐色土 粘土粒を均質に少
- 2 黒褐色土 粘土粒少
- 3 黒褐色土 粘土粒やや多
- 4 黒褐色土 粘土粒少

K-9 P27

- 1 暗褐色土 地山粒・地山ブロック少
- 2 暗黄褐色土 地山粒・地山ブロック多
- 3 暗黄褐色土 地山粒・地山ブロック少

K-9 P60

- 1 暗褐色土 地山ブロック少
- 2 黒褐色土 地山ブロック多
- 3 暗褐色土 地山ブロック・焼土粒少

K-10 P1

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロックやや多
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック多
- 3 黒褐色土 黄褐色土粒微量

K-10 P3・P4

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック微量
- 2 黒褐色土 黄褐色土ブロック少
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック微量
- 4 黒褐色土 黄褐色土ブロック少

K-11 P33

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒微量
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロックやや多
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒多

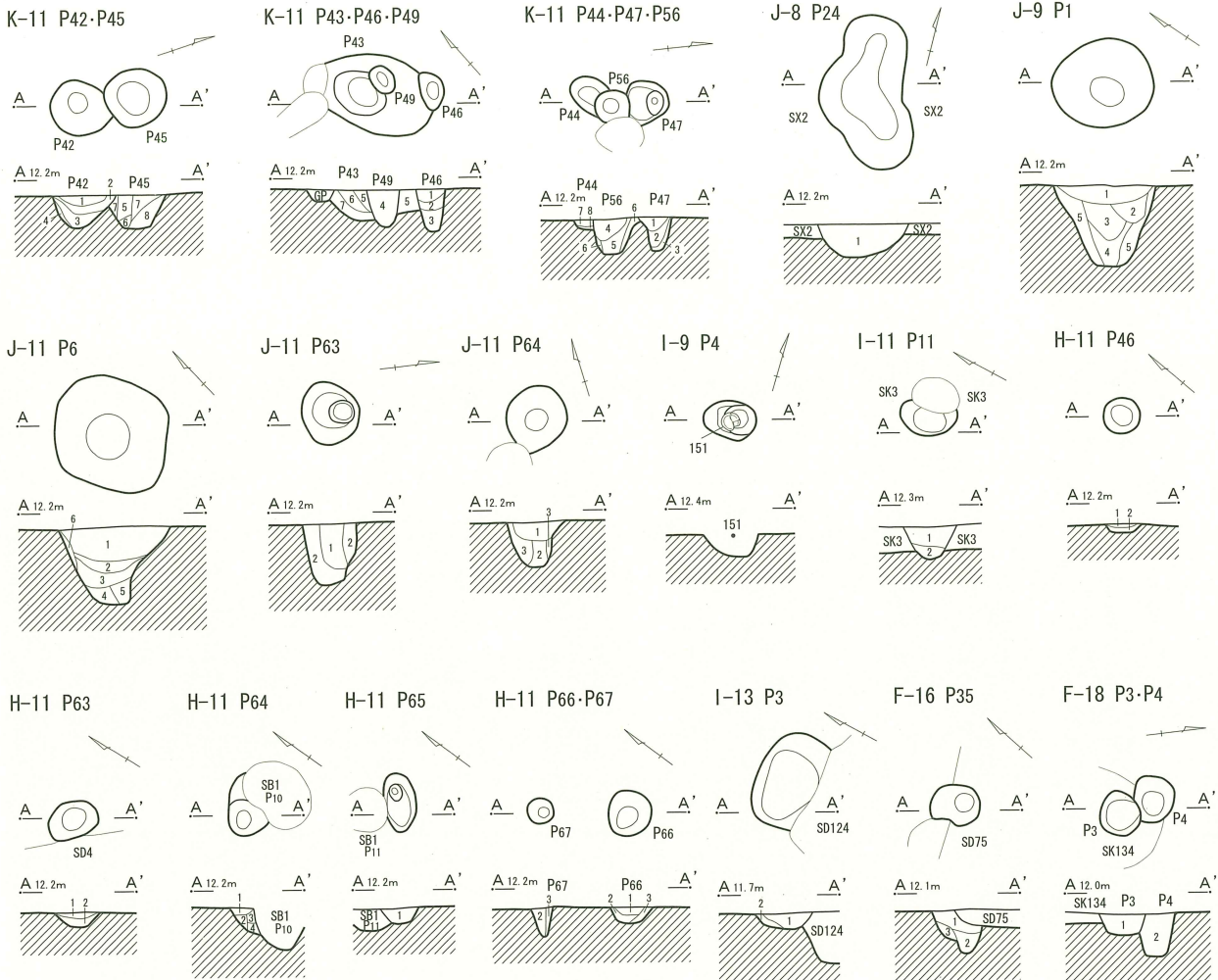
K-11 P39

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒多
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック多

K-11 P41

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロックやや多
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒微量
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒多

第271図 グリッド・ピット (3)



K-11 P42・P45

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック多
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロックやや多
- 3 黒褐色土 黄褐色土粒微量
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒多
- 5 暗褐色土 黄褐色土ブロックやや多
- 6 暗褐色土 黄褐色土ブロック多
- 7 黒褐色土 黄褐色土粒微量
- 8 暗褐色土 黄褐色土粒多

K-11 P43・P46・P49

- 1 黒褐色土 ロームブロック多
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロックやや多
- 3 黒褐色土 黄褐色土粒微量
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒多
- 5 黒褐色土 黄褐色土粒微量
- 6 暗褐色土 黄褐色土粒多
- 7 暗褐色土 黄褐色土ブロック多

K-11 P44・P47・P56

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロックやや多
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒微量
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒多
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロックやや多
- 5 黒褐色土 黄褐色土粒微量
- 6 暗褐色土 黄褐色土粒多
- 7 暗褐色土 黄褐色土ブロック多
- 8 黒褐色土 ロームブロック多

J-8 P24

- 1 黒褐色土 炭化木片やや多

J-9 P1

- 1 褐色土 黒色土主体層
- 2 黒褐色土 均質
- 3 黒褐色土 黄褐色土ブロック少
- 4 灰褐色土 灰褐色土主体層
- 5 灰褐色土 灰褐色土主体層

J-11 P6

- 1 黒褐色土 地山ブロック少
- 2 黒褐色土 地山ブロック微量
- 3 黒褐色土 地山粒微量
- 4 暗褐色土 地山粒多
- 5 黒褐色土 黒色土ブロック少
- 6 黄褐色土 地山粒流れ込み土

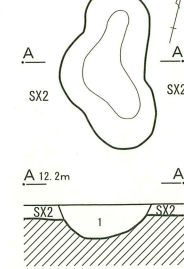
J-11 P63

- 1 黒褐色土 ロームブロック多
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒多

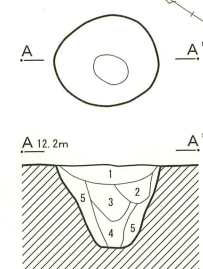
J-11 P64

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロックやや多
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒微量
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒多

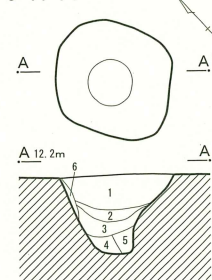
J-8 P24



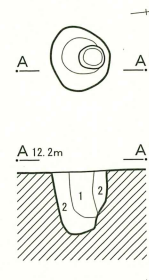
J-9 P1



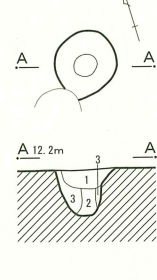
J-11 P6



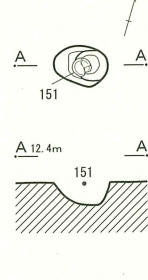
J-11 P63



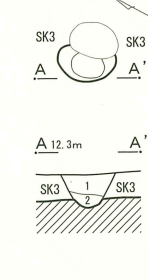
J-11 P64



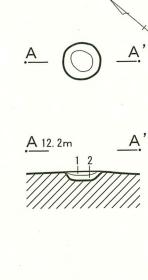
I-9 P4



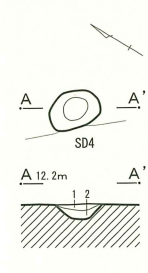
I-11 P11



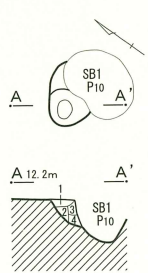
H-11 P46



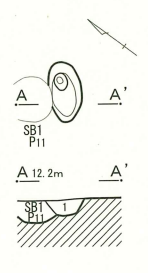
H-11 P63



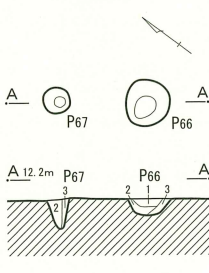
H-11 P64



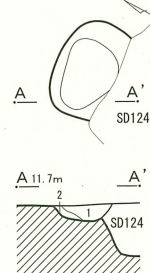
H-11 P65



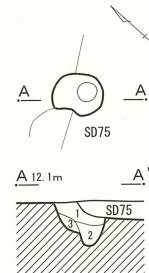
H-11 P66・P67



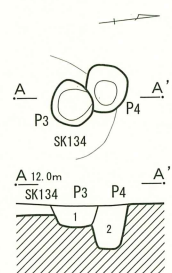
I-13 P3



F-16 P35



F-18 P3・P4



I-11 P11

- 1 暗褐色土 焼土粒微量
- 2 暗褐色土 地山ブロック多
- 3 暗褐色土 地山ブロック少

H-11 P46・P63~P67

- 1 暗褐色土 黄褐色ブロック
- 2 黒褐色土 黄褐色ブロック微量 柱痕跡
- 3 暗黄褐色土 黄褐色ブロック
- 4 暗黄褐色土 黄褐色ブロック主体

I-13 P3

- 1 暗褐色土 褐色土ブロック微量 炭化物やや多
- 2 褐色土 褐色土ブロック多 灰褐色土ブロック多

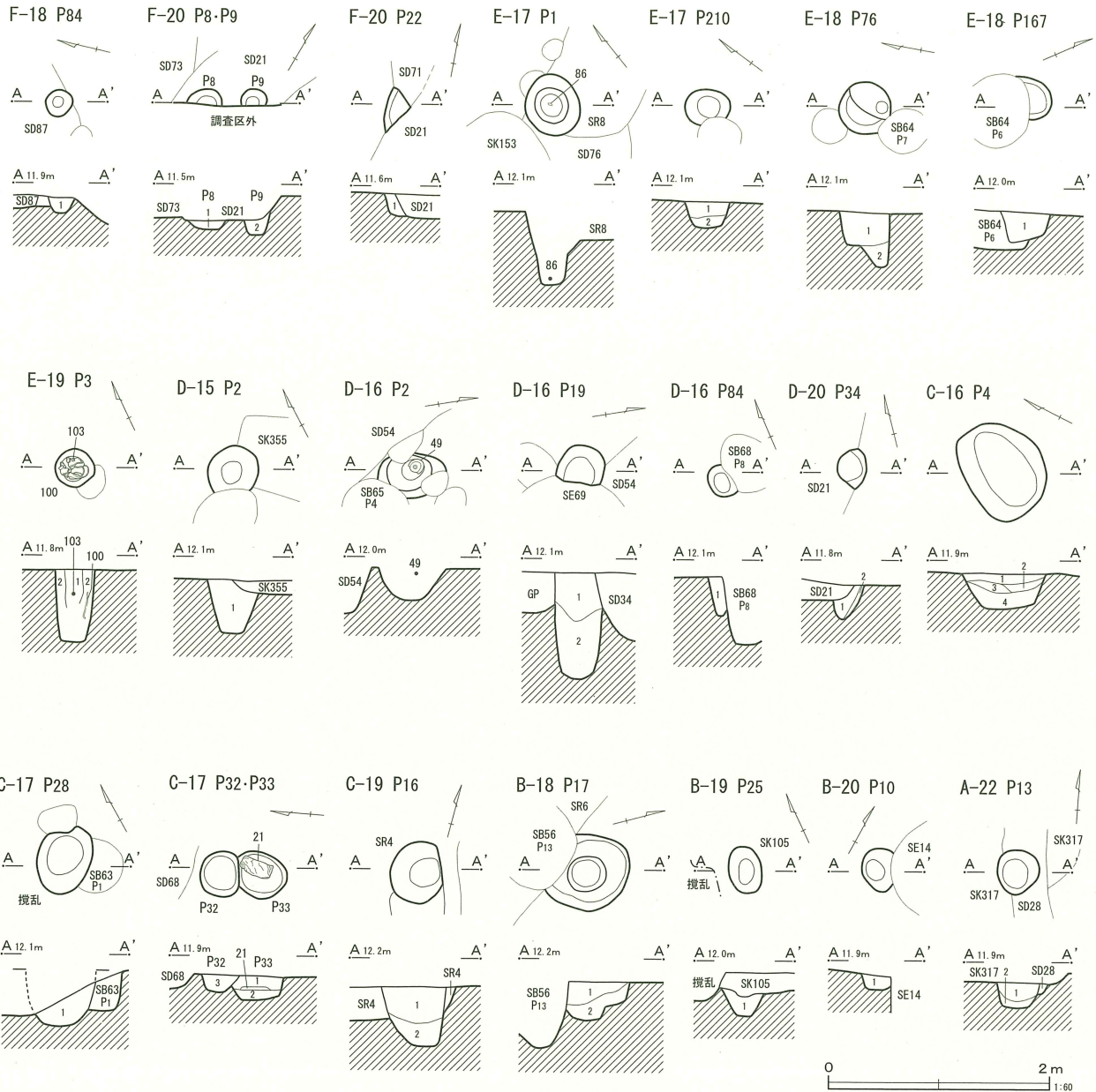
F-16 P35

- 1 黒褐色土 粘土ブロック少
- 2 暗褐色土 粘土ブロック微量
- 3 黒褐色土 粘土ブロック多

F-18 P3・P4

- 1 黒褐色土 粘土ブロック均質に少
- 2 暗褐色土 粘土ブロック少

第272図 グリッド・ピット (4)



F-18 P84
1 黒褐色土 黄褐色粘土粒やや多

F-20 P8・P9
1 黒褐色土 褐色粘土やや多
2 暗灰色土 褐色粘土・炭化物微量

F-20 P22
1 黒色土 褐色粘土粒少

E-17 P77
1 暗褐色土 粘土粒多
2 黒褐色土 粘土粒やや多

E-17 P210
1 黒褐色土 黄褐色粘土やや多
褐色粘土少
2 黒褐色土 黄褐色粘土多

E-18 P167
1 暗褐色土 黄褐色粘土少

E-19 P3
1 黒褐色土 粘土粒少 柱抜取痕か
2 黒褐色土 粘土粒微量

D-15 P2
1 褐色土 粘土粒多

D-16 P19
1 暗褐色土 粘土ブロック少
2 暗褐色土 粘土ブロック多

D-16 P84
1 暗褐色土 黒色土ブロック多

D-20 P34
1 黒褐色土 粘土ブロック少
2 暗褐色土 粘土ブロック多

C-16 P4
1 灰褐色土 粘土ブロック少
2 灰褐色土 暗褐色土ブロック少
3 灰褐色土 粘土ブロック・暗褐色土ブロック少
4 暗褐色土 粘土ブロック少

C-17 P28
1 暗褐色土 褐色粘土粒微量

C-17 P32・P33
1 褐色土 粘土ブロック多 埋戻し土
2 褐色土 粘土ブロック少
3 褐色土 粘土ブロック多

C-19 P16
1 黒褐色土 粘土粒少
2 黒褐色土 粘土粒少

C-18 P17
1 暗褐色土 褐色粘土やや多
2 暗褐色土 褐色粘土少

B-19 P25
1 黒色土 粘土粒少

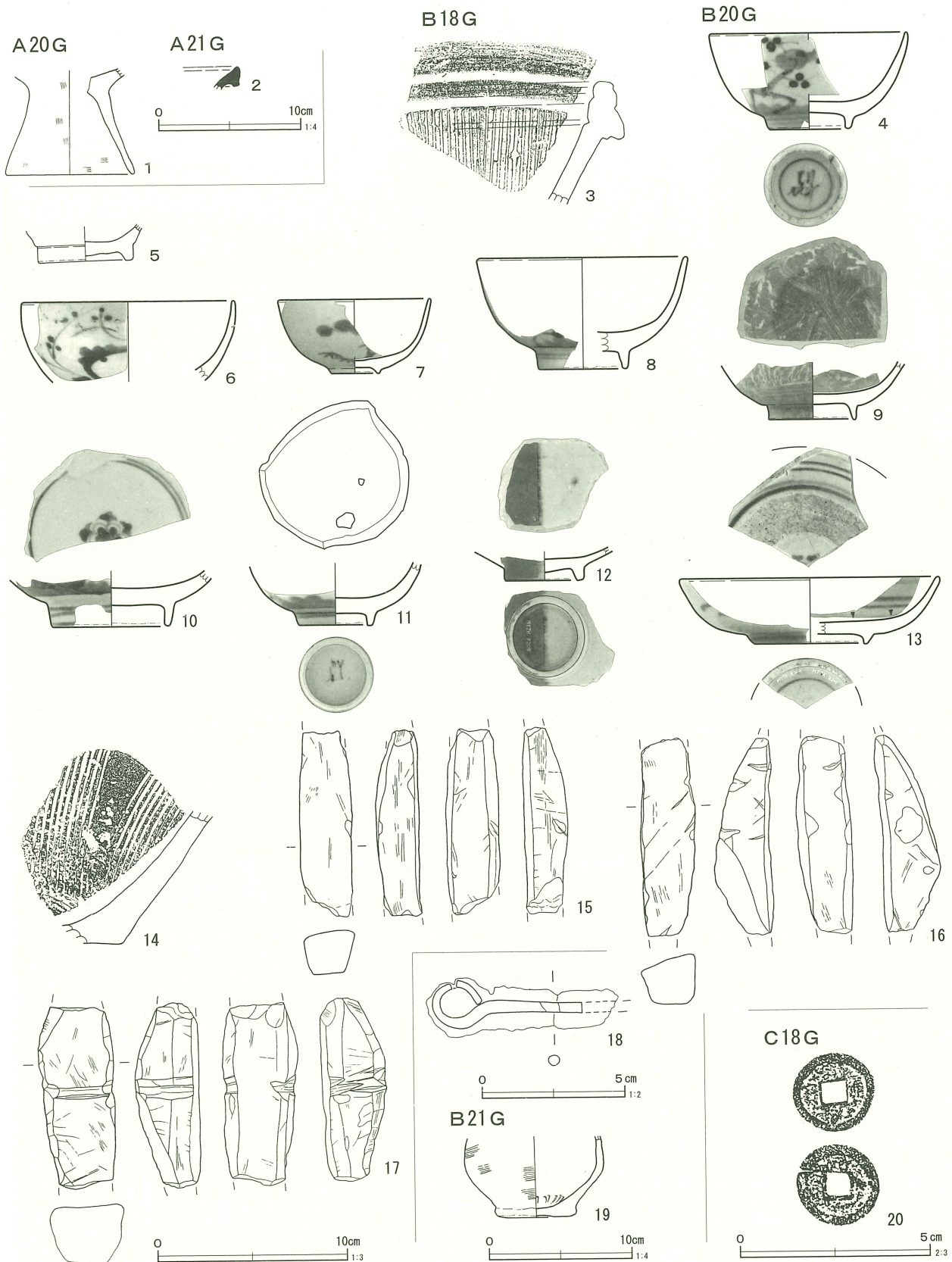
B-20 P10
1 黒褐色土 粘土粒多

A-22 P13
1 灰褐色土 炭化物・地山ブロック少
2 暗褐色土 炭化物・地山ブロック少

第273図 グリッド・ピット (5)

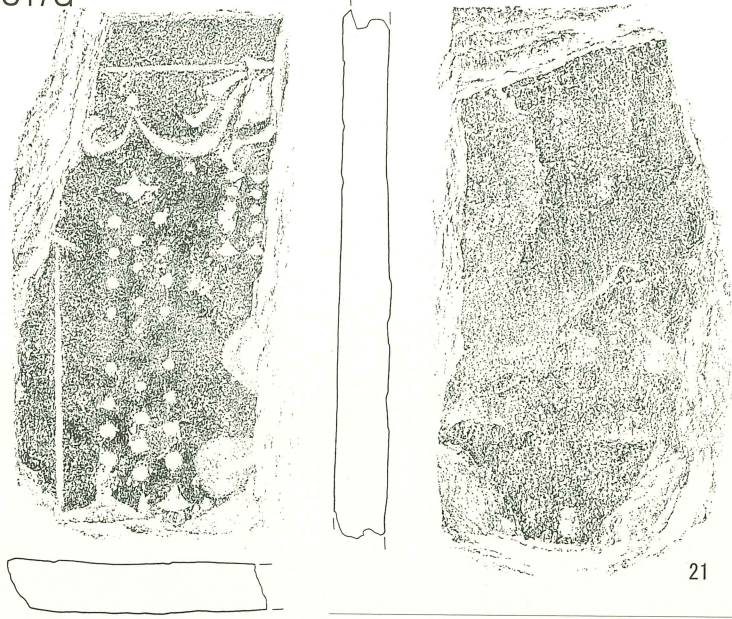
13. グリッド出土遺物

グリッド出土遺物を一括して掲載する。

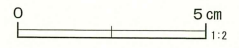
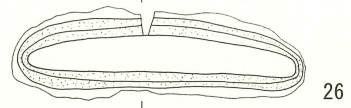
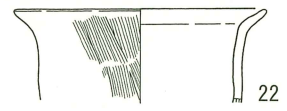


第274図 グリッド出土遺物 (1)

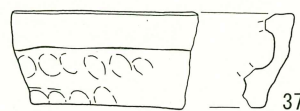
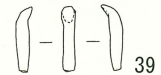
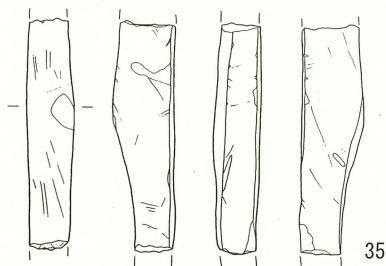
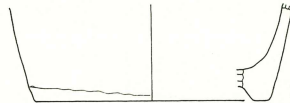
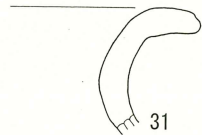
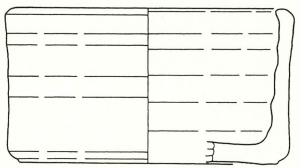
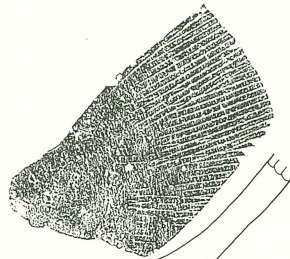
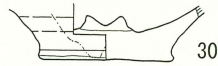
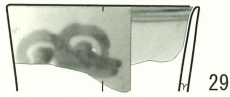
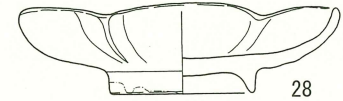
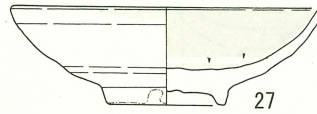
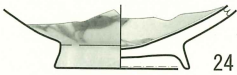
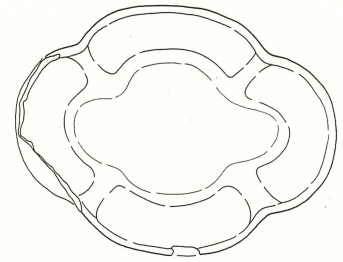
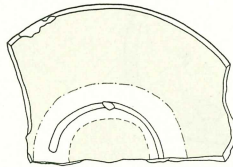
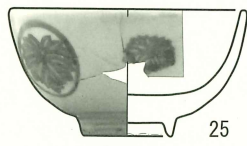
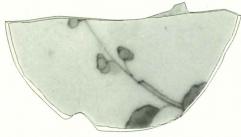
C17G



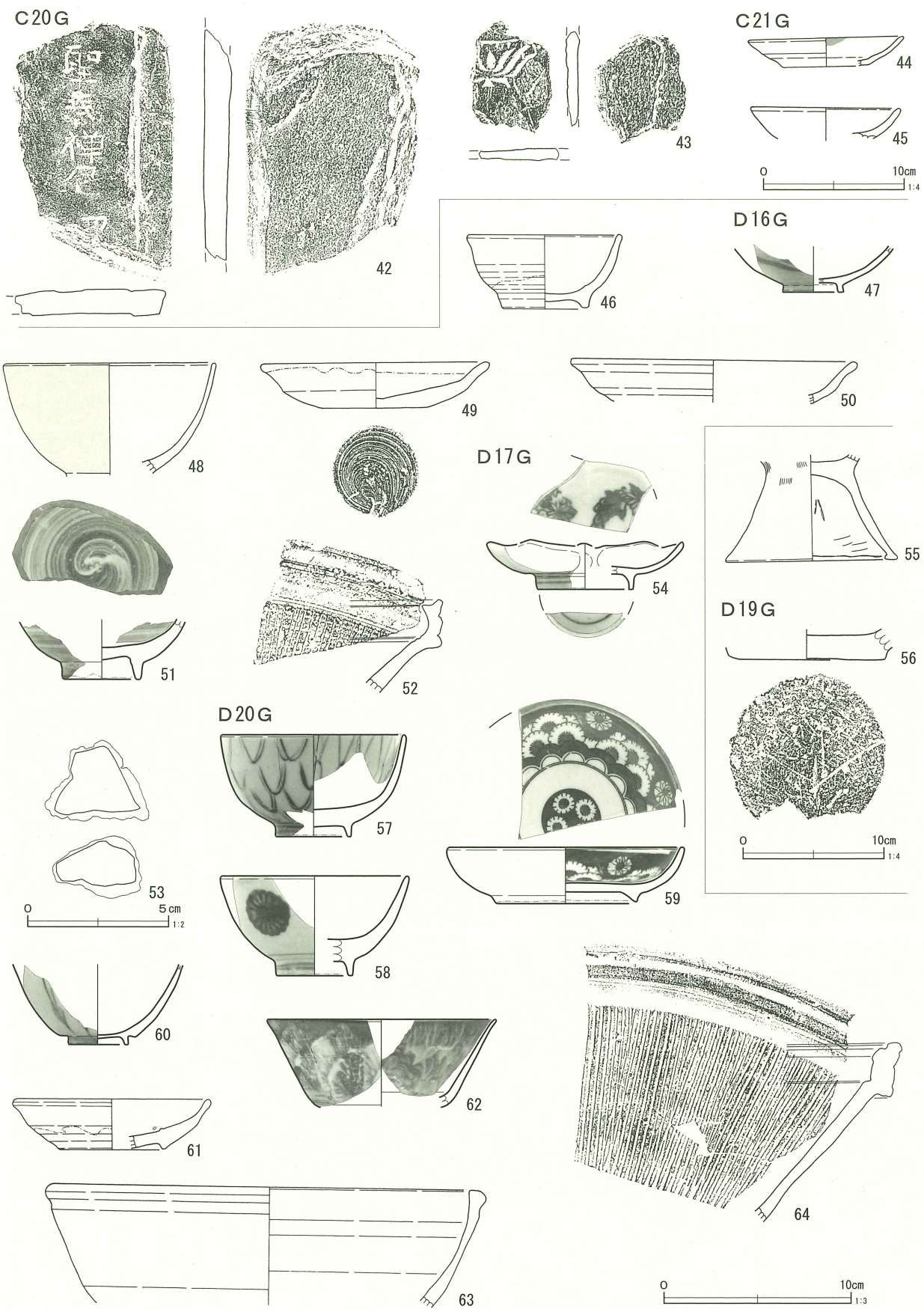
C19G



C20G

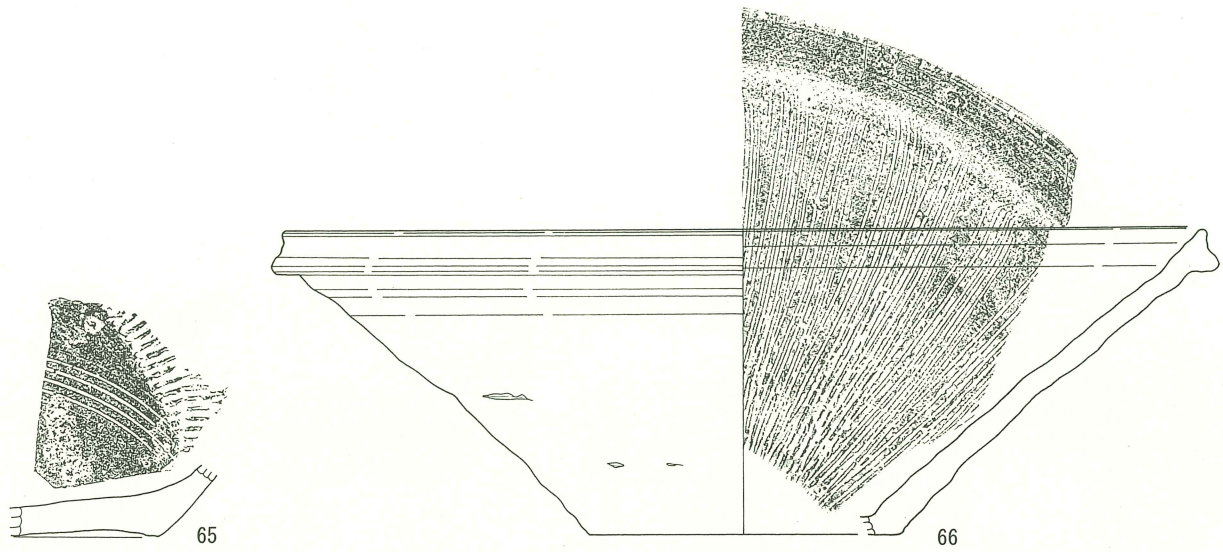


第275図 グリッド出土遺物 (2)

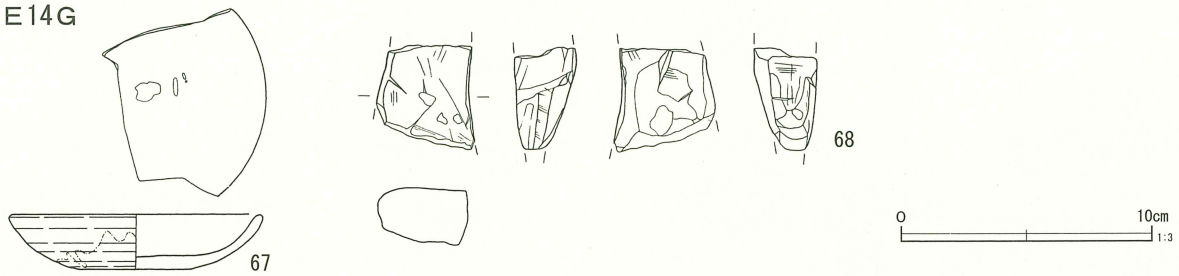


第276図 グリッド出土遺物 (3)

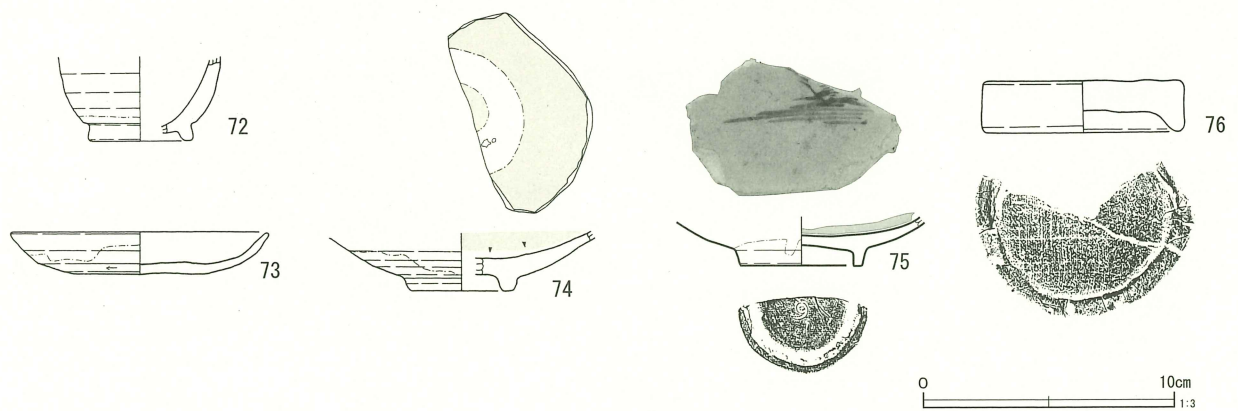
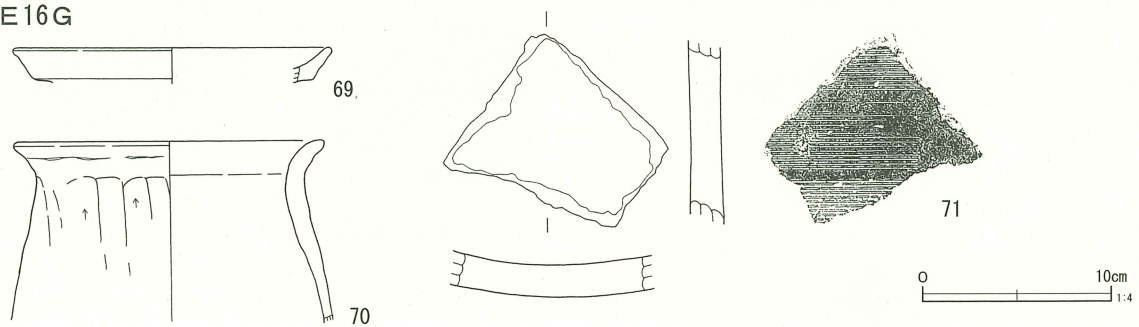
D20G



E14G



E16G



第277図 グリッド出土遺物（4）